



RX 350 / RX 270

取扱説明書



Welcome to Lexus

ようこそレクサスへ

安全、快適にお使いいただくため、本書をお読みください。



TABLE OF CONTENTS

目次

1	運転する前に	運転するまでに必要となる操作、ご注意が説明してあります。
2	運転するときに	走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。
3	室内装備の使い方	室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。
4	お手入れのしかた	お車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明してあります。
5	トラブルが起きたら	故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。
6	車両仕様	車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載してあります。
	さくいん	本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

1 運転する前に

1-1. キーの取扱い	
キー	24
1-2. ドアの開閉のしかた、 ロックのしかた	
スマートエントリー& スタートシステム	29
ワイヤレスリモコン	40
ドア	42
バックドア	46
1-3. シート、ミラー、ハンドルの 調整のしかた	
フロントシート	56
リヤシート	60
ドライビングポジション メモリー	64
ヘッドレスト	67
シートベルト	69
ハンドル	75
インナーミラー	77
ドアミラー	79
1-4. ドアガラス・ムーンルーフ・ 電動サンシェードの開け方、 閉め方	
パワーウインドウ	84
ムーンルーフ	88
電動サンシェード	93
1-5. 給油のしかた	
給油口の開け方	95

1-6. 盗難防止システム

エンジンモビライザー システム	99
オートアラーム	100

1-7. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢	106
SRS エアバッグ	108
子供専用シート	117
チャイルドシートの取り付け ...	125

2 運転するときに**2-1. 運転のしかた**

運転にあたって	134
エンジン（イグニッション） スイッチ	142
オートマチック トランスミッション	147
方向指示レバー	152
パーキングブレーキ	153
ホーン（警音器）	154

2-2. メーターの見方

計器類	155
表示灯／警告灯	158
マルチインフォメーション ディスプレイ	161
ヘッドアップディスプレイ	169

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの 使い方

ライトスイッチ	173
フォグライトスイッチ	176
ワイパー & ウォッシャー (フロント)	178
ワイパー & ウォッシャー (リヤ)	182

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール	184
レーダークルーズ コントロール	188
電子制御エア サスペンション	197
運転を補助する装置	203
AWD ロックモードスイッチ	209
ヒルスタートアシスト コントロール	210
ブリクラッシュセーフティ システム	212

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	218
寒冷時の運転	220

3 室内装備の使い方

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	224
・インテリアライト	225
・パーソナルライト	225

3-2. 収納装備の使い方

収納装備一覧	227
・グローブボックス	228
・ボトルホルダー／ ドアポケット	229
・カップホルダー	230
・コンソールボックス	233
・小物入れ	234
・アンダートレイ	235

3-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー	236
バニティミラー	237
アクセサリソケット／ アクセサリコンセント	238
シートヒーター & ベンチレーター	241
アームレスト	243
コートフック	244
フロアマット	245
ラゲージルーム内装備	246

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	252
内装の手入れ	255
タイヤについて	258

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	261
ガレージジャッキ	263
エンジンルームカバー	265
電球（バルブ）の交換	267
ヒューズの点検、交換	277
電子キーの電池交換	285
ウォッシャー液の補給	287

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

故障したときは.....	290
発炎筒	291
非常点滅灯	293
けん引について	294
イベントデータレコーダー	298

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは.....	300
警告メッセージが表示された ときは	304
パンクしたときは.....	319
エンジンがかからないときは ...	329
シフトレバーがシフトできない ときは	331
キーを無くしたときは.....	332
電子キーが正常に働かない ときは	333
バッテリーがあがったときは ...	336
オーバーヒートしたときは	339
スタックしたときは.....	341
車両を緊急停止するには	342

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料、オイル量など)	344
---------------------------------	-----

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	350
--------------------------	-----

6-3 初期設定

初期設定が必要な項目	355
------------------	-----

さくいん

略語一覧	358
------------	-----

五十音順さくいん	359
----------------	-----

症状別さくいん	367
---------------	-----

1

2

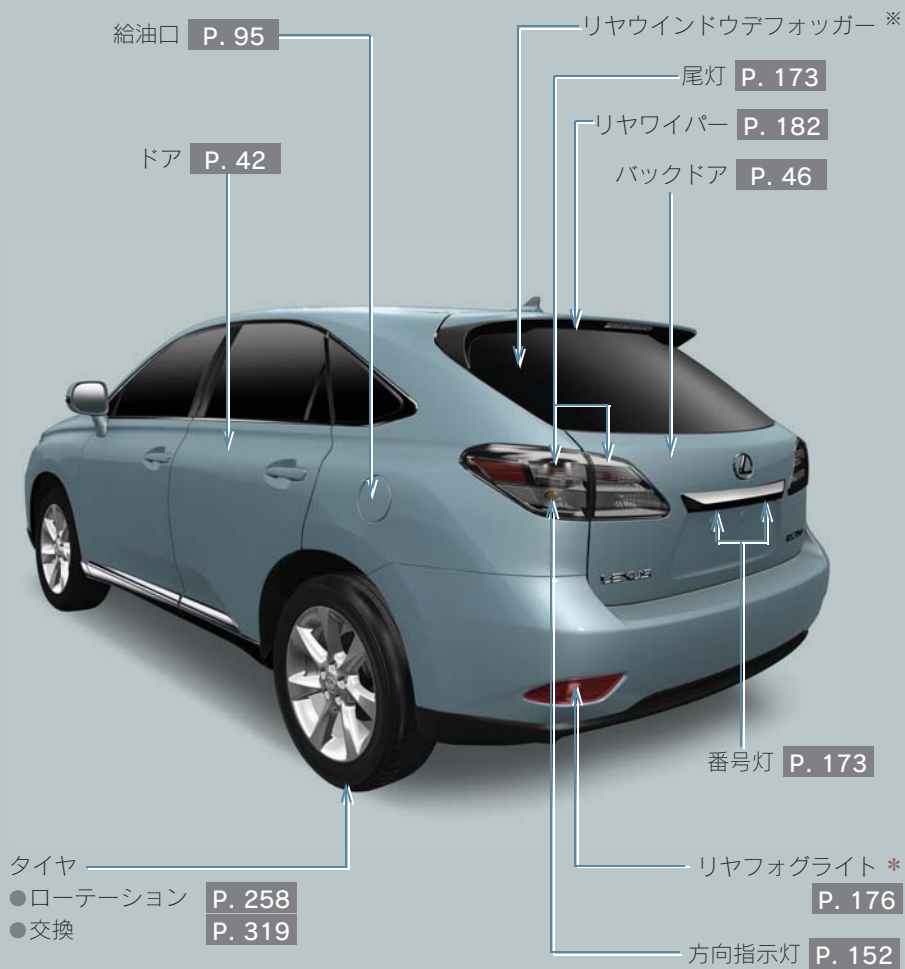
3

4

5

6





* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

室内

助手席 SRS エアバッグ P. 108

SRS ニーエアバッグ P. 108

アクセサリースOCKET P. 238

ドアポケット P. 229

ヘッドレスト P. 67

シートベルト P. 69



フロアマット P. 245

アクセサリーコンセント
P. 238

SRS リヤサイド
エアバッグ * P. 108

フロントシート P. 56

コンソールボックス
P. 233

リヤシート P. 60

AUX/USB 端子 ※

アクセサリースOCKET P. 238

カップホルダー P. 230

小物入れ * P. 234

SRS フロントサイド
エアバッグ P. 108

アームレスト P. 243

A

▶ ムーンルーフ装着車

インテリアライト P. 225

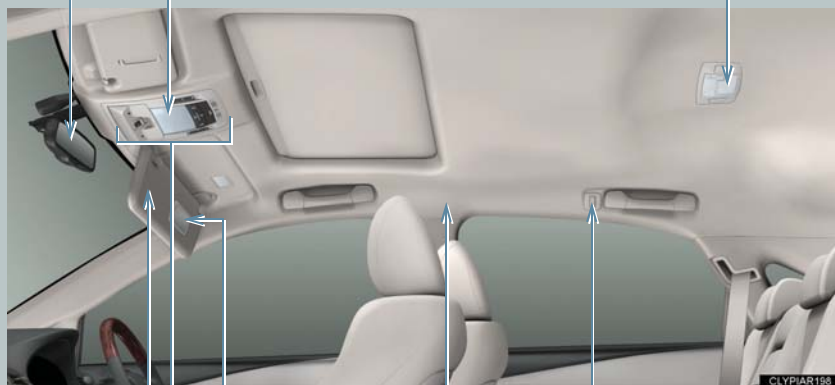
パーソナルライト P. 225

インナーミラー

P. 77

インテリアライト P. 225

パーソナルライト P. 225



バンティミラー P. 237

コートフック P. 244

SRS カーテンシールドエアバッグ P. 108

侵入センサー OFF スイッチ P. 101

ムーンルーフスイッチ P. 88

ヘルプネットスイッチパネル※

サンバイザー P. 236

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

A ▶ パノラマルーフ装着車

インテリアライト P. 225

パーソナルライト P. 225

インナーミラー

P. 77

インテリアライト P. 225

パーソナルライト P. 225



バニティミラー P. 237

コートフック P. 244

SRS カーテンシールドエアバッグ P. 108

侵入センサー OFF スイッチ P. 101

電動サンシェードスイッチ P. 93

ヘルプネットスイッチパネル※

サンバイザー P. 236

B

ドアロックレバー P. 42

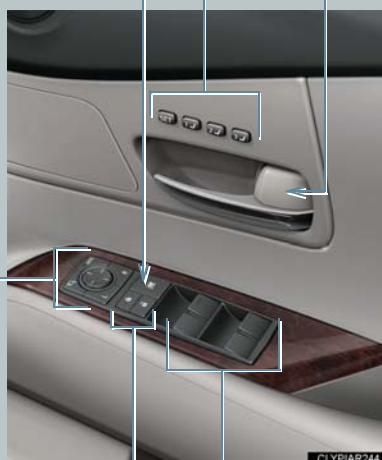
ドライビングポジションメモリースイッチ * P. 64

ウインドウロックスイッチ P. 84

ドアミラースイッチ P. 79

ドアロックスイッチ P. 42

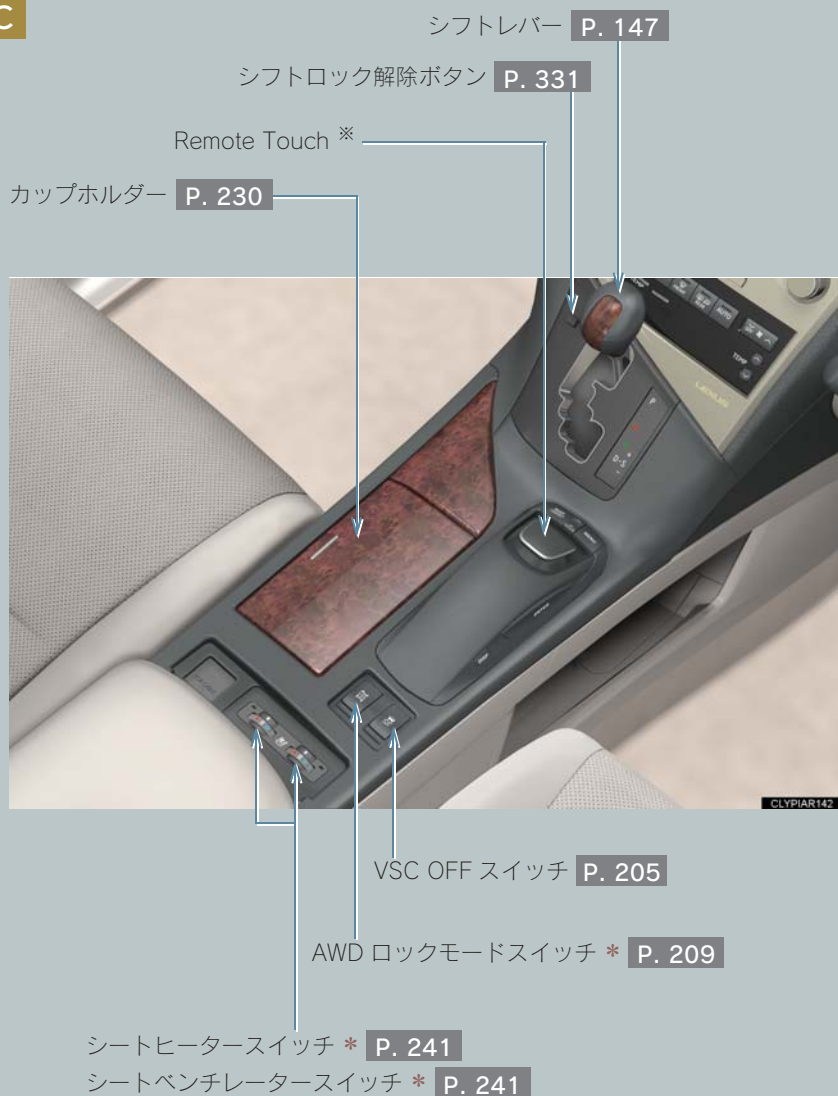
パワーウインドウスイッチ P. 84



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

C



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

インストルメントパネル

ワイパー&ウォッシャースイッチ P. 178

エンジン（イグニッション）
スイッチ P. 142

グローブボックス P. 228

パワーバックドア
メインスイッチ * P. 46

メーター P. 155

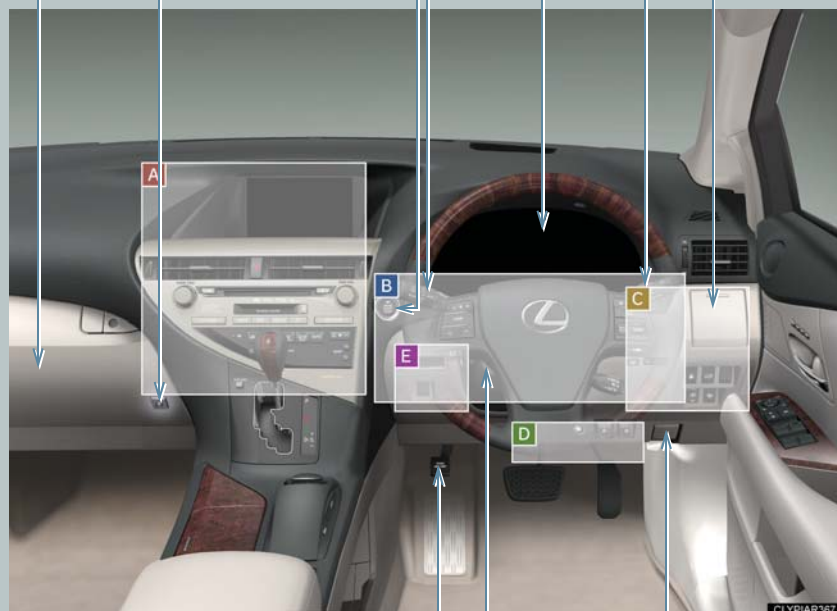
マルチインフォメーション
ディスプレイ P. 161

ライトスイッチ P. 173

方向指示レバー P. 152

フォグライトスイッチ P. 176

カップホルダー
P. 230



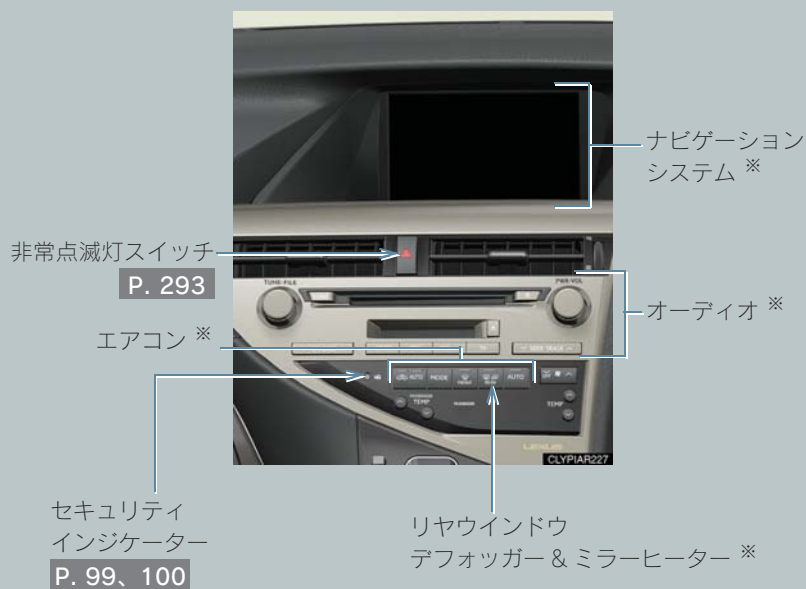
パーキングブレーキペダル P. 153

ハンドル位置調整スイッチ P. 75

ボンネット解除レバー
P. 261

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

A





* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

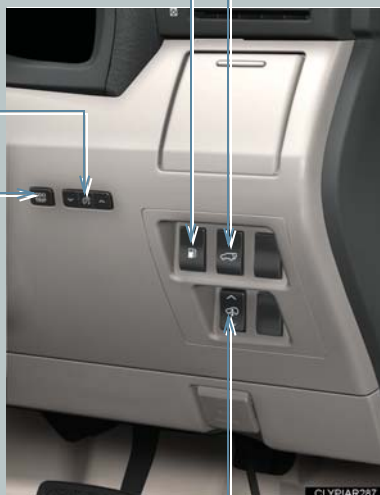
C

バックドアオープナー * P. 46

給油口オープナー P. 95

インストルメントパネル照度調整
スイッチ P. 156

ODO/TRIP スイッチ P. 156



車高切りかえスイッチ * P. 197

D



プリクラッシュブレーキ OFF スイッチ * P. 212

車高制御 OFF スイッチ * P. 197

E

表示輝度調整スイッチ * P. 169

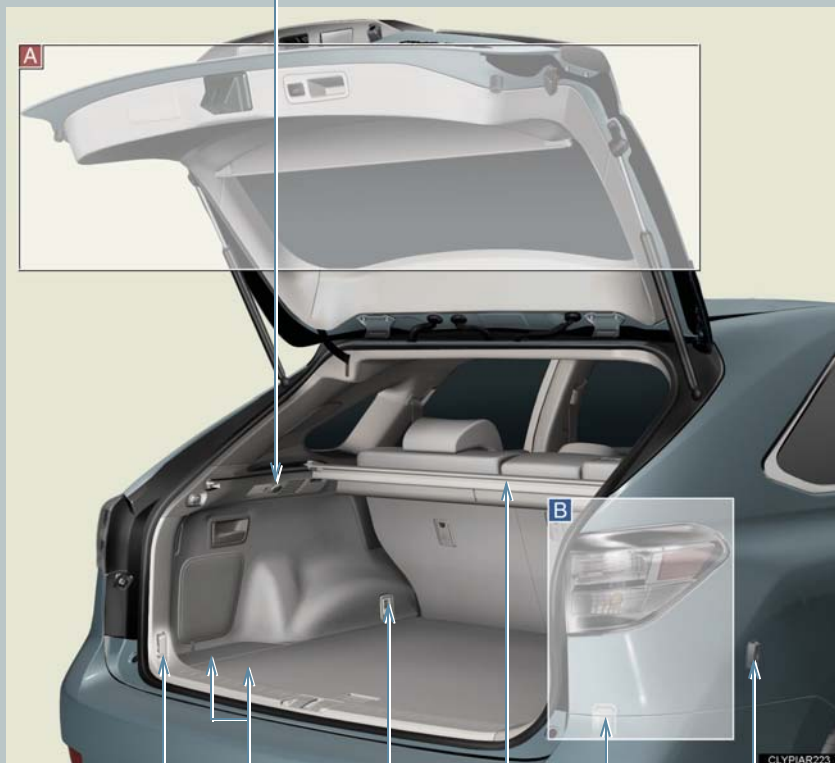
HUD メインスイッチ * P. 169

表示位置調整
スイッチ *
P. 169



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

アクセサリソケット P. 238



デッキアンダー
トレイ P. 246

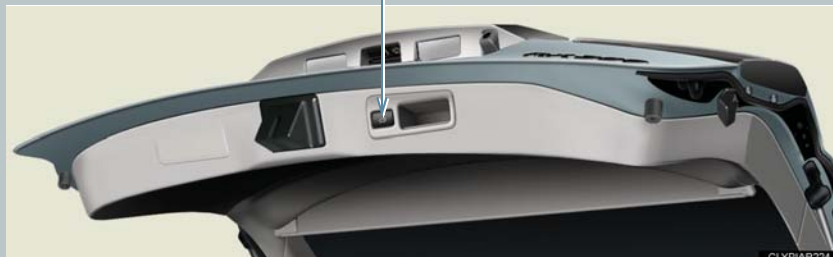
トノカバー
P. 246

デッキフック
P. 246

デッキフック P. 246

A

パワーバックドアクローズスイッチ * P. 46



B

ラゲージ
ルームライト
P. 46



リヤシート
リクライニング
レバー
P. 60

車高切りかえスイッチ * P. 197

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備や色と一致しない場合があります。

違法改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはS R Sエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 以下の場合はレクサス販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」（→P. 125）をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務づけられています。）

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

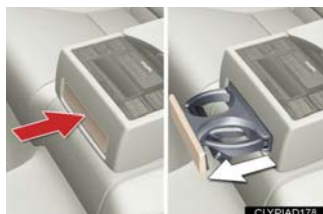
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について



セーフティーシンボル

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味を表しています。



操作を示す矢印

 スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

1-1. キーの取扱い

キー.....	24
---------	----

1-2. ドアの開閉のしかた、 ロックのしかた

スマートエントリー& スタートシステム	29
ワイヤレスリモコン	40
ドア.....	42
バックドア	46

1-3. シート、ミラー、ハンドルの 調整のしかた

フロントシート	56
リヤシート	60
ドライビングポジション メモリー	64
ヘッドレスト	67
シートベルト	69
ハンドル.....	75
インナーミラー	77
ドアミラー	79

1-4. ドアガラス・ムーンルーフ・ 電動サンシェードの開け方、 閉め方

パワーウインドウ.....	84
ムーンルーフ	88
電動サンシェード.....	93

1-5. 給油のしかた

給油口の開け方.....	95
--------------	----

1-6. 盗難防止システム

エンジンイモビライザー システム	99
オートアラーム.....	100

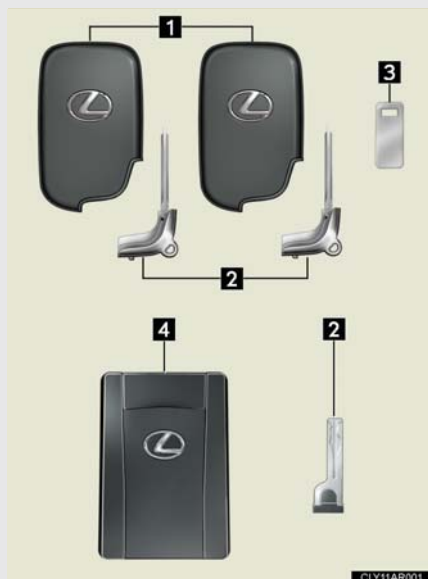
1-7. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢.....	106
SRS エアバッグ	108
子供専用シート.....	117
チャイルドシートの 取り付け	125

1-1. キーの取扱い

キー

お客様へ以下のキーをお渡しします。



1 電子キー

- ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 29)
- ・ ワイヤレス機能の作動 (→P. 40)

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

4 カードキー (電子キー)

スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 29)

メカニカルキーを使うには



メカニカルキーを取り出すには、下記の操作を行ってください。

電子キー：解錠レバーをスライドしてキーを取り出す

カードキー：解除ボタンを押してキーを取り出す

メカニカルキーがキーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きを覚えて挿し込んでください。片溝キーは、挿し込み方向に指定があります。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 333)

知識

■カードキーについて

- カードキー内蔵のメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。
- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。



- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



- 電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。

- カードキーは非防水です。

■ 駐車場などでキーを預けるときは

必要に応じてグローブボックスを施錠します。(→P. 228)

メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一、メカニカルキーを紛失した場合、レクサス販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。(→P. 332)

■ 航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

 注意**■ キーの故障を防ぐために**

以下のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ 電子キーについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■ キーを携帯するときは

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障等で販売店に車両を持っていくときは

車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。



注意

■ キーを紛失したときは

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

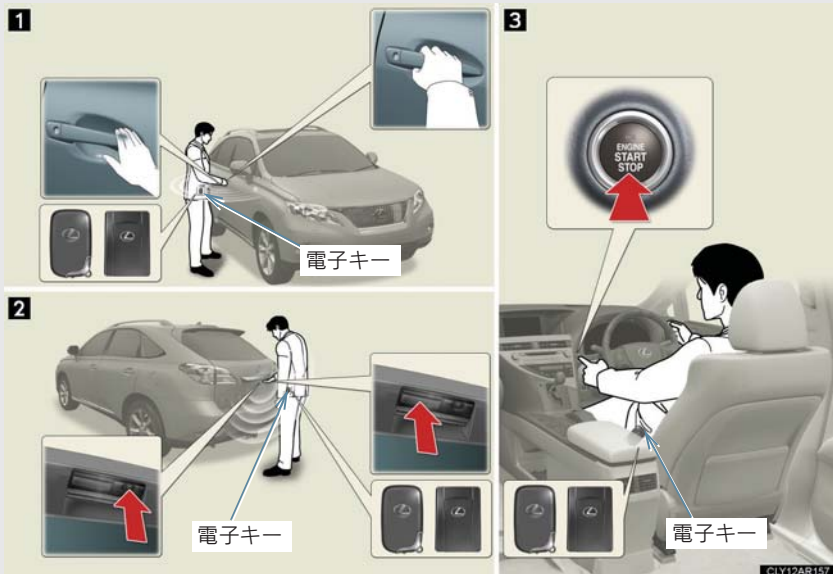
■ カードキー取り扱いの注意

- メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。
- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が錆びて作動しなくなるおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください。(電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください)。電池が錆びた場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。
- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 以下のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
 - ・ 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
 - ・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
 - ・ シンナーやベンジンでカードキーの表面を拭いたとき

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた スマートエントリー&スタートシステム

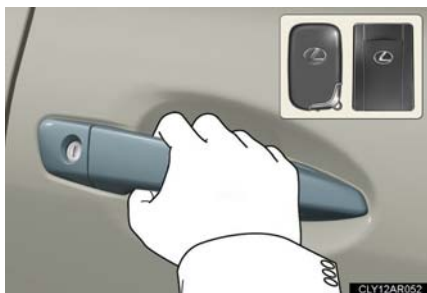
電子キー（カードキーを含む）をポケットなどに携帯していると、以下の操作が行えます。

（必ず運転者が携帯してください）



- 1 ドアを施錠・解錠する（→P. 30）
- 2 バックドアを施錠・解錠する（→P. 31）
- 3 エンジンを始動する（→P. 142）

ドアの解錠・施錠（フロント席ドアハンドルのみ）



ハンドルを握って解錠する

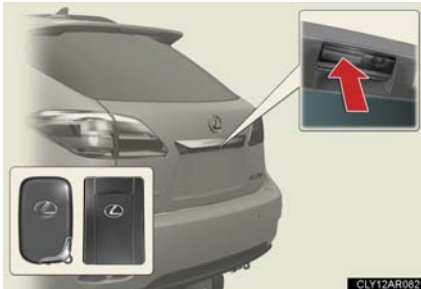
ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後3秒間は解錠できません。



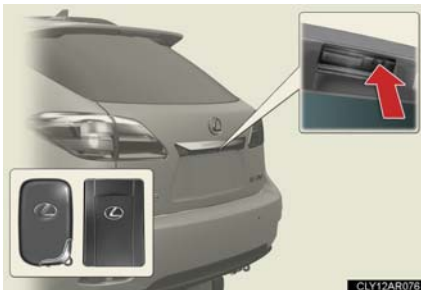
ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）に触れ施錠する

バックドアの解錠・施錠



バックドアオープンスイッチを押して解錠する

施錠操作後3秒間は解錠できません。



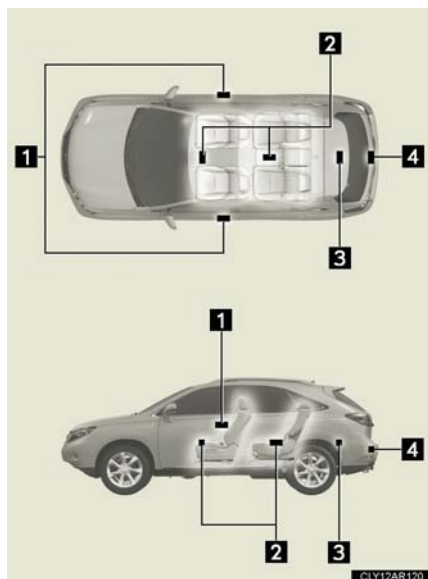
ロックスイッチを押して施錠する

1

運転する前に

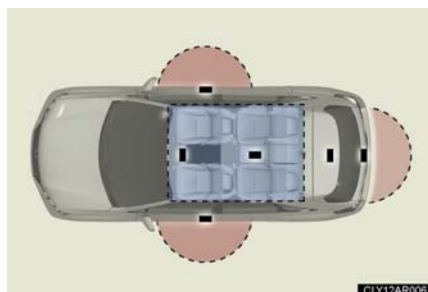
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置



- 1 車外アンテナ
- 2 車内アンテナ
- 3 ラゲージルーム内アンテナ
- 4 ラゲージルーム外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



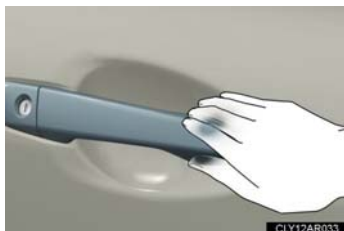
- : ドアの施錠・解錠時
フロント席ドアハンドル・バックドアオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します。）
- : エンジン始動時またはモード切りかえ時
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■ 作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないときは



ドアハンドル上側のロックセンサー部に触れても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時に触れてください。

■ 警告音と警告表示について

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→P. 304)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は以下ようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリモードにした(アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた)	運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 以下の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・車の外約 2m 以内にスマートキーを 10 分以上放置した。
 - ・5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった。
- 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

以下のいずれかを行うと、スマートエントリー&スタートシステムが復帰します。

- ドアハンドル上のロックセンサーで施錠する
- ワイヤレス機能で施錠・解錠する (→P. 40)
- メカニカルキーで施錠・解錠する (→P. 333)

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。以下のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法: →P. 333)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

- 電子キーが、以下のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

- ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
- ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
- ・ 金属製の財布やかばん
- ・ 小銭
- ・ カイロ
- ・ C D や D V D などのメディア

- 複数の電子キーが近くにあるとき

- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

- 電子キーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

- ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
- ・ パソコンや携帯情報端末（P D A など）
- ・ デジタルオーディオプレーヤー
- ・ ポータブルゲーム機器

- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ スマートエントリー&スタートシステム特有の留意事項

- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。
- 洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、電子キーが作動範囲内にある場合ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。）
- 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンを使って解錠すると復帰します。）

■施錠時の留意事項

- 手袋を着けてロックセンサーに触れた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーに触れてください。
- ロック操作は、連続で2回まで有効で、3回目以降はロック動作しません。
- キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作を繰り返すことがあります。その場合はキーを車両から2m以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください（キーの盗難に注意してください）。
- 車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。
- ドアハンドルを操作するときに、爪がドアに当たる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■解錠時の留意事項

- 急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。
- 作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないときは

- 盗難防止のため、電子キーを車から2 m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→P. 350)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。

■電子キーの検知に関する留意事項

- 車外から操作する場合は電子キーを車に近づけすぎないようにしてください。作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かない場合があります。)
- 電子キーが作動範囲内にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ドアの施錠、解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・電子キーがインストルメントパネルやフロア上、ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている場合

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないときは

- ドアの施錠、解錠：→P. 333
- エンジン始動：→P. 334

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。(カードキーは 1 年半程度で消耗します。)
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。
(→P. 313)
- 電子キーは常に電波を発信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。以下のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ 電子キーの LED が点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐために以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■ 電池が切れたときは

→P. 285

■ カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧 →P. 350)

**警告****■電波がおよぼす影響についての警告**

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナから約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。(→P. 32) 電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくは雷克萨斯販売店にお問い合わせください。

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

▶ パワーバックドア非装着車



CLY12AR099

- 1 全ドアを施錠する
- 2 ドアガラスとムーンルーフ*を閉める（押し続ける）※
- 3 全ドアを解錠する
- 4 ドアガラスとムーンルーフ*を開く（押し続ける）※

※：レクサス販売店ででの設定が必要です。

▶ パワーバックドア装着車



CLY12AR100

- 1 全ドアを施錠する
- 2 ドアガラスとムーンルーフ*を閉める（押し続ける）※
- 3 全ドアを解錠する
- 4 ドアガラスとムーンルーフ*を開く（押し続ける）※
- 5 バックドアを開閉する（押し続ける）

※：レクサス販売店ででの設定が必要です。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識

■ 作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。
(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

バックドア：ブザーと非常点滅灯の点滅 (2 回) で知らせます。

ドアガラス・ムーンルーフ：ブザーで知らせます。

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

→P. 34

■ バックドアのオープン機能

- バックドアは施錠されていても、ワイヤレスリモコンで開けることができます。
- ワイヤレスリモコンで開閉したあとは、バックドアは自動的に施錠されません。

■ オートアラームについて

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。(→P. 100)

■ パワーバックドアの反転作動について

作動中に再度ワイヤレスリモコンのスイッチを押すと、反転作動に切りかわります。

■ 電池の消耗について

→P. 38

■ ワイヤレスリモコンが正常に作動しないときは

ドアの施錠、解錠：→P. 333

■ 電池が切れたときは

→P. 285

■ カスタマイズ機能

作動合図の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧 →P. 350)

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた ドア

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー&スタートシステム

→P. 30

■ ワイヤレス機能

→P. 40

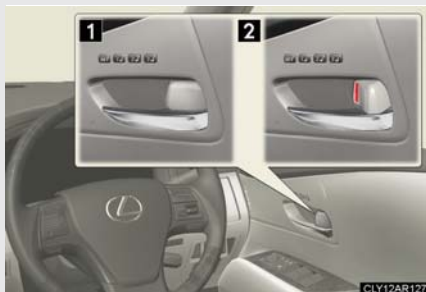
■ ドアロックスイッチ



1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ロックレバー



1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリまたはイグニッション ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター



LOCK 側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを LOCK 側にしてください。

 知識

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■ メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 333)

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ 不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空回りして解錠できません。

■ カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧 → P. 350)

**警告****■ 事故を防ぐために**

運転中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない

ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときは

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

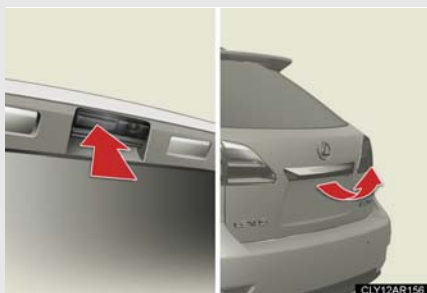
1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた バックドア

以下の機能を使ってバックドアを施錠・解錠・開閉することができます。

■ バックドアの施錠・解錠

- ▶ ドアロックスイッチ
→P. 42
- ▶ スマートエントリー & スタートシステム
→P. 31
- ▶ ワイヤレス機能
→P. 40

■ 車外からバックドアを開けるには



バックドアオープンスイッチを
押したまま、バックドアを持ち上
げる

■ 車外からバックドアを開けるには（パワーバックドア装着車）

▶ バックドアオープンスイッチ※

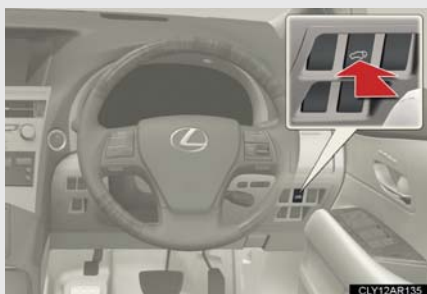


バックドア解錠時：バックドア
オープンスイッチを押す
バックドア施錠時：電子キーを携
帯して、バックドアオープンス
イッチを長押しもしくは2回押す

※：レクサス販売店での設定が必要で
す。

- ▶ ワイヤレスリモコン（パワーバックドア装着車）
→P. 40

■ 車内からバックドアを開けるには（パワーバックドア装着車）



スイッチを押す

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。

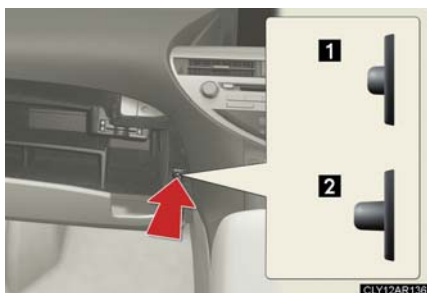
パワーバックドアクローズスイッチ（パワーバックドア装着車）



スイッチを押すと、バックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、バックドアは再び開きます。

パワーバックドアを使用できなくするには（パワーバックドア装着車）



グローブボックス内のバックドアオープナーメインスイッチをOFFにします。

- 1 ON
- 2 OFF

ワイヤレス機能、パワーバックドアスイッチでもバックドアを開けられなくなります。

知識

■ パワーバックドアの作動可能条件（パワーバックドア装着車）

- バックドアが解錠されている。（バックドアオープンスイッチ※またはワイヤレスリモコン使用時は、バックドアが施錠されていてもパワーバックドアは作動します。）
- パワーバックドアメインスイッチが ON になっている。
- “エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき開作動するには上記に加え、車速が 3km/h 未満かつシフトレバーが P になっている必要があります。

※：レクサス販売店ででの設定が必要です。

■ バックドアハンドル



バックドアを引き下げるときにお使い下さい。
バックドアハンドルを持ったまま直接バックドアを閉めないで下さい。

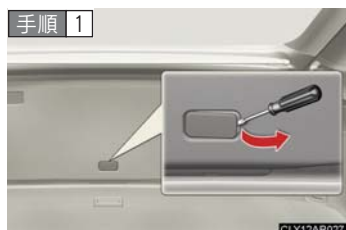
■ ラゲージルームライト



スイッチをONにしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームライトが点灯します。

■ バックドアが開かないときは

バックドアを内側から開けることができます。



カバーをはずす。

手順 2 レバーを押す。

▶ パワーバックドア装着車



▶ パワーバックドア非装着車



■ バックドアイージークローザー（パワーバックドア装着車）

バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働きバックドアが自動で閉まります。

- “エンジン スタート ストップ” スイッチがどの状態であっても、イージークローザーは作動します。
- イージークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチを押してバックドアを開けることができます。

■パワーバックドアの作動について

- 作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が点滅します。
- パワーバックドアメインスイッチがOFFのときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。
- パワーバックドア自動開閉中に、バックドアオープンスイッチを押すと、手動操作に切り替わります。
- パワーバックドア自動開閉中に人や異物などにより挟み込みを感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。
- 連続して2回以上の閉方向の異常を感知するとブザーが鳴り、手動操作に切り替わります。

■荷物モードについて（電子制御エアサスペンション装着車）

車高切りかえスイッチで車高を下降させると、荷物の積み降ろしがしやすくなります。（→ P. 197）

■バッテリーを再接続したときは

パワーバックドアを適切に作動させるために、下記の初期設定を行ってください。

- ドアロックスイッチで解錠します。
- バックドアのバックドアハンドルを持って、手動で一度全閉にします。

■挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）



パワーバックドアの左右端部には、センサーがついています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

**警告****■ 走行中の警告**

- 走行中はバックドアを閉じてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■ お子さまを乗せているときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■ バックドアの操作にあたって

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。



- 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

- バックドアダンパーステアを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステアが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。
バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

警告

■ イージークローザーについて



- バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをバックドアで挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- イージークローザーは、パワーバックドアメインスイッチがOFFであっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■ パワーバックドアについて

パワーバックドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中に、パワーバックドアメインスイッチを OFF にしたときは、作動が停止し、手動操作に切り替わります。この場合バックドアが不意に動き出すおそれがあるので十分注意してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切り替わる場合があります。
この場合、坂道などの傾斜地ではバックドアが不意に動き出すおそれがあるので十分注意してください。
- 傾斜した場所では、自動で開いたあとにバックドアが落ちる場合があります。バックドアは必ず全開で静止していることを確認してください。

 警告

● 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にバックドアが落ちるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。

- ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
- ・ エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、“エンジンスタートストップスイッチ”をイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

● バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとに落ちるおそれがあります。

● タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアメインスイッチをOFFにしてください。OFF にしないと、いたずらや誤ってスイッチに触れたときにパワーバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

● 挟み込み防止機能が作動したときは、十分注意してください。バックドアに当たりけがをするおそれがあります。

● 挟み込み防止機能はバックドアが閉まる途中で異物を感知すると反転しますが、体を挟んだ場合けがをするおそれがあるため、十分注意してください。

● 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

● 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

● パワーバックドアの左右端部のセンサーは障害物を検知し、挟み込みを防止する装置です。挟まれる物の形状や挟まれかたによっては検知できない場合があります。ドア開閉時は指などを挟まないよう十分注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ダンパーステータについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステータが取り付けられています。ダンパーステータの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステータのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などで触れない
- バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- ステータに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

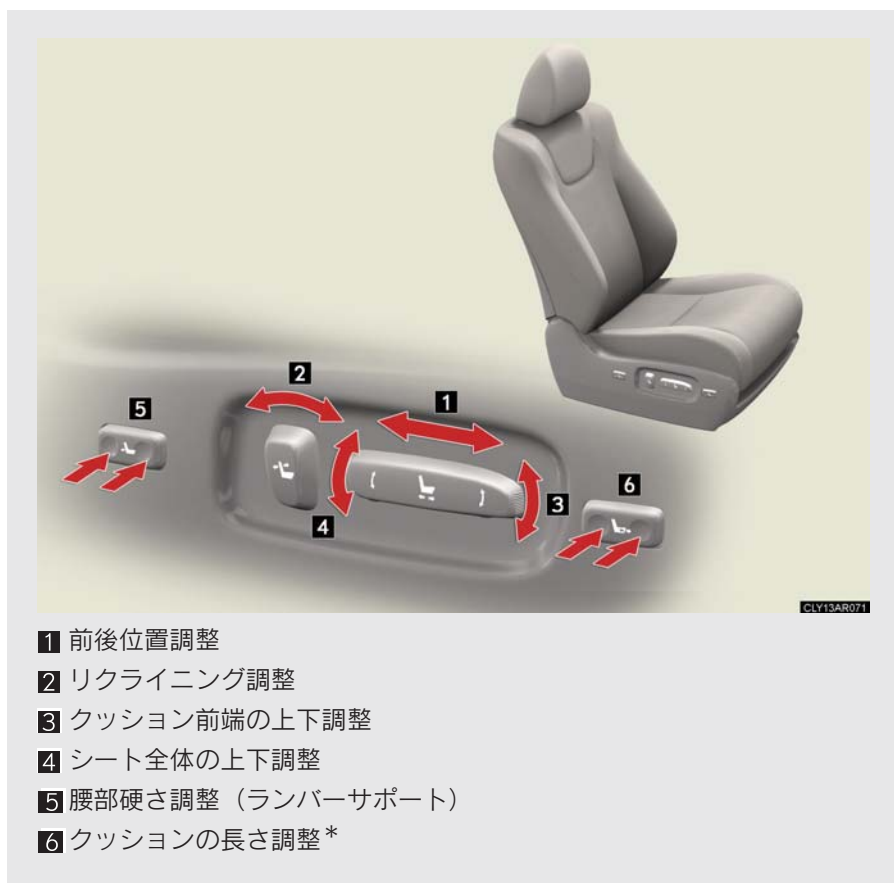
■ イージークローザーの故障を防ぐために

- イージークローザーの作動中はバックドアに無理な力をかけないでください。
- バックドアの開け閉めを短時間に繰り返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1度ドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

■ パワーバックドアの故障を防ぐために

- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理な力をかけないでください。
- パワーバックドア左右端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。
- パワーバックドアが自動で全開した直後に手でバックドアを閉めようとすると抵抗を感じる場合があります。

1-3. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた フロントシート



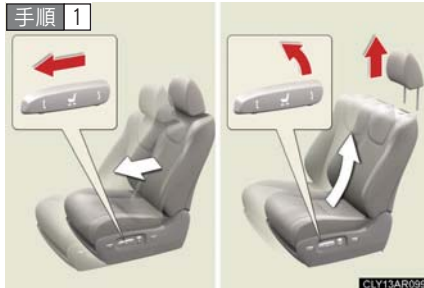
*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

フラットシートの作りかた

■ 背もたれを倒す前に

リヤシートをいちばんうしろまで移動させてください。(→P. 60)

■ シートを平らにする



フロントシートのヘッドレストを取りはずし (→P. 67)、シート全体をいちばん前および上まで移動させる

シートをもとにもどしたら、必ずヘッドレストを取り付けてください。



リクライニングスイッチを押しながら、背もたれをいちばんうしろまで倒す

パワーイージーアクセスシステム(ドライビングポジションメモリー装着車)

運転者が乗り降りする際に、ハンドルと運転席が自動で、以下のように動きます。



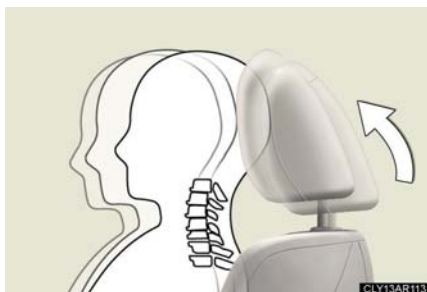
降車時：以下のすべての操作を行ったとき、ハンドルが最上段・最前方に移動、運転席シートが後方に移動（オートアウェイ機能）

- ・ シフトレバーを P に入れる
- ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする
- ・ シートベルトをはずす

乗車時：以下のいずれかの操作を行ったとき、ハンドルが手前に移動、運転席シートが前方に移動（オートリターン機能）

- ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリーモードにする
- ・ シートベルトを装着する

アクティブヘッドレスト



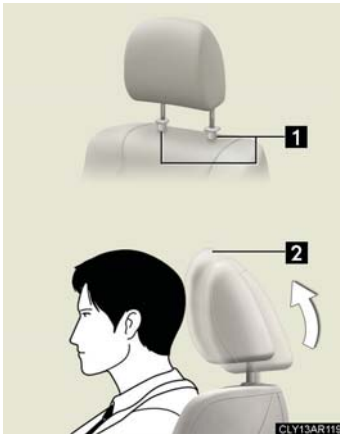
追突の衝撃によって、乗員の腰がシートバックを押すことでヘッドレストが少し斜め上方に動き乗員のむち打ち傷害軽減に貢献します。

知識

■ 降車時の運転席シートのオートアウェイ機能について

降車時に、シートの位置が最後方に近い位置にある場合、オートアウェイ機能を行わない場合があります。

■ アクティブヘッドレスト



シートバックへの衝撃が弱い場合でもアクティブヘッドレストが作動することがあります。なお、解除ボタンを押さずにヘッドレストを無理に押し上げると、ヘッドレストの構造部品が出てきますが、故障ではありません。

1 構造部品

2 作動状態

■ カスタマイズ機能

オートアウェイ機能によるシート移動量を変更できます。
(カスタマイザー一覧 → P. 350)

警告

■ シート調整について

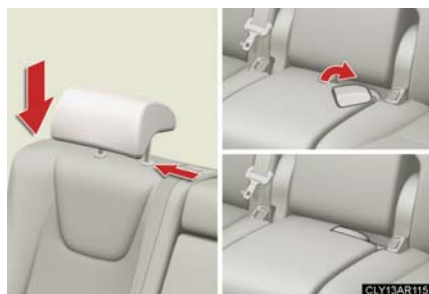
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 走行中は運転席シートの調整をしないでください。シートが突然動いて運転を誤り、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

1-3. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた リヤシート



背もたれを前に倒す

■ 操作する前に



ヘッドレストとセンターシートの
シートベルトバックルを格納する

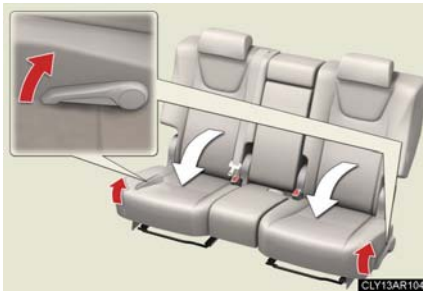


シートベルトをリヤシート側面のポケットに格納する

シートベルトを使用しないときは、常にポケットに格納しておいてください。

■ 前に倒すときは

▶ 車内から



リクライニングレバーを引く

もどすときは背もたれを起こし、固定してください。

▶ 車外から



レバーを引く

左側のレバー：左側のシートが倒れます

右側のレバー：右側と中央のシートが倒れます

■ 中央のシートだけを倒すときは



レバーを引いて、背もたれを前方に倒す

もどすときは背もたれを起こし、固定してください。

⚠ 警告

■ 背もたれを前倒しするときは

以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- シートに座ったまま、または荷物を置いたままで前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- 倒した状態でシートを前後に軽くゆさぶり、前後調整位置が確実に固定されていることを確認する
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■ リクライニング調整について

背もたれを必要以上に倒さないでください。事故のときに体がシートベルトの下にもぐり腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告**■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは**

以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する
- シートベルトを挟み込まないようにする

■ 前後調整をするときは

足元のスペースを確保し足をフロント席に挟まないように注意してください。

 注意**■ 背もたれを前倒しするときは**

背もたれを倒す前に、必ずセンターシートのシートベルトバックルを格納し、挟み込まないようにしてください。

ドライビングポジションメモリー*

お好みのドライビングポジション（運転席・ハンドルの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。また、ドアの解錠と連動させることもできます。

ドライビングポジションは3パターンまで登録できます。

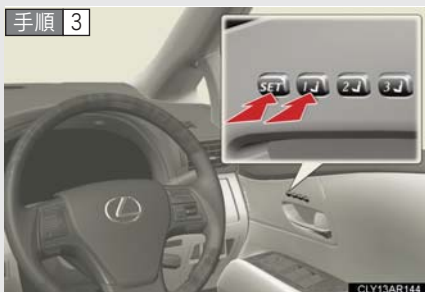
助手席側のスイッチ*は助手席の位置を登録できます。

■ ポジションの登録

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにする

手順 2 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する

手順 3



SET ボタンを押したあと、3 秒以内に1～3のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

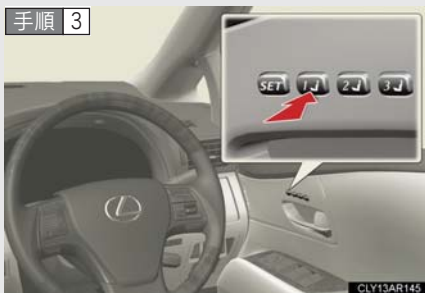
すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

手順 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する

手順 2 “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにする

手順 3



1～3のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す

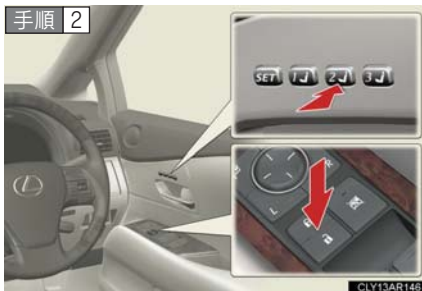
*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠と連動させるには（運転席のみ）

お好みのポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキー（カードキーを含む）のみ携帯してください。車内にキーが2つ以上あると、正確に登録できません。

手順 1 シフトレバーを P にし、運転席ドアを閉めて、“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにする



1 ～ 3 のうち連動させたいボタンを押してポジションを呼び出す。呼び出したら、そのボタンを押しながら、ドアロックスイッチ（運転席側）の施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

知識

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしたあとも、運転席ドアを開けて 180 秒以内、およびその後再び運転席ドアを閉めて 60 秒以内ならポジションの呼び出し（ハンドルを除く）ができます。

■ ドアの解錠との連動を解除するには

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにし、運転席ドアを閉める

手順 2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す

■ポジションの呼び出し作動を止めるには

以下のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■シート位置の正しい再生について

シート位置が、各シート調整機構の最端部にある状態で、更にその方向に操作すると、システムがシートの現在位置を誤認識し、メモリー再生位置にずれが生じることがあります。

■パワーイージーアクセスシステム（→P. 58）について

登録した運転席の位置に対して、車両カスタマイズ機能（→P. 350）で設定した移動量だけ、シートが後方に移動します。

 警告

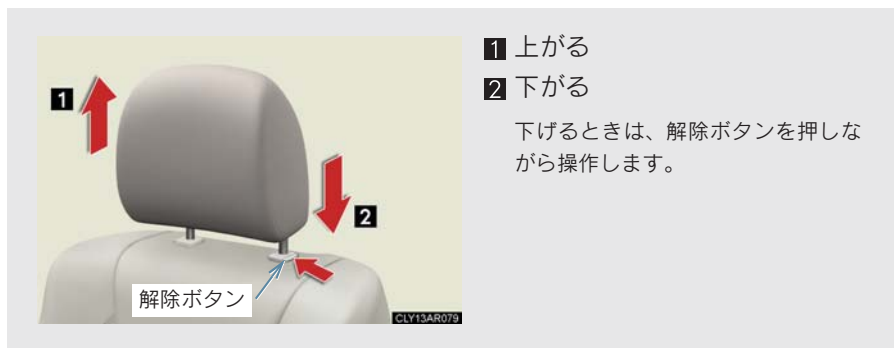
■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員に当たったり、運転手の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

1-3. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた ヘッドレスト

1

運転する前に



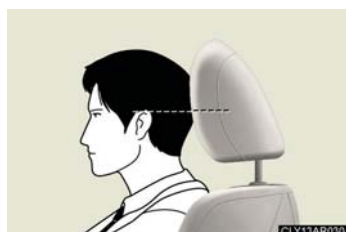
知識

■ヘッドレストを取りはずすときは



解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ヘッドレストの高さについて（フロント席）



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■リヤ席について

使用するときは、常に最上段ロック位置にしてください。



■ **ヘッドレストについて**

以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

1-3. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた シートベルト

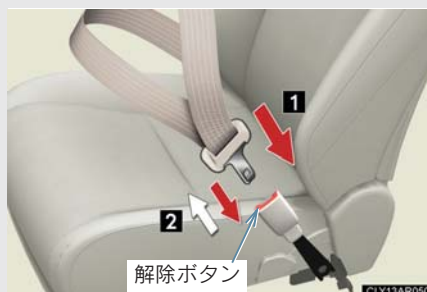
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには



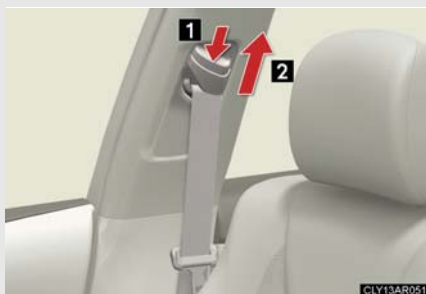
- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方



- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレート
をバックルに差し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボ
タンを押す

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）



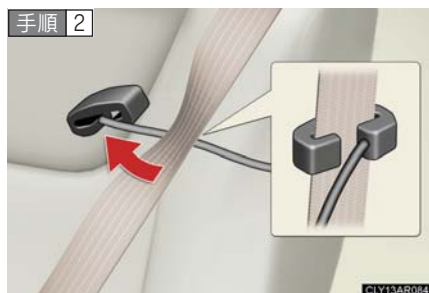
- 1 解除ボタンを押しながら、ア
ジャスターを下げる
- 2 アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるこ
ろまで動かしてください。

シートベルトコンフォートガイド（リヤ外側席）

肩部ベルトが首の近くにかかるときはコンフォートガイドを使用してください。



シート横のポケットからコンフォートガイドを引き出す



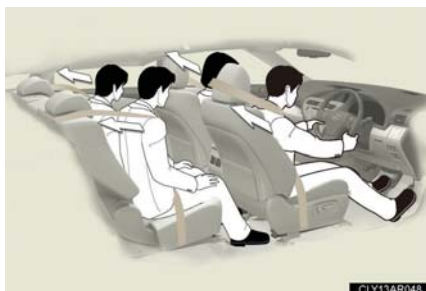
ベルトをコンフォートガイドの穴に通す

ゴムひもがベルトの裏側になるように通してください。



シートベルトを留め、コンフォートガイドの位置を調整する

シートベルトプリテンショナー（フロント席、リヤ外側席）



前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横や後ろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティシステム装着車フロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻き込み、プリテンショナーの効果を高めます。

急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。
(→P. 212)

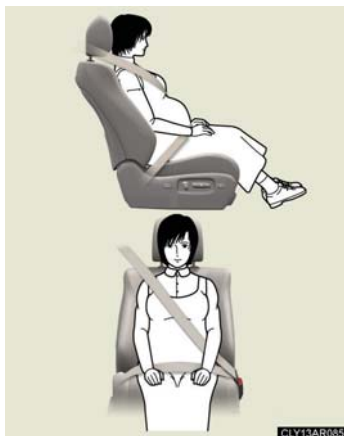
知識

■ 緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを巻き戻し、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

 知識

■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 69)

妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 117)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 69)

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまをのせるときは

お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ / プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。



警告

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

1-3. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

スイッチを操作すると、ハンドルを下記の方に動かします。



- 1 上方へ
- 2 下方へ
- 3 前方へ
- 4 手前へ

オートアウェイ&オートリターン機構



“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にすると、乗降がしやすいようにハンドルが動きます。

“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリまたはイグニッション ON モードにすると、もとの位置にもどります。

知識

■ ハンドル位置調整の作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき※

※ドライビングポジションメモリー装着車は、シートベルトを装着していれば“エンジン スタート ストップ” スイッチの位置にかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ ハンドル位置の自動調整（ドライビングポジションメモリー装着車）

好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P. 64）

■ ドライビングポジションメモリー装着車のオートアウェイ&オートリターン機構について

“エンジン スタート ストップ” スイッチ OFF 時のアウェイ作動は、シート移動量の設定（→P. 350）が OFF 以外で、シートベルトをはずした状態でのみ作動します。また、シートベルトを装着すると、もとの位置に戻ります。（→P. 58）



警告

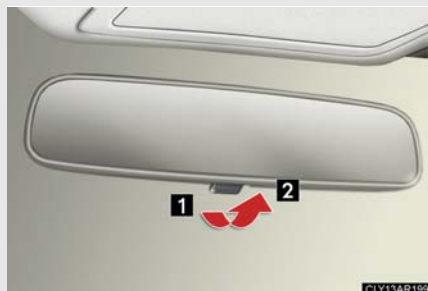
■ 走行中の警告

運転中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

1-3. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた インナーミラー

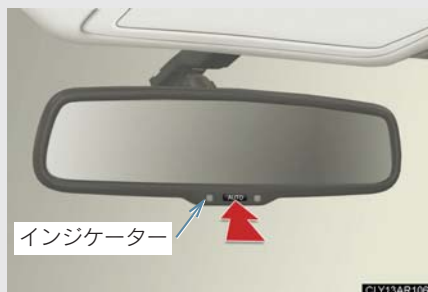
後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。（手動防眩タイプ装着車）



1 通常使用時

2 防眩時

自動（AUTO）モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。（自動防眩タイプ装着車）



自動モードの ON・OFF を切りかえる

自動モードのときはインジケーターが点灯します。

“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。

上下調整のしかた



インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。

 知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩タイプ装着車）



センサーの誤作動を防ぐため、センサーに触れたりセンサーを覆ったりしないでください。

 警告

■ 運転中の警告

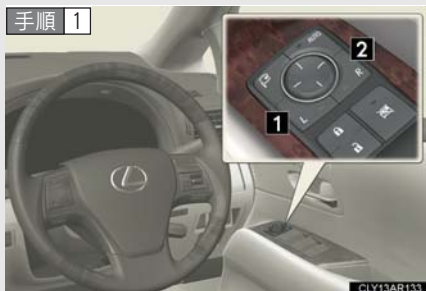
運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

1-3. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。

手順 1

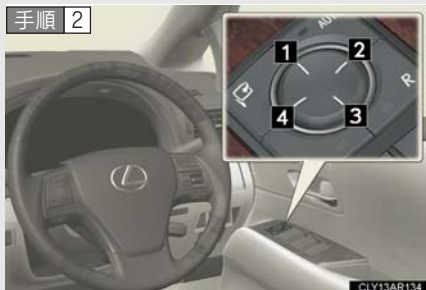


調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

- 1 左
- 2 右

もう一度押すと、選択が解除されます。

手順 2



ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

- 1 上
- 2 右
- 3 下
- 4 左

ドアミラーを格納するときは

■ マニュアル作動での格納・復帰のしかた



ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

■ オート作動での格納・復帰のしかた

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。



ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーターが点灯します。

もう一度ボタンを押すと、マニュアル作動にもどります。

サイドモニターシステム

■ 画面の出し方



サイドカメラスイッチを押すと、画面が表示されます。

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ ミラーが曇ったときは

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取り除くことができます。(別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。)

■リバース連動機能

後退時に左右のドアミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。この機能は、ミラー選択スイッチ (L・R) のどちらかが選択されているときのみ作動します。

■レインクリアリングミラー*

雨天時など鏡面に付着した水滴を膜状に広げる（親水効果）ことにより、後方を見やすくします。以下の場合、一時的に親水効果が失われますが、晴天時に太陽光を 1・2 日間あてると回復します。

- ミラーの汚れをふき取ったとき
- ミラーが曇ったとき
- 自動洗車機でワックス洗車をしたとき
- 長期間、地下駐車場などの日のあたらない場所に駐車していたとき

■ミラー角度の自動調整（ドライビングポジションメモリー装着車）

お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P. 64）

■自動防眩機能*

インナーミラーを自動モードにしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。（→P. 77）

■寒冷時に「オート作動」で使用するときは

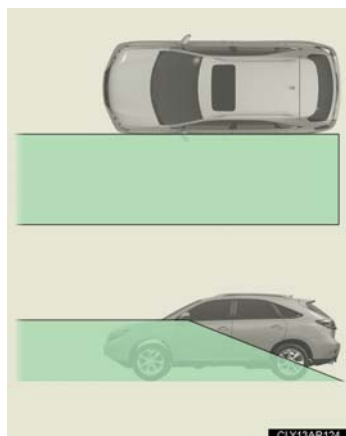
寒冷時に「オート作動」で使用していると、ドアミラーが凍結して、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

■サイドモニターについて

- 発進時またはごく低速時、左側車両側面を確認するときに役立ちます。
- この車は構造上、通常の乗用車に比べ、車両の左斜め前方が確認しにくいいため、発進時やごく低速時はサイドモニターなどを使用し、必ず周囲の安全を確認してください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ サイドモニターに映るおよその範囲



⚠ 警告

■ 走行しているときは

走行中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● ミラーの調整をしない

● ミラーを格納したまま走らない

走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているときは

手を触れないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているときは

鏡面が熱くなるので触れないでください。

 警告**■ サイドモニターに関する警告**

- 必ず車の前方や左右の安全を直接確認しながら運転してください。
- サイドモニターは、左側の視界を確保するために保安基準上必要な装置です。故障したときは速やかにレクサス販売店で点検を受けてください。
- ドアミラーを格納したまま走行しないでください。ドアミラーを格納した状態でサイドモニターを表示させると、ドアミラーの根元が映り込むため、車両前端付近での状況が確認できず、事故につながるおそれがあります。

 注意**■ ミラー鏡面が凍結したとき**

親水膜の効果を持続させるため、ミラー鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさずに、ミラーヒーターを作動させるか、温水をかけるなどして解氷してください。

■ サイドモニター使用時の注意

車両の前後確認は直接確認するか、インナーミラー、ドアミラーなども併用して十分行ってください。

1-4. ドアガラス・ムーンルーフ・電動サンシェードの開け方、閉め方 パワーウィンドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。



- 1 閉める
- 2 自動全閉※
- 3 開ける
- 4 自動全開※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ



スイッチを押すと、インジケータが点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

 知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ パワーウィンドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウィンドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 車を停止し、“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードの状態で、パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

手順 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。



■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。(→P. 333)
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できるように、レクサス販売店で設定できます。(→P. 40)

■ 窓閉め提案機能

ドアガラスを閉めずに“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にすると、マルチインフォメーションディスプレイにドアガラスを閉める提案が表示されます。(→P. 165)

■ バッテリーの接続が断たれたときは

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

■ カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 350)

！ 警告**■ ドアガラスを開閉するときは**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

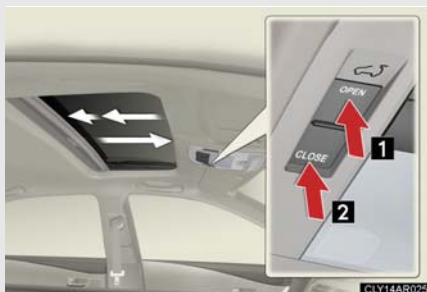
■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあります。

1-4. ドアガラス・ムーンルーフ・電動サンシェードの開け方、閉め方 ムーンルーフ*

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ/ダウンすることができます。

■ 開閉



1 ムーンルーフを開く※

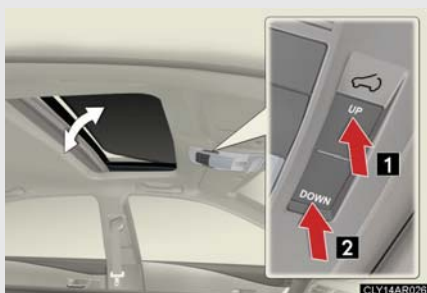
全開の手前の位置で止まります。(風切音の低減機能)

全開にしたいときはスイッチをもう一度押してください。

2 ムーンルーフを閉める※

※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

■ チルトアップ/ダウン



1 チルトアップ※

2 チルトダウン※

※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチ OFF 後の開閉作動

“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動なくなります。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くときは連動して開きます。

■ ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

- メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。(→P. 333)
- ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できるように、レクサス販売店で設定できます。※ (→P. 40)
 - ※ ワイヤレスリモコンでのドアガラス開閉が可能でなければ設定できません。

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける※¹

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※² その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなす

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの“UP”側を押し続け※¹、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

手順 3 スイッチから一度手をはなし、再度“UP”側を押し続ける※¹

ムーンルーフがチルトアップの状態です。10 秒間停止し、※² 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなす

※¹ 途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

※² 10 秒間停止した後にスイッチから手をはなすと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“UP”、または、“CLOSE”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。

(カスタマイズ一覧→P. 350)

警告**■ムーンルーフを開けているときは**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻きこんだりしないように注意してください。

- お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。

ムーンルーフに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。





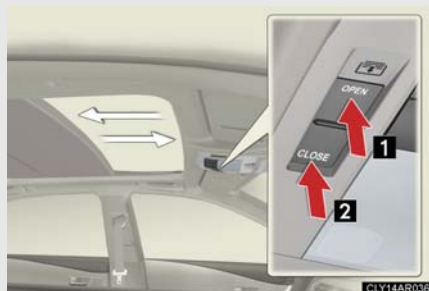
■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ムーンスーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

1-4. ドアガラス・ムーンルーフ・電動サンシェードの開け方、閉め方 電動サンシェード*

頭上のスイッチで電動サンシェードを開閉することができます。

■ 開閉



- 1 電動サンシェードを開く※
- 2 電動サンシェードを閉める※

※ 途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

📖 知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 挟み込み防止機能

電動サンシェードを閉めるときに、異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告

■ 電動サンシェードを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。
電動サンシェードに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

1-5. 給油のしかた

給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

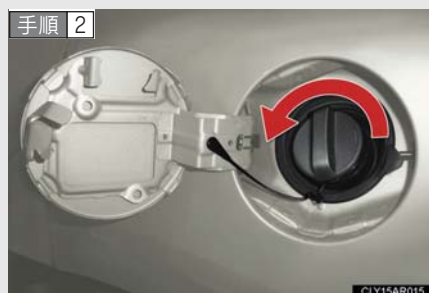
■ 給油する前に

ドアとドアガラスを閉め、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしてください。

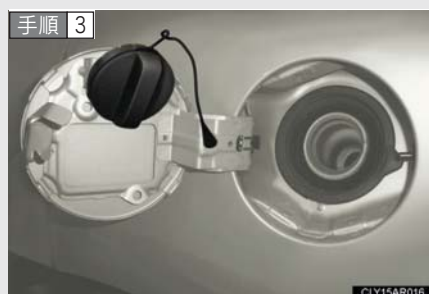
■ 給油口の開け方



オープナーを押して、給油口を開ける



キャップをゆっくりまわして開ける



キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを開めるときは



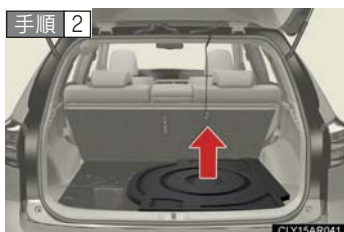
キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

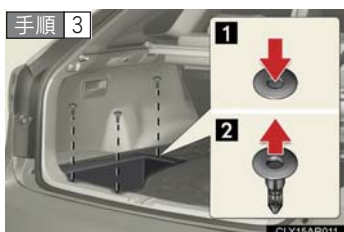
知識

給油口が車内から開けられないときは

手順 1 デッキボードを持ち上げる。(→ P. 246)



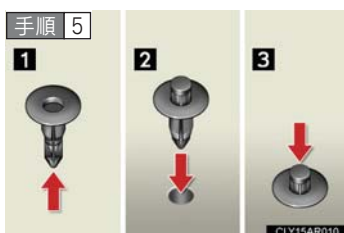
スペアタイヤカバーを取りはずす。



ラゲージルーム内のトレイを取りはずす。



レバーを引く。



クリップを取り付ける。

⚠ 警告

■ 給油について

給油するときは以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
キャップを開けると、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き返すおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。

 警告

- 車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものに触れない
再び帯電する可能性があります。

■ **給油時の注意**

- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ
足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■ **キャップ交換時の警告**

レクサス純正品以外のキャップを使用しないでください。

純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の
場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ **給油するときは**

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・アルコール系燃料）を
使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

以下のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

指定燃料は無鉛プレミアム（無鉛ハイオク）ガソリンです。（RX350）

無鉛レギュラーガソリンを使用することもできます。その場合本来の性能を発揮でき
ません。

エンジンイモバイザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。



“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモバイザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ エンジンイモバイザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

侵入を検知した場合、音と光で警報します。

■ オートアラームが作動するとき

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・キーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動くものを検知したとき（侵入者が車内に乗り込んだとき）

※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link サービス /G-Security」をご覧ください。

■ オートアラームを設定するには



ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

■ オートアラームの設定を解除・作動を停止するには

以下のいずれかを行ってください。

- ドアを解錠する。
- “エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する。（数秒後に解除・停止します。）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

侵入センサーの作動について

侵入センサーは、超音波を使って車内への侵入者や室内の動きを検知するセンサーです。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを停止するには



“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にし、侵入センサー OFF スイッチを押す

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに、侵入センサー停止のメッセージが表示されます。

侵入センサーは“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにするたびに、ON にもどります。

知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、以下のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ*が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

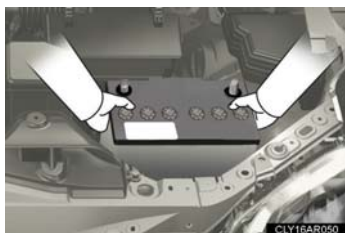
*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ オートアラームの作動について

以下のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。



- 車内に残った人が、ドア・ボンネットを開けたとき



- 施錠後、バッテリーあがりなどで、バッテリーの充電や交換をしたとき

■ オートアラーム作動によるドアロック機能について

- オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。
- オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

■ 侵入センサーの作動・停止について

- 車両から離れるときは盗難を防ぐため、ドアガラスとムーンルーフを閉めてください。
- 侵入センサーの機能を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサー機能を停止したあとに“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すか、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーによる解錠操作を行うと、侵入センサーは機能復帰します。
- 再度オートアラームをセットすると、侵入センサーは作動可能状態(システム ON の状態)に自動復帰します。

■ G-Link（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。
- リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link/G-Security」を参照してください。

⚠ 注意

■ 侵入センサーの検知について

以下のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサー機能を停止してからアラームを設定してください。



- 車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



- ドアガラスやムーンルーフなどが開いている場合

以下のものを検知することがあります。

- ・ 室内に入った落ち葉・虫・風など
- ・ 他車の侵入センサーなどが発する超音波
- ・ 室外の歩行者の動き

 注意



- マスコットやアクセサリをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



- 立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車した場合



- 雪かきやガラスに付着した氷を削り落とすときに、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合

- 高圧洗車機や自動洗車機などを使う場合
- ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合

 注意

■ 侵入センサーを正しく作動させるために



- センサーの穴は塞がないようにしてください。



- センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。

■ オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

1-7. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転してください。



- 1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない (→ P. 56)
- 2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする (→ P. 56)
- 3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする (→ P. 56)
- 4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする (→ P. 75)
- 5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする (→ P. 67)
- 6 シートベルトが正しく着用できる (→ P. 69)

警告

■ 走行中は

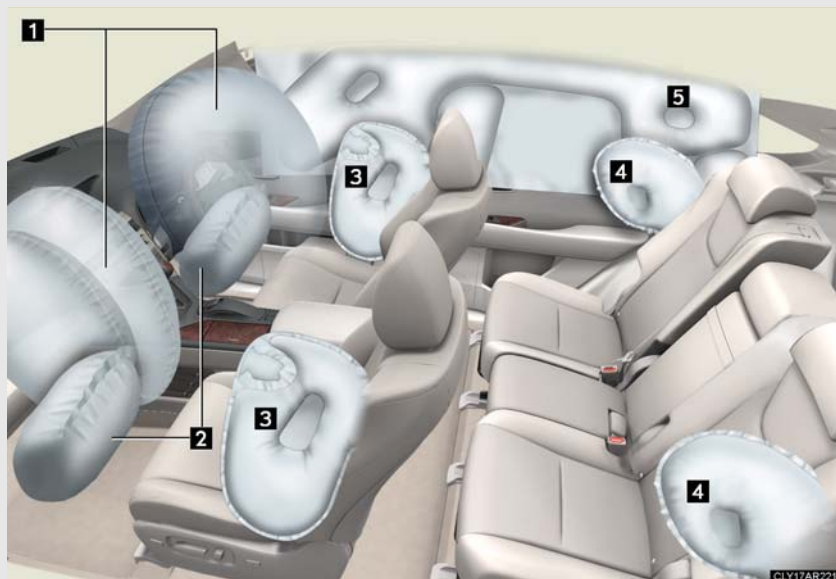
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

**警告****■シートを調整するときは**

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

2 SRS ニーエアバッグ
(運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助)

▶ SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ

3 SRS フロントサイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)

4 SRS リヤサイドエアバッグ*
(リヤ外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和)

5 SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識**■ SRS エアバッグが展開すると**

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・リヤ席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- G-Linkの契約期間内は、SRSエアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

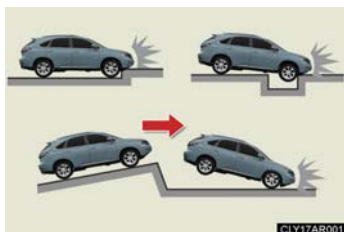
- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- 衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■ SRS エアバッグが作動するとき
(SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ)

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■ 衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。



- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。



- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■ SRS エアバッグが作動しないとき

(SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ)

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグとSRSカーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。



- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

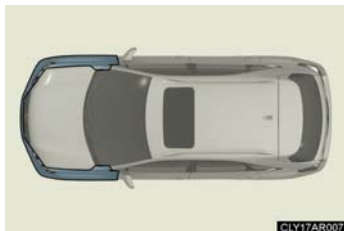


- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

以下のような場合には、できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

● いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき



- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分・助手席 SRS エアバッグのカバー部・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■ SRS エアバッグについて

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転手と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席SRSエアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近づきすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員がSRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけSRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRSエアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席にませ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 125)



- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかりたりしない



- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

警告

■ SRS エアバッグについて



- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない
- 助手席やリヤ外側シートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない
- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない。
- ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない。

**警告****■ SRS エアバッグについて**

- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリを使用しないでください。
- SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、触れないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、レクサス販売店で交換してください。



警告

■ 改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両客室側面部の不適切な修理、改造
- グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により以下の5種類に分類されます。

グループ0	: 10kg まで
グループ0+	: 13kg まで
グループⅠ	: 9 ~ 18kg
グループⅡ	: 15 ~ 25kg
グループⅢ	: 22 ~ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにとまなう取り付け器具の記号になります。

▶ ベビーシート



ECE R44 基準のグループ 0、0⁺ に相当

▶ チャイルドシート



ECE R44 基準のグループ 0⁺、I に相当

▶ ジュニアシート



ECE R44 基準のグループ、II、III に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kg まで）	×	U	×
0+（13kg まで）	×	U	×
I（9 ～ 18kg）	前向き UF	U	×
	うしろ向き ×		
II（15 ～ 25kg）	UF	U	L
III（22 ～ 36kg）	UF	U	L

1

運転する前に

● 上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの前向きの子供専用シートに適しています。

L：子供専用シートのリストに示す特定の子供専用シートに適しています。

（リストに記載があれば「特定自動車」、「限定」、「準汎用」カテゴリの子供専用シートにも適しています。）

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

● 子供専用シートのリスト

質量グループ	子供専用シート	カテゴリ
II（15 ～ 25kg）	レクサス純正ジュニアシート	汎用
III（25 ～ 36kg）	レクサス純正ジュニアシート	汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表 (ISOFIX対応トップテザーアンカーでの取り付け)

質量グループ	サイズ 等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	IL
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I (9 ~ 18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
II (15 ~ 25kg)		(1)	×
III (22 ~ 36kg)		(1)	×

● 上表に記入する文字の説明

(1) : サイズ等級表示 (A から G) のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF : この質量グループでの使用を許可された汎用 (ユニバーサル) カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL : ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

× : ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

ISOFIX 子供専用シートの一覧

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	レクサス純正ベビーシート	準汎用
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	レクサス純正ベビーシート	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

知識

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■ シートベルト (→ P. 125) で取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→ P. 119) を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→ P. 120)を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子様の体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1) : 体重が 12 kg の場合、質量グループは「O⁺」になります。

(例 2) : 体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1) : 質量グループが「O⁺」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2) : 質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「II」に記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」(→ P. 121)で指定されている製品を使用してください。



子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

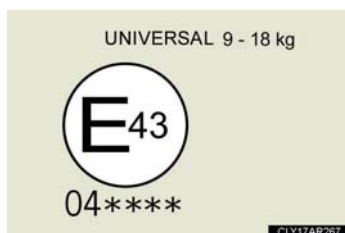
※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



- 1** ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。(表示される文字は、製品により異なります)

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



- 2** 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



- 3** トップテザー（→ P. 125）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISOFIX/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■ 助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。



- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばん後ろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる

■ 子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■ キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

⚠ 警告

■ 子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。



シートベルトによる取り付け
(→ P. 126)



ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー (→ P. 126)

リヤ外側シートに装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています。)



トップテザーアンカー
(→ P. 126)

テザーベルトを固定するときに使用します。

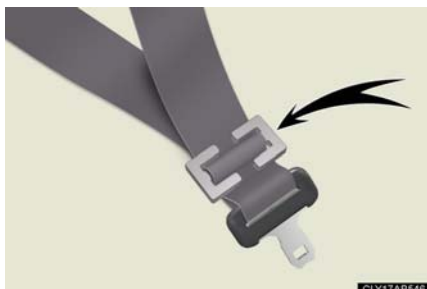
トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。

シートベルトで固定する



チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートを保クルに“カチッ”と音がするまで差し込む。ベルトがねじれていないようにする。

チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

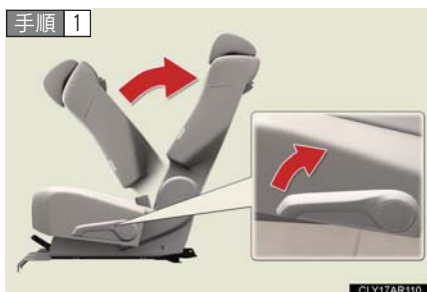


チャイルドシートにシートベルトのロック機構が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ 品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する



背もたれの角度を調整する

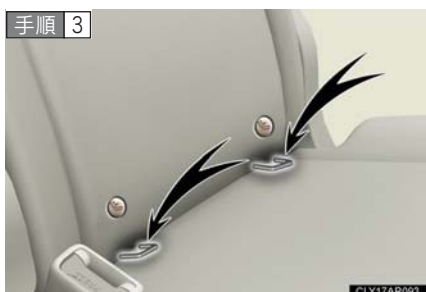
レバーを引ながらいったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。（→P. 60）

手順 2



ヘッドレストをはずす (→ P. 67)

手順 3



固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

手順 4

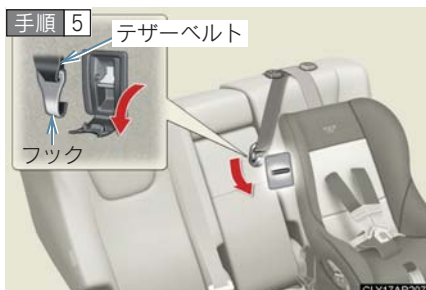


チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取扱説明書に従ってください。

手順 5



フタを開けて、トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトは必ず背もたれの上を通し、ピンと張ってフックがしっかり固定されていることを確認します。

手順 6



ヘッドレストを取り付ける
(→ P. 67)

ヘッドレストは、最上段ロック位置に固定してください。

手順 7



取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する



知識

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーについて

この ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーには、指定の道路運送車両の保安基準に適合する子供専用シート（ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカー対応のレクサス純正チャイルドシート）を取り付けることをおすすめします。チャイルドシートの選択にあたってはレクサス販売店にご相談ください。

**警告****■ チャイルドシートについて**

- 事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。

警告

■チャイルドシートについて

- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるときは

- お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。



- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは



- 助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せてご覧ください。



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にできるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

■チャイルドシートを使用しないときは

- 車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください (→ P. 126)。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかりと固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

運転するときに

2

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	134
エンジン（イグニッション）	
スイッチ	142
オートマチックトランス	
ミッション	147
方向指示レバー	152
パーキングブレーキ	153
ホーン（警音器）	154

2-2. メーターの見方

計器類	155
表示灯／警告灯	158
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	161
ヘッドアップ	
ディスプレイ	169

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの 使い方

ライトスイッチ	173
フォグライトスイッチ	176
ワイパー＆ウォッシャー	
（フロント）	178
ワイパー＆ウォッシャー	
（リヤ）	182

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール	184
レーダークルーズ	
コントロール	188
電子制御エア	
サスペンション	197
運転を補助する装置	203
AWD ロックモード	
スイッチ	209
ヒルスタートアシスト	
コントロール	210
プリクラッシュ	
セーフティシステム	212

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	218
寒冷時の運転	220

2-1. 運転のしかた

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行してください。

■ エンジンをかける

→P. 142

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする
(→P. 147)

手順 2 パーキングブレーキを解除する (→P. 153)

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足をはなし、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。(→P. 147)

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける (→P. 153)

手順 3 シフトレバーを P にする (→P. 147)

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

手順 4 “エンジン スタート ストップ” スイッチを押してエンジンを止める

手順 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

 知識**■ 雨の日の運転について**

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取り付けることはできません。

 警告**■ シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 発進するときは

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するときは

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- シフトレバーを前進側のシフトポジションにいったまま惰性で後退したり、Rにいったまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となる他、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡に至るおそれがあります。すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。
- 走行中に決してシフトレバーを P の位置に動かさないでください。
機械に重大なダメージを与えると共に、車がコントロールを失う場合があります。
- 前方走行中に決してシフトレバーを R の位置にしないでください。
トランスミッションに重大なダメージを与えると共に、車がコントロールを失う場合があります。
- 走行中はシフトレバーを N にしないでください。
N にすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中はエンジンを停止しないでください。
パワーステアリングおよびブレーキ倍力装置は、エンジン回転中でないと作動しません。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→ P. 147)
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。
- 走行中はハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- オフロード走行をしないでください。(AWD 車)
本格的なオフロード走行を目的とした AWD 車ではありません。やむをえずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- やむをえず浅瀬などを走行する場合は、まず水深と川底の硬さを確認してください。
電子制御エアサスペンション装着車*は、ハイトコントロールスイッチを“HI”に選択したあと、車高制御 OFF スwitchを押して電子制御エアサスペンションを停止させ、30 km/h 以下の速度で走行してください。

■ すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効が悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進して、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 停車するときは

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 警告

- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するときは

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- エンジン回転中または停止直後は排気管に触れないでください。
やけどをするおそれがあります。

 警告

- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずレクサス販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に止めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるときは

- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

 警告

■ 万一脱輪したときは（AWD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意

■ 運転中は

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドインジケーター）

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

 注意

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりとって徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 319 をご覧ください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で以下の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー (AWD 車)・デフアレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト (AWD 車)、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して以下の操作を行うことで、エンジンの始動またはモードを切りかえることができます。

■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

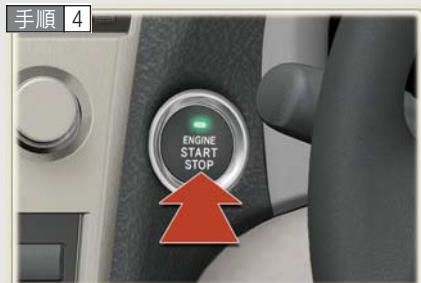
手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む

スイッチ上のインジケーターが緑に点灯します。

緑色に点灯していないとエンジンは始動しません。

手順 4



“エンジン スタート ストップ” スイッチを押す。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏みつけてください。

どのモードからでもエンジンを始動できます。



■ エンジン停止のしかた

手順 1 車両を停止させる

手順 2 シフトレバーを P の位置にする

手順 3 パーキングブレーキをかける（→P. 153）

手順 4 “エンジン スタート ストップ” スイッチを押す

手順 5 ブレーキペダルから足を離した状態にして “エンジン スタート ストップ” スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずに“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります。)



1 OFF *

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

* : シフトレバーがP以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

シフトレバーがP以外でエンジンを停止したときは

シフトレバーがP以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードはOFF になりません。以下の手順でOFF にしてください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーをPの位置にする。

手順 3 “エンジン スタート ストップ”スイッチのインジケーターが橙色に点灯していることを確認し、“エンジン スタート ストップ”スイッチを1回押す。

手順 4 “エンジン スタート ストップ”スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する。



知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき 1 時間以上アクセサリモードかイグニッション ON モード（エンジン始動していない状態）にしたままにしておくと、“エンジン スタート ストップ” スイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■“エンジン スタート ストップ” スイッチの操作について

“エンジン スタート ストップ” スイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切り替えやエンジン始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 38

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 34

■ご留意いただきたいこと

→P. 35

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→ P. 99)

■ステアリングロックについて

“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。“エンジン スタート ストップ” スイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないときは



マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、“エンジン スタート ストップ”スイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジン始動・停止を繰り返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。2 秒程度でもとの状態にもどります。

■“エンジン スタート ストップ”スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池がきれたときは

→P. 285



警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンストなどで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしったりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、3 秒以上“エンジン スタート ストップ”スイッチを押し続けてください。

ただし、緊急時以外は走行中に“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れないでください。走行中にエンジンが停止すると、予期せぬ事故につながる可能性があります。



注意

■ バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーまたはイグニッションONモードにしたまま長時間放置しないでください。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチのインジケーターが消灯していない場合、“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFFになっていません。“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしてから車両を離れてください。
- シフトレバーがP以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーがP以外でエンジンを停止させた場合、“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■ エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

■ “エンジン スタート ストップ”スイッチの操作について

“エンジン スタート ストップ”スイッチ操作時に引っ掛かりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

状況に応じてシフトポジションを選択してください。

■ シフトレバーの動かし方



← “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動・停止
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※ ¹
S	S モード走行※ ² (→ P. 150)

※¹ D ポジションは走行状況に応じたギヤ段を選択します。通常は D ポジションを使用してください。

※² S モードはシフトレンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、エンジンブレーキ力を切りかえたり、高速ギヤ段へのシフトアップを抑えた走行ができます。

■ エコドライブモードの選択

エコドライブモードは車両駆動力とエアコンの作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。



1 メニュースイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイがスイッチモードに移行します。

2 “ENTER” スイッチを上下に操作して “ECO MODE” を表示させる。



“ENTER” スイッチを押して、ONに切りかえると ECO MODE 表示灯が表示されます。

“ENTER” スイッチを押すごとに ON/OFF は切りかわります。

メニュースイッチを押すと、もとの画面にもどります。

■ スノーモードの選択

スノーモードは雪道やすりやすい路面での走行に適しています。



1 メニュースイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイがスイッチモードに移行します。

2 “ENTER” スイッチを上下に操作して “ECT SNOW” を表示させる。



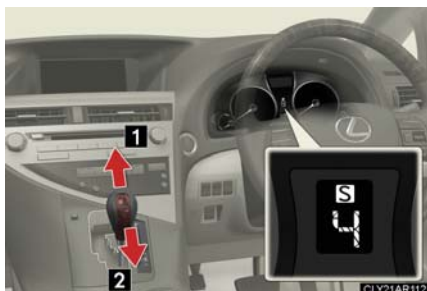
“ENTER” スイッチを押して、ONに切りかえると“ECT SNOW”表示灯が表示されます。

“ENTER” スイッチを押すごとにON/OFFは切りかわります。

メニュースイッチを押すと、もとの画面にもどります。

S モードでの操作方法

シフトレバーを S の位置にして、以下のように操作します。



❶ シフトレンジを上げる

❷ シフトレンジを下げる

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは車速に応じて 4 レンジもしくは 5 レンジに設定されます。

ただし、D ポジションにて AI-SHIFT 中は 3 レンジになる場合があります。
(→P. 151)

■ シフトレンジ機能

- エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

知識

■ スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、エンジンを切ると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■ S モード

- 5 レンジ以下のとき、シフトレバーを“+”側へ保持すると 6 レンジに設定されます。
- エンジン過回転前に自動的にシフトアップします。
- トランスミッションフルードの温度が高くなると、オートマチックトランスミッション保護のため、自動的にシフトレンジアップします。

■ AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に最適なシフトレンジに切りかえます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。(シフトレバーを S にすると、機能が解除されます。)

NAVI・AI-SHIFT：

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

■ クルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

S モード走行時に 5 または 4 ヘシフトレンジダウンしてもエンジンプレーキは効きません。(→P. 184, 188)

■ シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 331

■ シフトレバーを S にしても、S が点灯しないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■ シフトダウン制限警告ブザー（S モード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります。)

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。



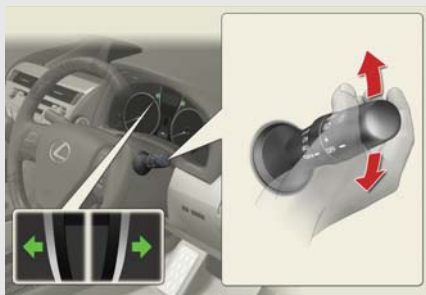
警告

■ すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンプレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

2-1. 運転のしかた 方向指示レバー

レバー操作により、以下のように運転者の意思を表示することができます。

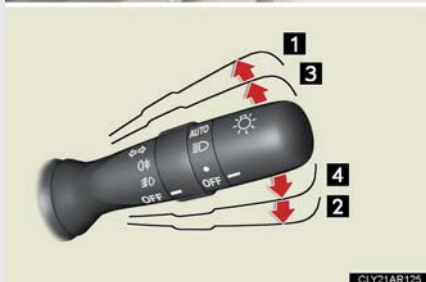


- ❶ 左折
- ❷ 右折
- ❸ 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを放すまで左側方向指示灯が点滅します。

- ❹ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを放すまで右側方向指示灯が点滅します。



CLY21AR125

知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

2-1. 運転のしかた

パーキングブレーキ



パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）

知識

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」（→P. 220）の記載を参照してください。

注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

2-1. 運転のしかた

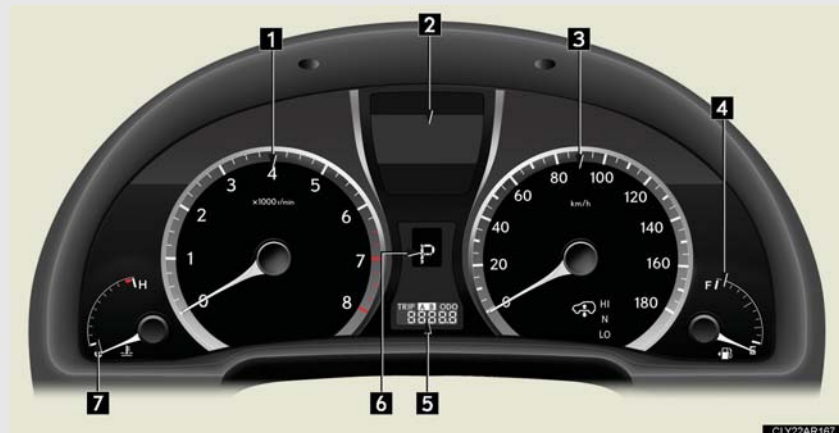
ホーン（警音器）



ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。

2-2. メーターの見方

計器類



1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

→P. 161

3 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

4 燃料計

燃料残量を示します。

5 オドメーター・トリップメーターディスプレイ

オドメーター：走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

6 シフトポジション・シフトレンジ

→P. 147

7 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

表示の切りかえ



スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を0にもどします。

インストルメントパネル照度調整

スイッチを押して、インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



- 1 暗くなる
- 2 明るくなる

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

**注意****■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 339）

2-2. メーターの見方 表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ メーター



▶ センターパネル



■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→P. 152)



レーダークルーズコントロール表示灯*
(→P. 188)



尾灯表示灯 (→P. 173)



クリアランスソナー表示灯*
(→ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」参照)



ヘッドライト
上向き表示灯 (→P. 173)



※ AFS OFF 表示灯*
(→P. 174)



フロントフォグライト
表示灯 (→P. 176)



※ スリップ表示灯
(→P. 204)



リヤフォグライト
表示灯* (→P. 176)



※ VSC OFF 表示灯
(→P. 205)



※ AWD ロック表示灯*
(→P. 209)



※ 電子制御エアサスペンション表示灯* (→P. 197)



ECT SNOW 表示灯
(→P. 149)



※ エコドライブインジケータランプ (→P. 167)



クルーズコントロール
表示灯 (→P. 184, 188)



ECO MODE 表示灯
(→P. 148)

※ 作動確認のために“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→ P. 300)



※ 作動確認のために“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

! 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モード にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関する様々な情報を表示します。

■ マルチインフォメーションスイッチ



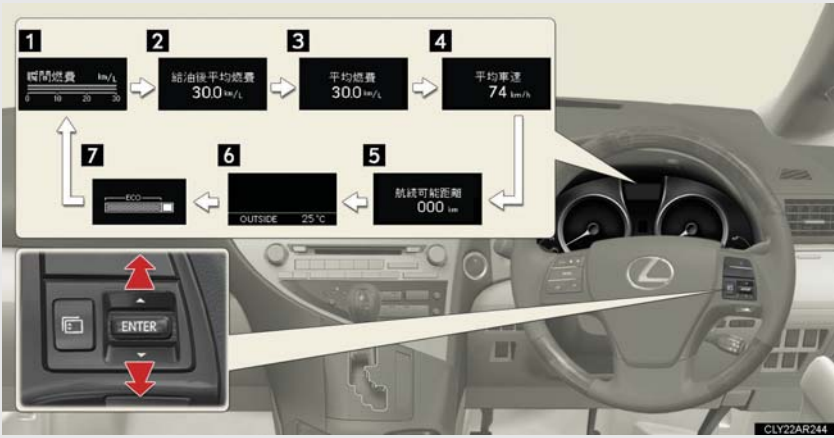
1 メニュースイッチ

スイッチモードやカスタマイズモードを表示したり、各モードから通常画面にもどしたりすることが出来ます。

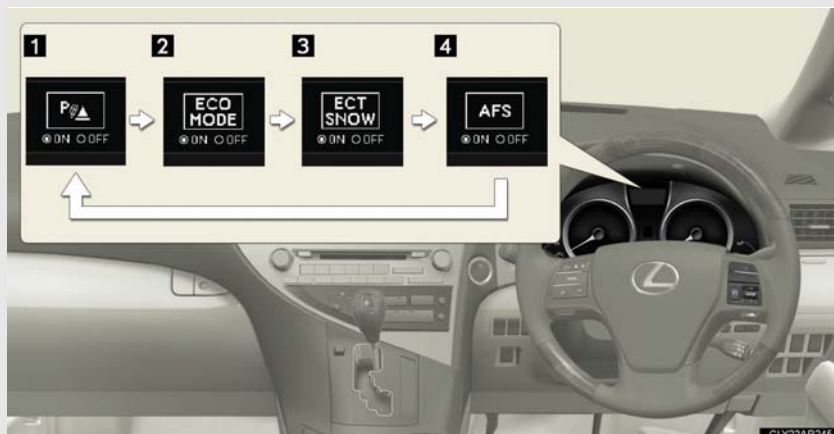
2 ENTER スイッチ

表示中のトリップインフォメーションの項目を切り替えたり、スイッチモードやカスタマイズモードの設定を切り替えたりすることが出来ます。

■ 表示する情報



トリップインフォメーション	表示の切り替え
1 瞬間燃費	ENTER スイッチを上下に操作する。
2 給油後平均燃費	
3 平均燃費	
4 平均車速	
5 航続可能距離	
6 表示 OFF	
7 エコドライブインジケータゾーン表示	



スイッチモード	機能と内容
1 クリアランスソナー*	別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。
2 エコドライブモード	→P. 148
3 スノーモード	→P. 149
4 AFS *	→P. 174

その他の機能	機能と内容
外気温	外気温を表示します。
窓閉め提案モード	降車時にドアガラスを閉める提案を表示します。
カスタマイズモード →P. 350	窓閉め提案モードやエコドライブインジケータランプの ON/OFF を変更することができます。
レーダークルーズコントロール表示* →P. 188	レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。
警告メッセージ →P. 304	各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

トリップインフォメーション

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 給油後平均燃費

給油をしてからの平均燃費を表示します。

■ 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

リセットするには、平均燃費表示中に ENTER スイッチを 1 秒以上押します。

■ 平均車速

リセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中に ENTER スイッチを 1 秒以上押します。

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- ・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- ・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

■ エコドライブインジケーターゾーン表示

→P. 167

窓閉め提案モード

降車時にいずれかのドアガラスが開いているときに、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にすると、窓を閉めるかどうかの確認画面が表示されます。以下の操作を行うと、全てのドアガラスを一括して閉めることができます。



- 1 “ENTER” スイッチを上下して “YES” を選択
- 2 “ENTER” スイッチを押す
“NO” を選択すると窓閉め提案モードは終了します。



- 1 “ENTER” スイッチを上下させて “開始” を選択
- 2 “ENTER” スイッチを押す
全ての窓が一括して閉まります。
“中止” を選択すると窓閉め提案モードは停止されます。



知識

■スイッチモードの作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■スイッチモードの終了条件

操作条件によって以下のようなときスイッチモードは終了します。

- メニュースイッチを押したとき
- レーダークルーズコントロールの操作を行ったとき
- クリアランスソナーが作動したとき
- スイッチモード画面表示後、しばらくのあいだ操作を行わなかったとき
- スイッチモード画面表示後に警告メッセージが表示されたとき

■窓閉め提案モードについて

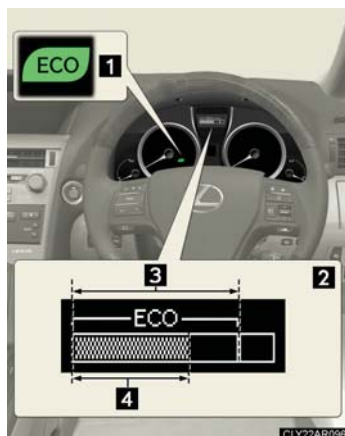
- 以下の場合、窓閉め提案モードは作動しません。
 - ・マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき
 - ・ウィンドウロックスイッチを ON にしているとき
 - ・すべての窓が閉まっているとき
 - ・カスタマイズ設定で降車時窓全閉提案が“しない”になっているとき
 - ・運転席のドアを開閉したとき
- 以下の場合、窓閉め提案モードは終了します。
 - ・“エンジン スタート ストップ” スイッチを ON にしたとき
 - ・“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしてから約 20 秒が経過したとき
 - ・マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき
 - ・すべてのドアガラスを閉めたとき
 - ・ウィンドウロックスイッチを ON にしたとき
 - ・メニューボタンを押したとき
 - ・運転席のドアを開閉したとき
 - ・ワイヤレスリモコンで、ドアガラスの開閉操作を行ったとき

● 以下の場合、全閉作動は途中で停止します。

- ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチを ON にしたとき
- ・ ENTER スイッチを押したとき
- ・ ウィンドウロックスイッチを ON にしたとき
- ・ 挟み込み防止機能が作動したとき
- ・ ワイヤレスリモコンで、ドアガラスの開閉操作を行ったとき

窓閉め提案モードによる全閉作動中にいずれかのパワーウィンドウスイッチを操作すると、そのドアガラスは途中で停止します。

■ エコドライブインジケータについて



- 1 エコドライブインジケータランプ**
環境に配慮したアクセル操作（エコ運転）中は、エコドライブインジケータランプが点灯します。
- 2 エコドライブインジケータゾーン表示**
エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。
- 3 エコ運転の範囲**
- 4 現状のアクセル開度**
現状のアクセル開度がエコ運転の範囲を超えたとき、エコドライブインジケータゾーン表示の右側が点滅します。
このとき、エコドライブインジケータランプは消灯します。

エコドライブインジケータは、シフトレバーがDの位置にあるとき作動します。スノーモードで走行しているときは作動しません。

■ 外気温表示について

以下の場合、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

■ カスタマイズ機能

窓閉め提案モードの ON/OFF などを変更できます。（カスタマイズ一覧 →P. 350）

警告

■ 窓閉め提案モードに関する注意点

- 全閉作動を開始するときは、窓に挟み込むものがないか周囲の安全に十分注意してください。
- 窓閉め提案モードが作動しない場合もあります。
降車時には全ての窓が閉まっていることを確認してください。

■ スイッチモードについて

走行中にスイッチモードを操作する場合は、周囲の安全に十分注意してください。

注意

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

ヘッドアップディスプレイ*

ヘッドアップディスプレイは、フロントウィンドウに車速などを表示することができます。



1 ヘッドアップディスプレイ

表示輝度は、周囲の明るさに応じて自動で調整されます。

2 表示位置調整スイッチ

3 表示輝度調整スイッチ

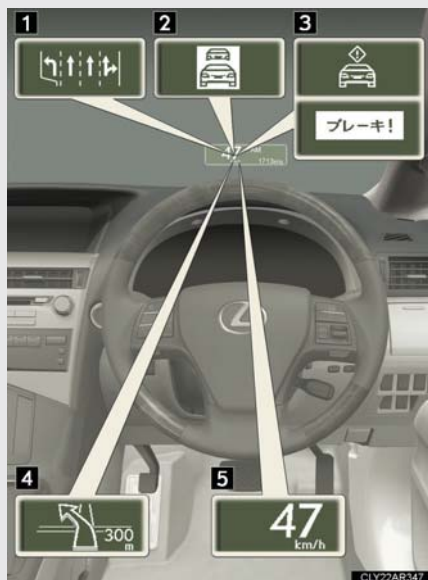
表示輝度は好みの明るさにも調整できます。

4 HUD（ヘッドアップディスプレイ）メインスイッチ

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ ヘッドアップディスプレイの表示内容

車速表示以外に以下の表示機能を備えています。



1 レーン表示

走行中のレーン情報を交差点に差し掛かる約 300m 手前から表示します。

2 レーダークルーズコントロール*

接近警報を表示します。(→P. 309)

3 PCS*

注意喚起表示とブレーキ警報を表示します。(→P. 309)

4 簡易矢印ナビ※

ナビゲーションシステムがルート案内中、交差点にさしかかると、交差点案内表示を表示します。

5 車速表示

HUD メインスイッチ



ヘッドアップディスプレイの ON・OFF を切りかえる

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

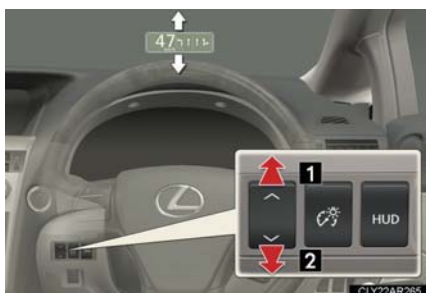
調整のしかた

表示輝度の調整



- 1 明るくなる
- 2 暗くなる

表示位置の高さ調整



- 1 高くなる
- 2 低くなる

表示のカスタマイズ

レーン表示の、表示 / 非表示を切り替えることができます。



HUD メインスイッチを 2 秒以上押すと、レーン表示の ON/OFF 切り替え画面に移行します。HUD メインスイッチを押すごとに ON/OFF は切りかわります。

ヘッドアップディスプレイが ON で車速が 8km/h 以下のときに操作ができます。



知識

■表示輝度について

ヘッドアップディスプレイの表示輝度は、周囲の明るさをライトセンサーで感知して、自動調整されています。(→P. 174)

■ヘッドアップディスプレイについて

サングラス（特に偏光サングラス）をかけていると、ヘッドアップディスプレイが見えづらい場合があります。表示輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。



警告

■安全にお使いいただくために

映像の明るさ、および表示位置は安全運転に支障がないように適切な状態に調整してください。調整した映像の明るさや表示位置によっては、運転者の視界のさまたげから思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。



注意

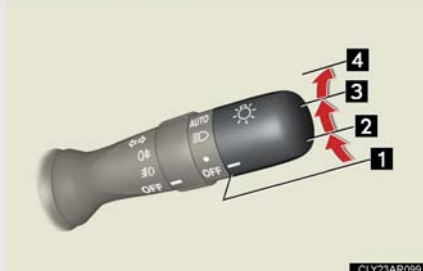
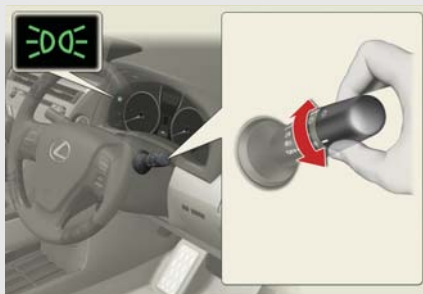
■部品の損傷を防ぐために



ヘッドアップディスプレイ開口部にものが落ち込んでしまったときは、すみやかに取り除いてください。また、水などの液体をこぼさないでください。機械の故障の原因となります。

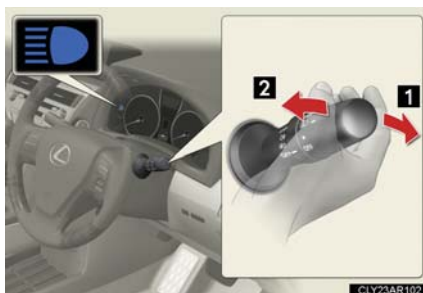
2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。



- 1 **OFF** 消灯
- 2 **●** 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルライトを点灯
- 3 **≡D** 上記ライトとヘッドライトを点灯
- 4 **AUTO** ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯（“エンジン スタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき）

ハイビームにする



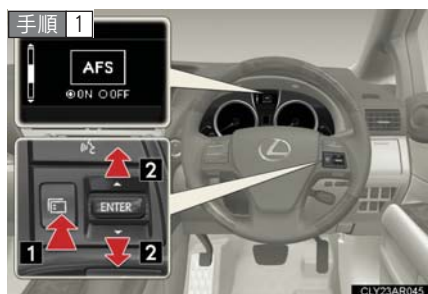
- 1 ライト点灯時ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- 2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーをはなすと、ロービームにもどる、または消灯します。

AFS（アダプティブフロントライティングシステム）*

AFS は交差点やカーブでの視認性を向上させるため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じてヘッドライトの光軸を自動で調整します。

車速が 10 km/h 以上のときに作動します。

■ AFS を OFF にするには



1 メニュースイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイがスイッチモードに移行します。

2 “ENTER” スイッチを上下に操作して “AFS” を表示させる。



“ENTER” スイッチを押して、OFF に切りかえると AFS OFF 表示灯が表示されます。

“ENTER” スイッチを押すごとに ON/OFF は切りかわります。

メニュースイッチを押すと、もとの画面にもどります。



知識

■ ライトセンサー



センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ ライト消し忘れ防止機能

“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度  または  の位置にします。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■ AFS OFF 表示灯が点滅するときは

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

■ カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧 → P. 350)



注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

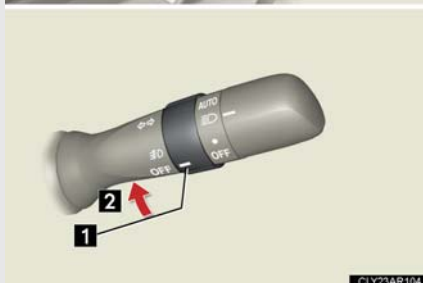
2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 フォグライトスイッチ*

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。

フロントフォグライトスイッチ*



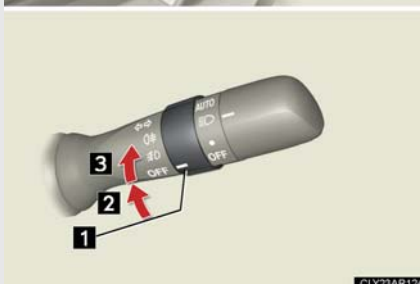
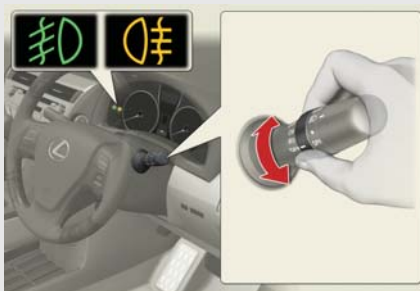
- 1 **OFF** レバーをまわして消灯する
- 2 **0** レバーをまわして点灯させる



CLY23AR104

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

フロント&リヤフォグライトスイッチ*



- 1 **OFF** レバーをまわして消灯する
- 2 **F** レバーをまわしてフロントフォグライトを点灯させる
- 3 **F R** レバーをまわしてフロント&リヤフォグライトを点灯させる

手を離すと **F** の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグライトのみ消灯します。

 知識

■点灯条件

フロントフォグライト：ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグライト：リヤフォグライトは、フロントフォグライトが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグライトについて

- リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

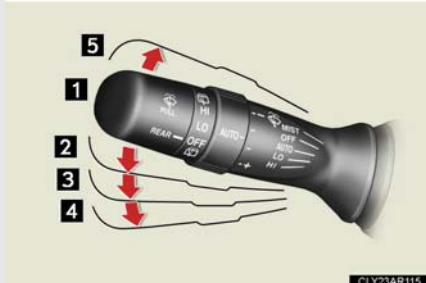
ワイパー & ウォッシャー（フロント）

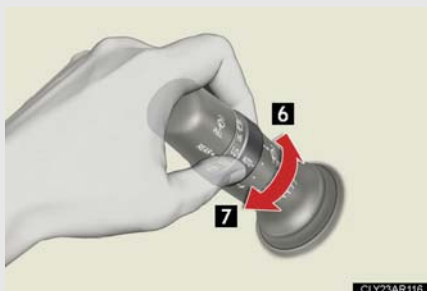
AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

AUTO が選択されているときは、レバーをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



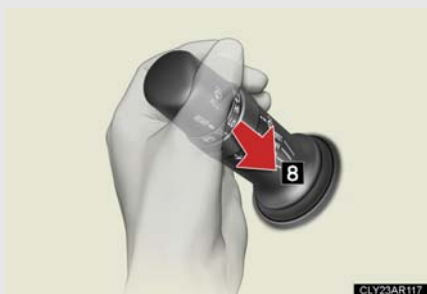
- | | | |
|---|-------------|-----------|
| 1 | OFF | 停止 |
| 2 | AUTO | 雨滴感知オート作動 |
| 3 | LO | 低速作動 |
| 4 | HI | 高速作動 |
| 5 | MIST | 一時作動 |





6 雨滴センサーの感度調整（低）

7 雨滴センサーの感度調整（高）



8 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに1回作動します）

知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

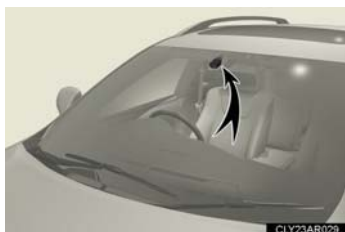
■ 車速による作動への影響

“AUTO” 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）がかわります。

LO 選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。

（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます。）

■ AUTO 作動について



- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。

- “エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのときにワイパースイッチを “AUTO” モードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- ワイパースイッチが “AUTO” モードのときに雨滴センサーの感度調整を高側へ調整すると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が 90℃ 以上または -15℃ 以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

⚠ 警告

■ “AUTO” モード時のワイパー作動に関する警告

“AUTO” モードでは、センサーに触れたり、ドアガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

**注意****■ フロントガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作しつけないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

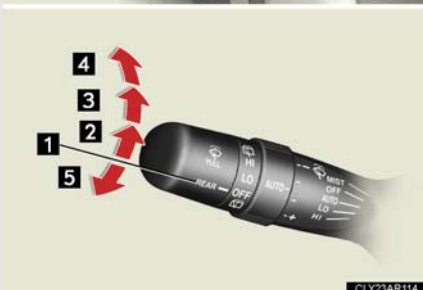
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

ワイパーを以下のように操作して作動を選択します。



- 1 **OFF** 停止
- 2 **LO** 間欠作動
- 3 **HI** 通常作動
- 4  ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。
- 5  ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

**注意****■ リヤウインドウガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

2-4. その他の走行装置の使い方

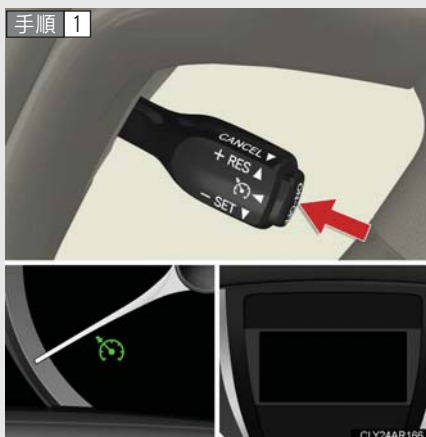
クルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。



- 1 表示灯
- 2 ディスプレイ
- 3 クルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定する



ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

OFF には、再びスイッチを押します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

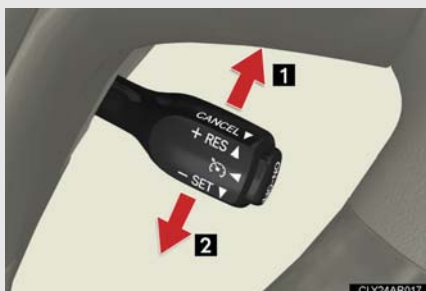
手順 2



希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

ディスプレイ内に“SET”と表示されます。

■ 設定速度をかえる



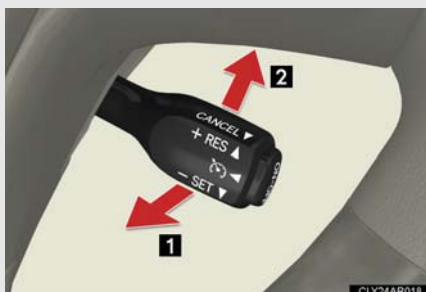
1 速度を上げる

2 速度を落とす

希望の速度になるまでレバーを保持します。

レバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整できます。

■ 定速走行を解除する・復帰させる



1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 定速走行にもどすには、レバーを上げる



■ 設定条件について

- シフトレバーが D ポジションまたは S の 4・5・6 レンジのとき設定できます。
- 車速は約 40 km/h から約 100 km/h の範囲で設定できます。

■ アクセル操作

通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■ 定速走行の自動解除

以下のとき、自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 速度が約 40 km/h 以下になった
- 車が横すべりして VSC が作動した

■ 定速走行中に表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。

設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

**警告****■ 誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使わないときは、ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

以下の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。

車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

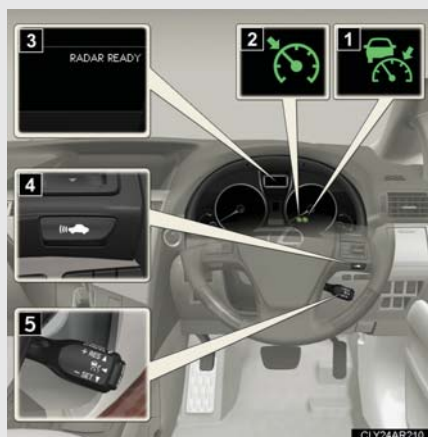
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- トレーラー、または車両けん引時

2-4. その他の走行装置の使い方

レーダークルーズコントロール*

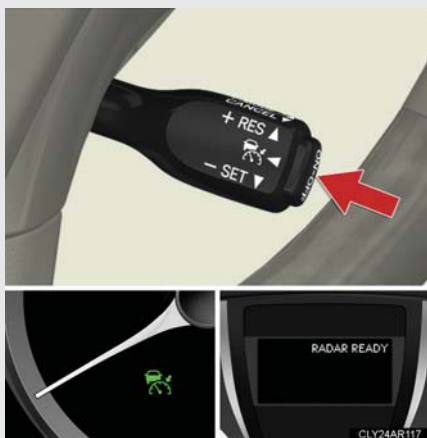
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の车速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などでご使用ください。



- 1 表示灯（車間制御モード）
- 2 表示灯（定速制御モード）
- 3 ディスプレイ
- 4 車間距離切りかえスイッチ
- 5 レーダークルーズコントロールスイッチ

■ 制御モードを選択する

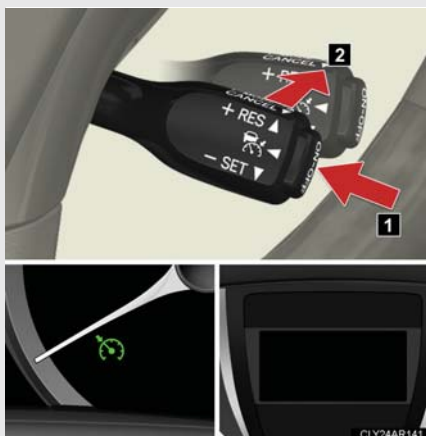


車間制御モードを選択する

ON-OFF スイッチを押してシステムを ON にする

OFF には再度 ON-OFF スイッチを押します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



定速制御モードを選択する

- 1** ON-OFF スイッチを押してシステムを ON にする

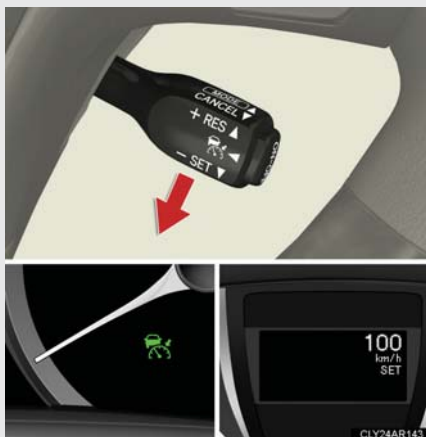
OFFにするには再度ON-OFFスイッチを押します。

- 2** 定速制御モードに切りかえ（約 1 秒間押し続ける）

定速制御モードに切りかえると、定速制御モード表示灯が点灯します。

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードになるたびに、車間制御モードに再設定されます。

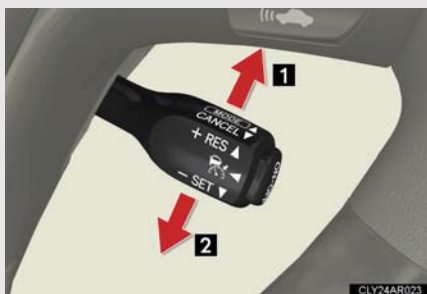
■ 選択したモード（車間制御・定速制御）で走行する



希望の速度まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する

ディスプレイ内に“SET”と表示されます。

■ 設定速度をかえるには



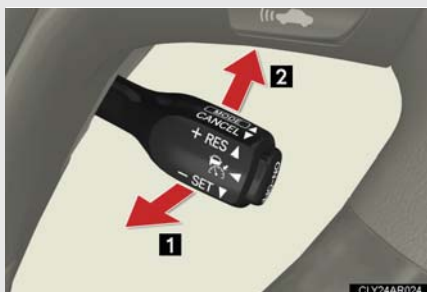
1 速度を上げる

2 速度を下げる

表示が希望の車速になるまでレバーを保持します。

レバーを軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整できます。

■ 制御を解除する・復帰させるには



1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）



スイッチを押すごとに以下のように車間距離を切りかえます。

1 長い

2 中間

3 短い

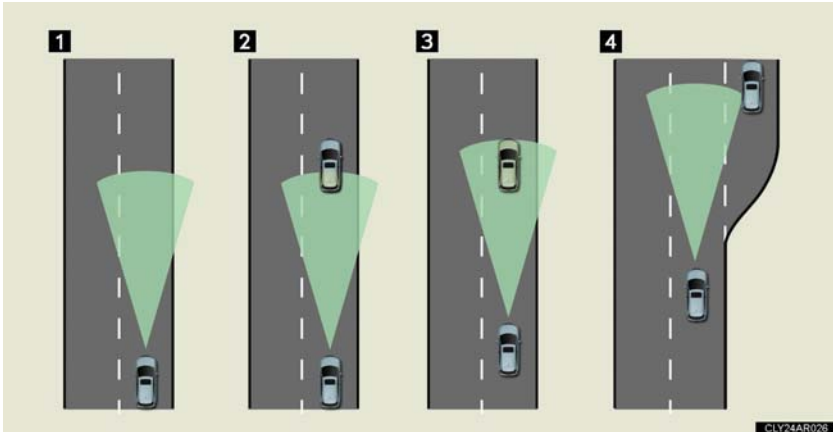
“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードになるたびに 1 に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定します。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



1 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

2 減速走行：

設定した車速より遅い先行車が現れたとき

自車線に先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

3 追従走行：

設定した車速より遅い先行車に追従するとき

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行：

設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

先行車が車線変更したときは設定車速までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中に他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D のとき設定できます。(推奨) シフトレバーが S の 4、5、6 レンジのときでも設定できます。
- 車速は約 50 km/h から約 100 km/h の範囲で設定できます。

■ モードの切りかえについて

車間制御モードを使用してから定速制御モードに切りかえることはできません。また、定速制御モードから車間制御モードへもどすこともできません。システムを OFF してから再度操作してください。

■ アクセル操作

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。

■ 車間制御走行の自動解除

以下の場合、自動的に車間制御走行が解除されます。

- 速度が約 40km/h 以下になった
- 車が横すべりして VSC が働いた
- センサーが何かで塞がれて適切に働かない
- ワイパーが高速で作動した
- 走行モードをスノーモードにセットした

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ 定速制御走行の自動解除

以下の場合、自動的に定速制御が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 速度が約 40 km/h 以下になった
- 車が横すべりして VSC が作動した

■ 車間距離選択の目安

以下の目安を参考に車間距離を選択してください。(→P. 190)

(時速 80 km/h で走行している場合)

なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50 m
中間	約 40 m
短い	約 25 m

■ レーダーセンサーとグリルカバーについて

システムを正しく作動させるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります。)

汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。



1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

■ レーダークルーズコントロールの表示灯・警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、表示灯や警告メッセージ・警告表示・警告ブザーで注意をうながします。(→ P. 309)

■ 接近警報について

車間距離が短くても、以下のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務、危険性の判断、安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助する装置でもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

 警告**■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

以下の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- トレーラーまたは車両けん引時

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

以下のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 192）も作動しないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の後部が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

 警告

■ **車間制御が正しく働かないおそれのある状況**

以下の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。

レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■ **レーダーセンサーを正しく働かせるためには**

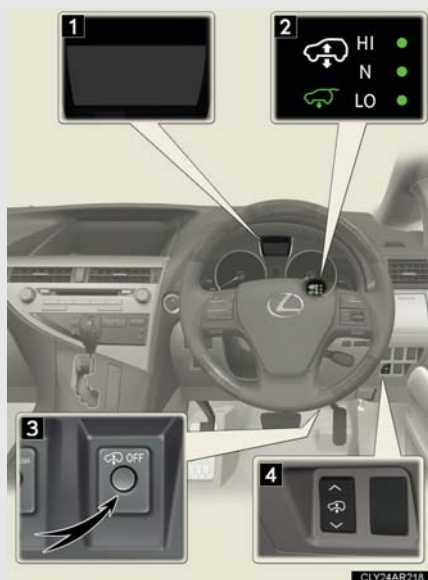
センサーとグリルには以下のことをしないでください。

センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ステッカーを貼ったり、アクセサリーを取り付けたりする
- 汚れたままにしておく
- 分解したり、強い衝撃を与える
- 改造や塗装
- 純正品以外の部品に交換する
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

電子制御エアサスペンション*

電子制御エアサスペンションは、走行状態に応じて車高を変更することができます。車高切りかえスイッチでご希望の車高を選択してください。



- 1 ディスプレイ
- 2 電子制御エアサスペンション表示灯
- 3 車高制御 OFF スイッチ
- 4 車高切りかえスイッチ（運転席側）
- 5 車高切りかえスイッチ（荷室側）



*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

車高の選択

■ 車高モード

- H I モード：悪路走行

標準車高より約 30mm 高いモードです。

H I モードは、車速が約 30km/h 未満のとき選択できます。

- N モード：通常走行

標準車高です。

- L O モード：スポーツ走行

標準車高よりフロント約 20mm、リヤ約 5mm 車高が低いモードです。

- 荷物モード：荷物の積み降ろしや乗降時

標準車高より約 30mm 低いモードです。

■ 車高切りかえスイッチ

車高切りかえスイッチは約 1 秒間押してください。

▶ 運転席側



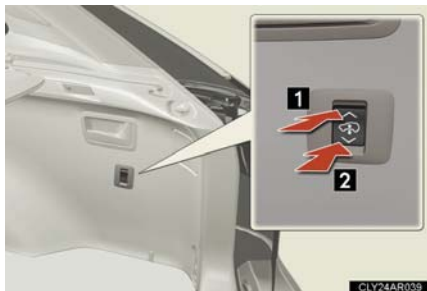
1 車高上昇

荷物モード時に押した場合は、N モードに切りかわります

2 車高下降

LO モード時に押すと荷物モードに切りかわります

▶ 荷室側



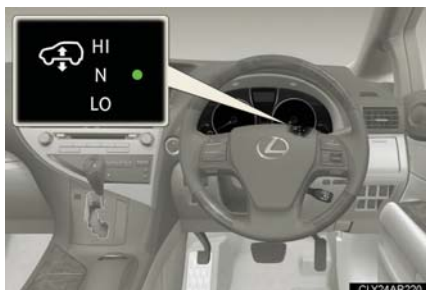
1 車高上昇

荷物モード時に押した場合は、N モードに切りかわります

2 車高下降

N モード時に押した場合は、荷物モードに切りかわります

■ 電子制御エアサスペンション表示灯



インジケーターが点灯し、選択中のモードを表示します。選択したモードへ移行中はインジケーターが点滅します。

■ 車高制御を停止する



停車中にボタンを押す。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、車高制御が停止します。

この状態で車速が約 30km/h をこえた場合は、車高制御を自動的に再開します。

 知識

■ 作動条件

車高が下がる側へのモード移行中に限り、エンジンを停止したあとも最大で 60 秒間は移行を継続します。

車高切りかえスイッチ（運転席側）

- エンジンがかかっているとき車高が選択できます。
- 荷物モードは、シフトレバーが P のときのみ選択できます。

車高切りかえスイッチ（荷室側）

- シフトレバーが P ポジションでエンジンがかかっているとき、LO モードを除いた車高が選択できます。
- “エンジン スタート ストップ” スイッチが、OFF では、車高が下がる側（V 側ボタン）のみ選択できます。

バックドアが開いているときのみ使用できます。

車高制御 OFF スイッチ

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき車高制御を OFF/ ON できます。

■ 車高モードを変更するときは

車体が障害物に接触することがないように周囲を確認してから車高選択ボタンを操作してください。

■ N モード選択時

高速走行中は、自動的に LO モードと同じ車高に制御されます。

■ HI モード選択時

車速が約 50km/h をこえるか、約 30km/h 以上の状態が 10 秒以上継続したときは、自動的に N モードにもどります。なお、車速が約 30km/h 以下になっても HI モードにはもどりません。

■ LO モード選択時

エンジンを再始動する毎に、自動的に N モードにもどります。

■ 荷物モード選択時

荷物モードのまま走り始め、車速が約 8km/h をこえると、自動的に N モードにもどります。なお、車速が約 8km/h 以下になっても荷物モードにはもどりません。

■エアサスペンションの作動音

乗車や荷物の積み込みなどによって車高が低下したときや車高切りかえスイッチを操作したときなどに、コンプレッサーの作動音やモードの切りかえ音が聞こえることがあります。異常ではありません。

■オートレベリング機能

乗員数や荷物などの積載条件がかわっても、常に一定の車高になるよう、すべてのモードで自動制御されます。

■モードの移行時間について

- 連続して下げるモードを選択すると、排気タンクがいっぱいになり、モードの移行に時間がかかる事があります。
- コンプレッサーのオーバーヒート防止のため、一定時間制御を中断することがあり、モードの移行に時間がかかる事があります。

■車高モードが切りかえできない場合

路面の起伏が激しくサスペンションが伸びきるようなときや、高い縁石に乗り上げているときなどは、車高モードが切りかえできない場合があります。

⚠ 警告

■以下の状況では車高制御を停止してください。

車高がかわり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 脱輪したとき
 - ジャッキアップするとき
 - レッカー車などで車を持ち上げてけん引するとき
- 必要に応じてエンジンを停止してください。



注意

■ HI モードについて

- HI モード選択中は重心が高くなっているため、特に慎重に運転してください。
- ルーフラックに荷物を積んでいるときは、HI モードを選択しないでください。

■ 起伏の激しい道路では、LO モードを選択しないでください

車体が路面に接触し、損傷するおそれがあります。また、LO モードや荷物モードから自動復帰中の走行も注意してください。

■ N モードへの自動復帰について

以下の場合、自動復帰により車高が上がるため高さ制限のある場所では注意してください。

- 荷物モードのまま走り始めた場合
- LO モードでエンジンを再始動した場合

■ 駐車中の車高について

気温の変化や長時間の駐車により、車高が下がる事があります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せず
に運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ ナビ・ブレーキアシスト

ナビゲーションシステムからの情報を利用したブレーキアシストです。
別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

→P. 210

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ アクティブトルクコントロール 4WD *

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態から AWD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・安定性を確保します。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ VDIM (ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント)

ABS、ブレーキアシスト、TRC、VSC を総合的に制御します。

すべりやすい路面の走行などで急なハンドル操作をする際に、ブレーキ・エンジン出力を制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

■ PCS (プリクラッシュセーフティシステム) *

→P. 212

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

VSC・TRC が作動しているとき



車が横すべりしそうになったとき、タイヤが空転したとき・坂道発進をしたときは、VSC、TRC の作動を表示するために、スリップ表示灯が点滅します。

VSC の作動時、ブザー（断続音）が鳴ります。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに VSC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには



TRCを停止するにはスイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイ上にメッセージが表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには



TRC と VSC を停止するには停車時にスイッチを押し 3 秒以上保持する

マルチインフォメーションディスプレイ上にメッセージが表示され、VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

 知識

■ **ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動**

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ **EPS モーターの作動音**

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ **TRC や VSC の自動復帰について**

TRC や VSC を作動停止にしたあと、エンジンを停止すると自動的に TRC と VSC は作動可能状態にもどります。

■ **TRC OFF の作動制限**

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。

■ **EPS の効果が下がるとき**

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、車を停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ **緊急ブレーキシグナルの作動条件**

以下のときシステムが作動します。

- 車速 55 km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの解除条件

以下のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離した
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったら特に慎重に運転してください。



警告

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 348）

異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

AWD ロックモードスイッチ*

AWD ロックモードは、沼地でスタックした状態から脱出したいときに、4 輪すべてに大きな駆動力を与えることができます。



スイッチを押す

後輪へのトルク配分を最大にします。

もう一度スイッチを押すと、AWD ロックモードは解除され、通常のアクティブトルクコントロール 4WD モードになります。(→P. 203)



■AWD ロックモードについて

- ブレーキを踏むと、ABS と VSC の効果を高めるために自動的に解除されます。
- 車速が約 40km をこえると、自動的に解除されます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

ヒルスタートアシストコントロール

急な上り坂やすべりやすい丘面を発進するときに、車両の後退を防止し発進を容易に行うことができます。



車両が完全に停止している状態で、更にブレーキペダルを踏み込むとヒルスタートアシストコントロールは作動します。

“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が点滅します。

知識

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

- シフトレバーがP以外の位置のとき
- パーキングブレーキがかかっていないとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき

■ヒルスタートアシストコントロールについて

- ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯が点灯します。
- ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約2秒間です。
- ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください。(車両が後退しない程度) その後もう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。
それでも作動しないときは上記の作動条件を確認してください。

■ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

- ヒルスタートアシストコントロールが制御可能状態になると、“ピッ”とブザーが1回鳴ります。
- ヒルスタートアシストコントロールが作動中に以下の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが2回鳴ります。
 - ・ブレーキペダルから足を離して、約2秒間運転操作を行わなかったとき
 - ・シフトレバーをPの位置にしたとき
 - ・パーキングブレーキをかけたとき
 - ・ブレーキペダルを再度踏み込んだとき
 - ・ブレーキペダルから足を離さずに約3分以上経過したとき
- ヒルスタートアシストコントロール以外の警告やお知らせによるブザーが鳴っているとき、制御可能状態と制御終了状態を知らせるブザーは鳴らないときがあります。

■スリップ表示灯が点灯したときは

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

警告

■ヒルスタートアシストコントロールについて

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

プリクラッシュセーフティシステム*

前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、乗員のけがや車両損傷の低減に寄与します。

■ 注意喚起表示・衝突警告表示



衝突の可能性があると検知したとき、“ピーピーピー”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに注意喚起表示が出ます。さらに衝突の可能性が高い場合には、“ピピピ…”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅、衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。

■ プリクラッシュシートベルト

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。

また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。(→P. 71)

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯、警告表示、ブザー音で危険を知らせ、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。スイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切りかえができます。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

プリクラッシュブレーキの切りかえ



1 プリクラッシュブレーキ OFF

2 プリクラッシュブレーキ ON

OFFにするとPCS警告灯が点灯します。

2

運転するとき

レーダーセンサー



走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その位置や速度、進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

 知識

■ システムの作動条件

● ブリクラッシュシートベルトの作動条件（タイプ A）

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 緊急ブレーキや車両の横すべりを判断したとき
- ・ フロント席の乗員がシートベルトを着用している

● ブリクラッシュシートベルトの作動条件（タイプ B）

- ・ フロント席の乗員がシートベルトを着用している
- ・ 車速が約 5 km/h 以上
- ・ 自車から見た対向車が障害物の接近速度が約 30 km/h 以上

● ブリクラッシュブレーキアシストの作動条件

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 自車から見た先行車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上
- ・ ブレーキペダルが踏まれているとき

● ブリクラッシュブレーキの作動条件

- ・ ブリクラッシュブレーキスイッチが ON になっている
- ・ 自車速度が約 15 km/h 以上
- ・ 自車から見た先行車や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、以下の場合、システムが作動することがあります。

- カーブ入り口の道路脇に障害物があつたとき
- カーブで、対向車とすれちがつたとき
- 狭い鉄橋を走行したとき
- 路面に金属物があつたとき
- 凹凸のある路面を走行したとき
- 右折時に対向車とすれちがつたとき

- 前を走っている車に急に近づいたとき
- 立体交差・標識・看板などが進行方向に見えたとき
- 上り坂走行中に看板などの上方金属物が前方に見えるとき
- VSC が OFF で車が横すべりしているとき
- 車高が極端に変化しているとき
- レーダーの軸がずれているとき
- ETC ゲートを高速で通過したとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くなったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に停止してシートベルトをはずし、再度装着してください。

■ センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物、二輪車、木、雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■ システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しないこともあります。

- きついカーブや起伏がある場所
- 凍結路や積雪路などのすべりやすい路面状態の場所
- 交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況
- 自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況
- 雨、霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況
- 車が横すべりしている状態
- 車両姿勢が極端に変化している状態

■ システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の危険があってもシステムは有効に作動しません。

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。（→P. 300, 304）



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムの機能を過信すると重大な事故につながることも考えられます。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■レーダーセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- センサーとグリルは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ず雷克萨斯販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。
- センサーやグリル周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルを改造したり塗装したりしない
- 本製品は電波法の基準に適合しています。製品に貼り付けられているラベルはその証明ですので剥がさないで下さい。又、製品を分解、改造されると罰せられる事があります。

**警告****■ システムの支援内容に関する注意点**

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、以下の点に注意してください。

● 運転者が見る過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ・ 運転席足元
- ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
- ・ トノカバー
- ・ インストルメントパネル
- ・ ダッシュボード

- 車内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

**警告****■ 荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシュャー液
- バッテリーの液量・比重を点検してください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。
(タイヤについて →P. 348)

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、速度を控えて走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P にいれて駐車し、輪止め※をしてください。

※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

 知識

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱書に従う
- 取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

 警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

 警告

■ **タイヤチェーン装着時の警告**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 50 km/h（一般路）または 30 km/h（冰雪路）をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

■ **駐車時の警告**

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意

■ **タイヤチェーンの使用について**

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ **フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは**

たたいて割らないでください。

ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	224
・ インテリアライト	225
・ パーソナルライト	225

3-2. 収納装備の使い方

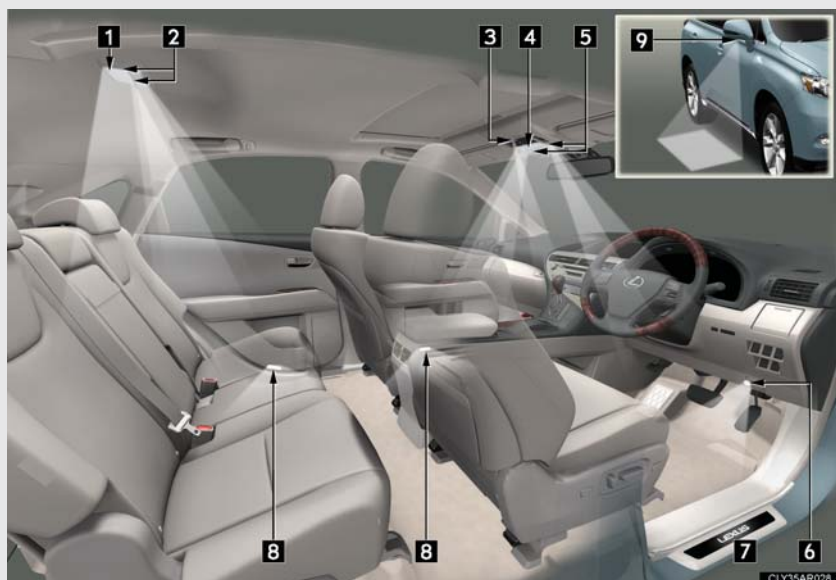
収納装備一覧	227
・ グローブボックス	228
・ ボトルホルダー／ ドアポケット	229
・ カップホルダー	230
・ コンソールボックス	233
・ 小物入れ	234
・ アンダートレイ	235

3-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー	236
バニティミラー	237
アクセサリースOCKET／ アクセサリー コンセント	238
シートヒーター& ベンチレーター	241
アームレスト	243
コートフック	244
フロアマット	245
ラゲージルーム内装備	246

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧

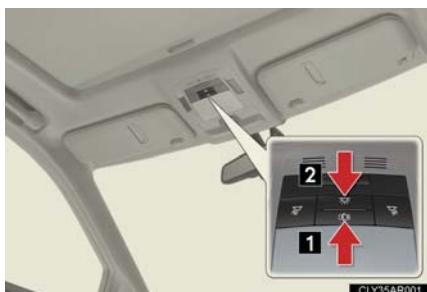


- 1 リヤインテリアライト
- 2 リヤパーソナルライト (→P. 225)
- 3 シフト照明 (“エンジン スタート ストップ” スイッチアクセサリーまたはイグニッション ON モード)
- 4 フロントインテリアライト (→P. 225)
- 5 フロントパーソナルライト (→P. 225)
- 6 足元照明
- 7 スカッフプレート照明*
- 8 ドアカーテシー照明
- 9 ドアミラー照明

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

インテリアライト、パーソナルライト

インテリアライト



- 1 ドアの開閉作動に連動してライトの点灯・消灯を切りかえる
- 2 ライトの点灯・消灯を切りかえる

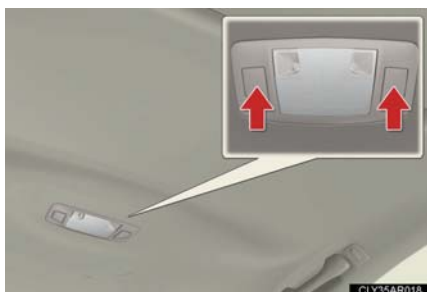
パーソナルライト

▶ フロント



ライトを点灯・消灯する

▶ リヤ



ライトを点灯・消灯する



■ イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・“エンジン スタート ストップ” スイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

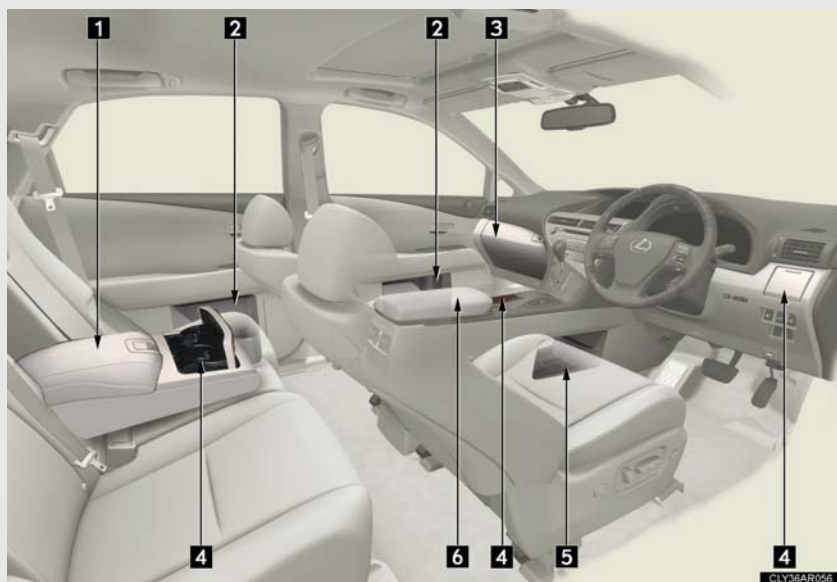
■ バッテリーあがりを防ぐために

半ドア状態でインテリアライトスイッチのドアポジションが ON のときに、インテリアライトが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■ 設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。(カスタマイズ一覧 →P. 350)

収納装備一覧



- 1 小物入れ*
- 2 ボトルホルダー／ドアポケット
- 3 グローブボックス
- 4 カップホルダー
- 5 アンダートレイ
- 6 コンソールボックス

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

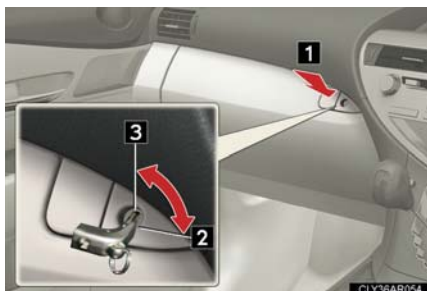
警告**■ 収納装備に放置してはいけないもの**

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままですと、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

グローブボックスはロック解除ボタンを押して、開けたり、メカニカルキーを使って施錠・解錠できます。



1 開ける（ボタンを押す）

2 施錠

3 解錠

知識**■ パワーバックドアメインスイッチ***

グローブボックス内に、パワーバックドアメインスイッチがあります。（→P. 47）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

グローブボックス、ボトルホルダー／ドアポケット

⚠ 警告**■ 走行中の警告**

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出した
りして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ボトルホルダー／ドアポケット**▶ フロント**

フロントドアのドアポケットは開閉
することができます。

▶ リヤ**📖 知識****■ ボトルホルダーについて**

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

ボトルホルダー／ドアポケット、カップホルダー

警告

■ 走行中の警告（フロントドアポケット）

ドアポケットを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたドアポケットに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

カップホルダー

▶ フロント（タイプ A）



カップホルダーのフタの左側を押して開ける

▶ フロント（タイプ B）

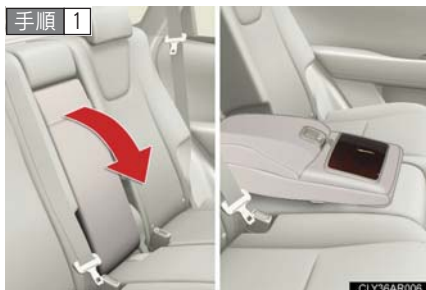


カップホルダーのフタの上側を押して開ける

カップホルダー

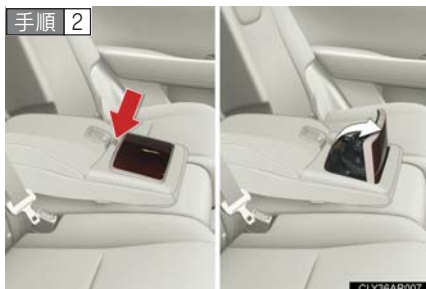
▶ リヤ

手順 1



アームレストを手前に倒す

手順 2



リアアームレストのボタンを押して開ける

知識

■ フロントカップホルダー（タイプ A）の仕切り部について



カップホルダー内を清掃するために、仕切り部を取りはずすことができます。

**警告****■ 収納してはいけないもの**

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。また、フタを閉じているときでも、ものを収納しないでください。
急ブレーキや事故により収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。

■ やけどを防ぐために

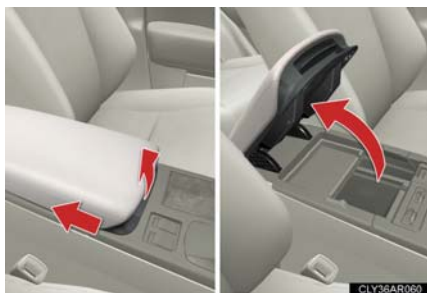
温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■ 使わないときは

フタを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

コンソールボックス

コンソールボックス

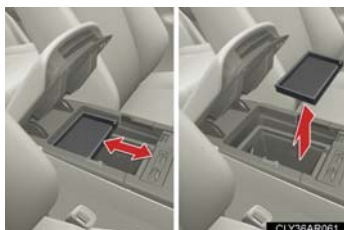


ノブを握ってロック解除し、アームレストをいちばんうしろまでスライドして開く

 知識

■ コンソールボックス内のトレイについて

▶ 上段トレイ



トレイは前後へスライド、または取りはずすことができます。

▶ 下段トレイ



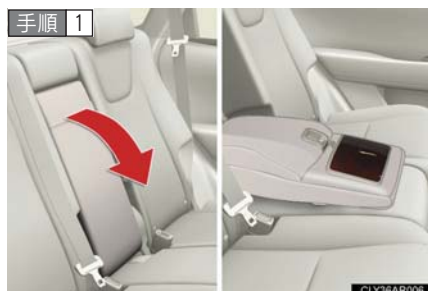
トレイは取りはずすことができます。

警告**■ 走行中の警告**

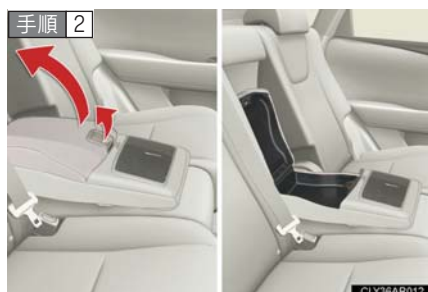
コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意**■ トレイについて**

トレイの高さ以上にものを入れないでください。フタの開閉のさまたげになるおそれがあります。

小物入れ*

アームレストを手前に倒す



レバーを引き上げてロックを解除し、フタを持ち上げて開く

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

小物入れ、アンダートレイ

⚠ 警告**■ 走行中の警告**

小物入れを必ず閉じてください。

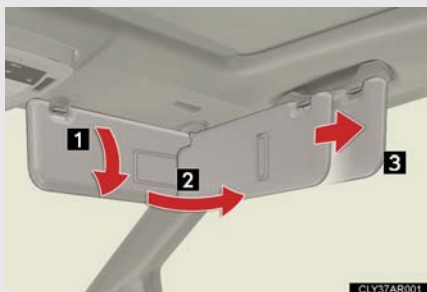
急ブレーキ時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アンダートレイ**⚠ 警告****■ 走行中の警告**

以下のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキ時や急旋回時などに、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 転がりやすいものを収納しないでください
- トレイの側面よりも高く積み上げて収納しないでください
- トレイの幅よりも大きなものを収納しないでください

サンバイザー



- ❶ 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ❷ 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす
- ❸ エクステンダーを使用するには、バイザーを横にした状態からうしろへ引く

バニティミラー



カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとライトが点灯します。

 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ライトを点灯しないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方

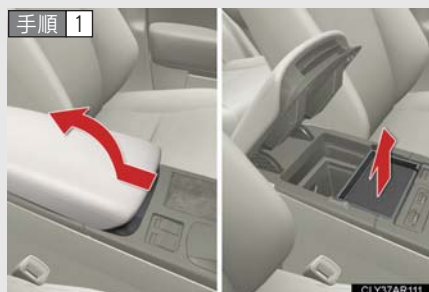
アクセサリースOCKET/アクセサリコンセント

以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

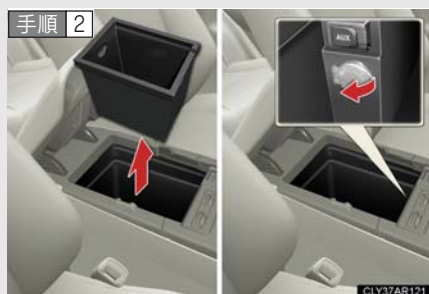
12 V: DC12 Vで最大電流 10 A(最大消費電力 120 W)以下の電気製品

AC100 V: AC100 Vで最大消費電力 100 W 以下の電気製品

▶ アクセサリースOCKET (フロント)



ノブを握ってロック解除し、アームレストをいちばんうしろまでスライドして開き、上段トレイを取り出す



下段トレイを取り出す

▶ アンダートレイ



▶ アクセサリーソケット (リヤ)



▶ アクセサリーコンセント



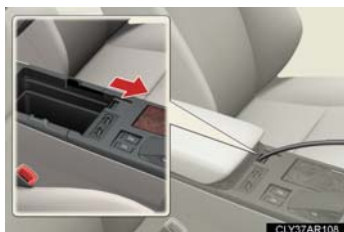
知識

■ 使用条件

アクセサリソケット：“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリまたはイグニッション ON モードのとき

アクセサリコンセント：“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■配線を引き出すには



カバーをスライドし、配線を引き出すことができます。

⚠ 注意

■ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがこぼれたりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

アクセサリソケット：DC12 V で最大電流 10 A（最大消費電力 120 W）以上の電気製品を使用しないでください。

アクセサリコンセント：AC100 V で最大消費電力 100 W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100 W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリソケットを長時間使用しないでください。

■正しく作動しないおそれがある電気製品（アクセサリコンセント）

以下のような AC100 V の電気製品は、消費電力が 100 W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50/60 Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

シートヒーター & ベンチレーター*

シートを暖めたり、シートから風を出して通気を良くできます。

■ シートヒーター



1 シートを暖める

インジケーターが点灯します。
大きい数字に合わせるほど高温になります。

■ シートヒーター & ベンチレーター



1 シートを暖める

インジケーターが点灯します。
大きい数字に合わせるほど高温になります。

2 シートから風を出す

インジケーターが点灯します。
大きい数字に合わせるほど風量が強くなります。



知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 使用しないときは

ダイヤルを 0 に合わせてください。インジケーターが消灯します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 警告

■ **やけどについて**

- 低温やけどを負うおそれがあるため、以下の方は特に注意してください。
 - ・ 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- シートに毛布・クッションなどを使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常過熱の原因になります。

 注意

■ **シートヒーター&ベンチレーターの損傷を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ **バッテリーあがりを防止するために**

エンジンが停止しているときは、スイッチを切ってください。

3-3. その他の室内装備の使い方

アームレスト



手前に倒して使用します。

注意

- アームレストの破損を防ぐために
過度の負荷をかけないでください。

コートフック



使用するときは、コートフックを押します。

警告

■ コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にとしっかりと固定してお使いください。



フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■ 運転席にフロアマットを敷くときは

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にとしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■ 運転する前に



- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にとしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

3-3. その他の室内装備の使い方

ラゲージルーム内装備

■ デッキフック



フックを起こして使用してください。

フックを使って荷物を固定することができます。

■ デッキアンダートレイ

▶ タイプ A



レバーを上へ引き上げ、デッキボードを持ち上げます。



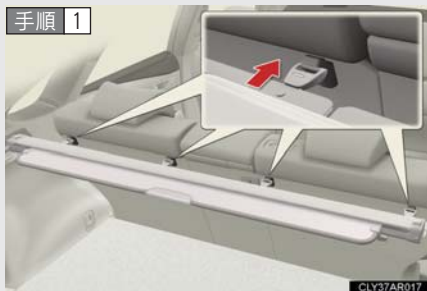
▶ タイプ B



ストラップを上へ引き上げ、カバーをはずします。

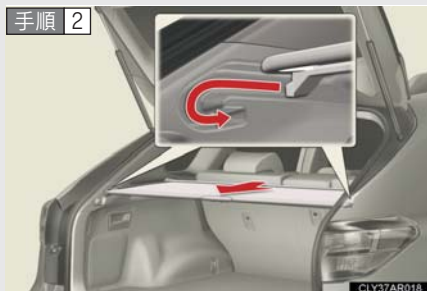
■ トノカバー

手順 1



サブカバーのクリップをリヤシートのホルダーに取り付ける。

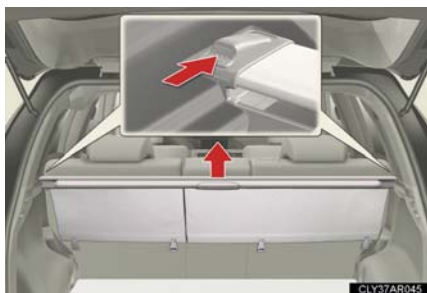
手順 2



カバー部を手前に引き、左右のホルダーに取り付ける。

トノカバーを取りはずす

▶ フロントトノカバー



ボタンを押しながらトノカバーを持ち上げます。

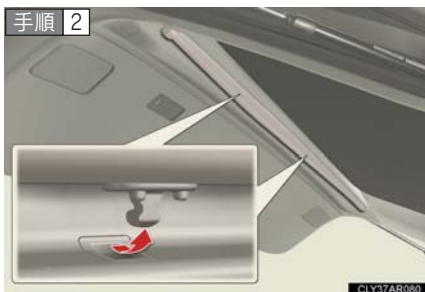
▶ リヤトノカバー

手順 1



リヤトノカバー外側の取り付け部をはずします。

手順 2



リヤトノカバー内側の取り付け部をはずします。

□ 知識

■ リヤトノカバーを取り付けるときは

- 取り付け位置を確認しながら、奥までしっかり押しこんでください。
- 取り付け後は、リヤトノカバーが確実に固定されていることを確認してください。



■ デッキフックを使用しないときは

必ずもとの位置にもどしておいてください。

■ トノカバーについて

トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。トノカバーが破損しお子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

お手入れのしかた

4

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	252
内装の手入れ	255
タイヤについて	258

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	261
ガレージジャッキ	263
エンジンルームカバー	265
電球（バルブ）の交換	267
ヒューズの点検、交換	277
電子キーの電池交換	285
ウォッシャー液の補給	287

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。(およそ体温以下を目安としてください。)

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどレックスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレックス販売店にお問い合わせください。



知識

■自動洗車機を使うときは

- 洗車する前に、ミラーを格納してください。
- 洗車する前に、ワイパースイッチを OFF にしてください。
- 洗車する前に、パワーバックドアシステム*を OFF にしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり破損したりするおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。
- 洗車の前に給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。

■ バンパー

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ ドアミラーの親水コーティングについて *

親水膜の効果を持続させるため、以下のことに注意してください。

- シリコンやコンパウンドの入っていないカーシャンプーやガラスクリーナーで清掃し、十分に水で洗い流す
- 晴天時に太陽光を 1・2 日間あてる。

⚠ 警告

■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 以下のような場合はただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり、泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

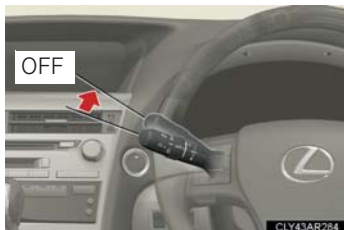
■ ライトの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ライトを損傷させるおそれがあります。
- ライトにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■ 自動洗車機を使用するときは



ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

4-1. お手入れのしかた

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る。

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く。
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る。
ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液まで薄めたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る。
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる。

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る。
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける。
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る。



知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーベットの洗淨

カーベットの常には乾いた状態を保つことをおすすめします。洗淨には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーベットの広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→ P. 69)



警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→ P. 108)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。



注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、以下の溶剤は使用しないでください。
 - ・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他の揮発性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

- 革の部分の損傷・消耗を避けるために、以下のことをお守りください。
- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く。
- 直射日光に長時間さらさないようにする。
特に夏場は日陰で車を保管する。
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない。

**注意****■ 床に水がかかると**

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

4-1. お手入れのしかた

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

● タイヤ空気圧

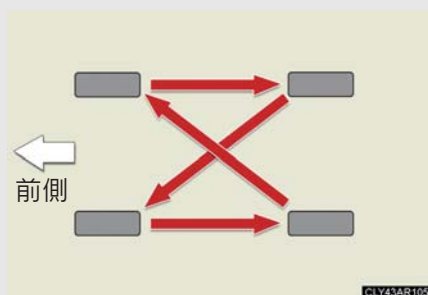
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた



図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

知識

■ タイヤ空気圧の数値



前輪：220 kPa (2.2 kg/cm²)

後輪：220 kPa (2.2 kg/cm²)

応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm²)

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■ 点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。

守らないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する。
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない。
- ラジアルタイヤ・バイアスペルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない。
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない。



警告

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷をあたえる。
- 車が横すべりする。
- 車の本来の性能（燃費、車両の安定性、制動距離など）が発揮されない。

■ タイヤサイズの変更について

新車時に装着されているタイヤサイズによってタイヤ切れ角の設定が異なるため、装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。サイズの異なるタイヤやホイールを装着した場合に車両の安定性が十分に確保できなくなる恐れがあり危険です。



注意

■ 走行中に空気漏れが起こったら

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

手順 1



ボンネット解除レバーを引く。

ボンネットが少し浮き上がります。

手順 2



レバーを引き上げてボンネットを開ける。

⚠ 警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認ください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認ください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは



ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため以下のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などで触れない
 - ・ ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

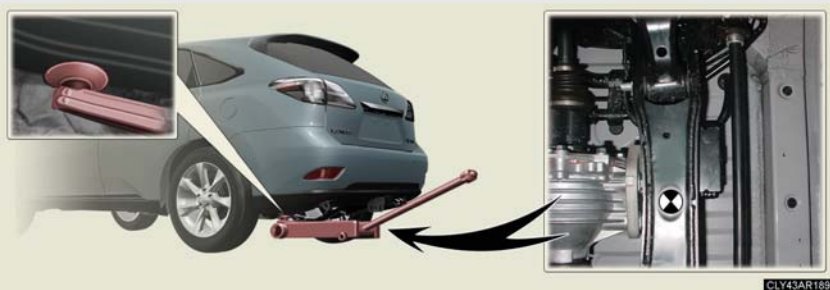
ガレージジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側



■ リヤ側



警告

■ 車両を持ち上げるときには

以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



● 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。

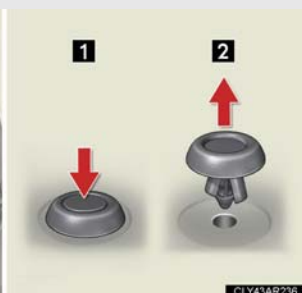
- ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する。
- 車に搭載されているジャッキを使用しない。
車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない。
- ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。
- 車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しない。
- 平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にする。
- ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする。
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。
また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げない。
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かない。

4-2. 簡単な点検・部品交換 エンジンルームカバー

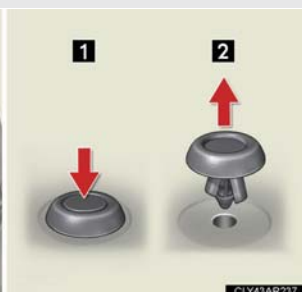
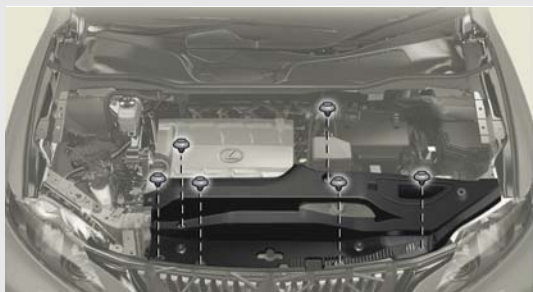
ヒューズや電球（バルブ）の点検・交換などを行うときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

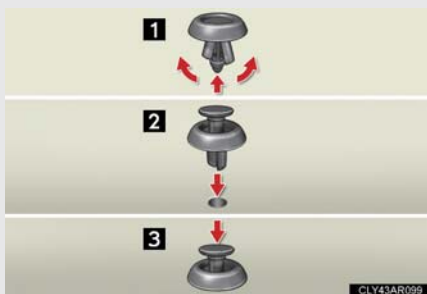
▶ 外側



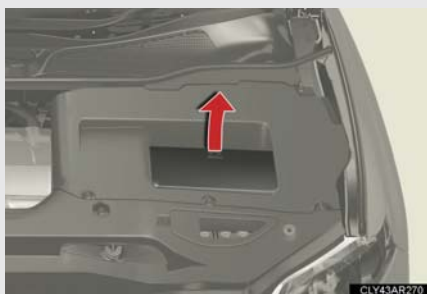
▶ 前側



▶ クリップの取り付け方



■ バッテリーカバーの取りはずし方



カバーを上にあげて取りはずす。

⚠ 警告

■ けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ カバーを取り付けたあとは

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認ください。

4-2. 簡単な点検・部品交換

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、レクサス販売店にご相談ください。

■ 電球の用意

切れた電球の W 数を確認してください。（→P. 348）

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

→P. 265

■ パワーバックドアシステム*を OFF にする

→P. 47

■ フロントのバルブ位置



*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ リヤのバルブ位置



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

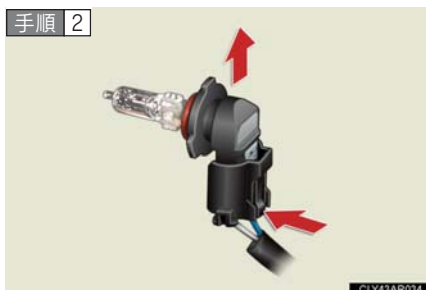
■ ヘッドライト（ハイビーム）

手順 1



ソケットを取りはずす。

手順 2



電球を取りはずす。

■ 車幅灯

手順 1



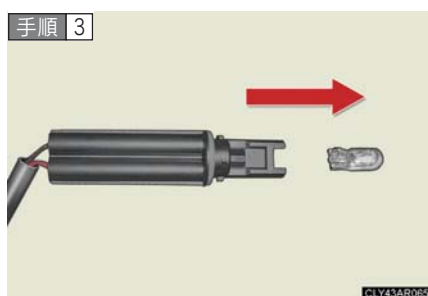
▶ 右側

1 キャップを開ける。

2 補給口をずらす。

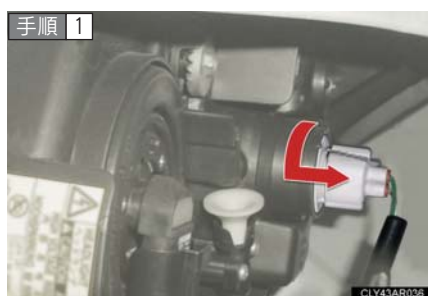


ソケットを取りはずす。

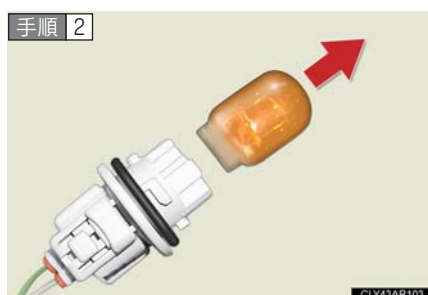


電球を取りはずす。

■ フロント方向指示兼非常点滅灯

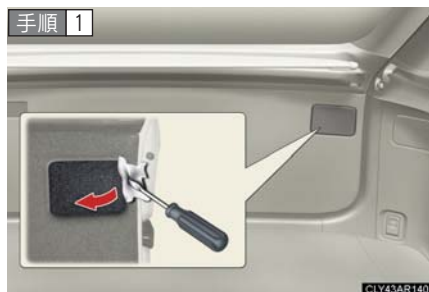


ソケットを取りはずす。



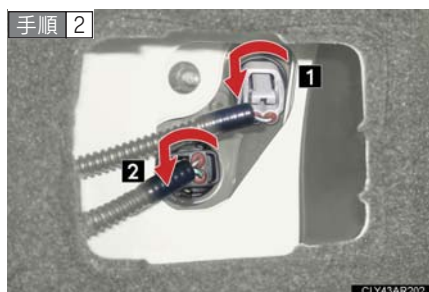
電球を取りはずす。

■ 後退灯、尾灯



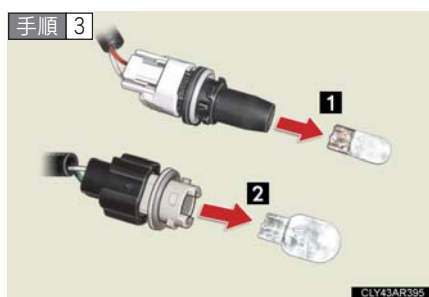
バックドアを開け、カバーの切り欠きにマイナスドライバーなどを差し込んで取りはずす。

傷付き防止のため、ドライバーの先端に布などをあててください。



ソケットを取りはずす。

- 1 尾灯
- 2 後退灯

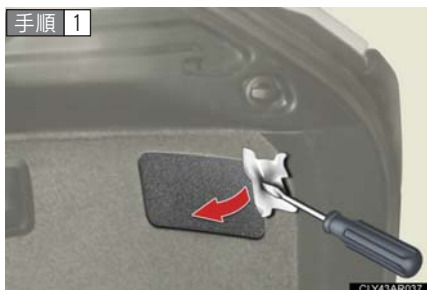


電球を取りはずす。

- 1 尾灯
- 2 後退灯

■ リヤ方向指示兼非常点滅灯、尾灯

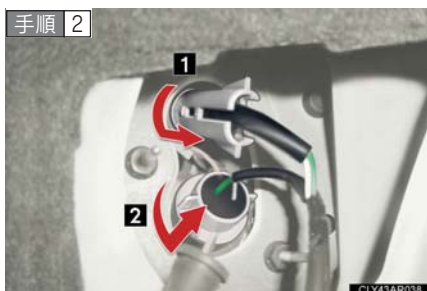
手順 1



バックドアを開け、カバーの切り欠きにマイナスドライバーなどを差し込んで取りはずす。

傷付き防止のため、ドライバーの先端に布などをあててください。

手順 2

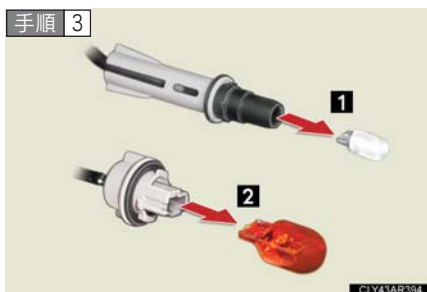


ソケットを取りはずす。

1 尾灯

2 リヤ方向指示兼非常点滅灯

手順 3

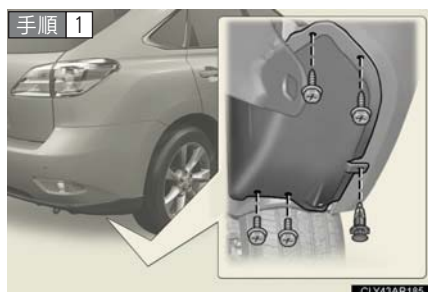


電球を取りはずす。

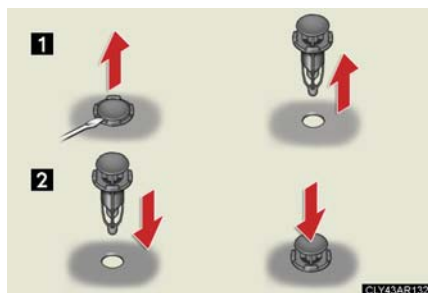
1 尾灯

2 リヤ方向指示兼非常点滅灯

■ リヤフォグライト*（右側）

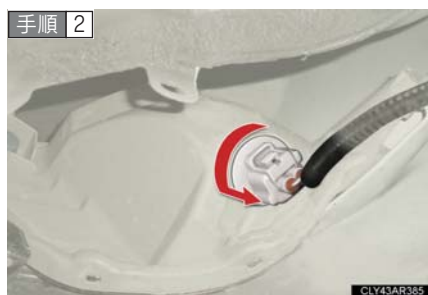


ボルト・クリップをはずし、カバーを取りはずす。



1 取りはずし

2 取り付け



ソケットを取りはずす。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

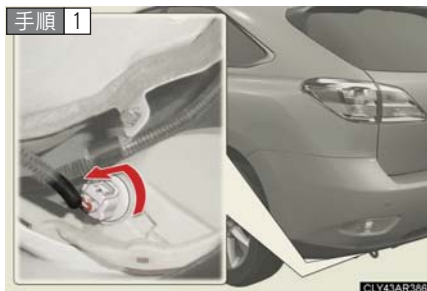
手順 3



電球を取りはずす。

■ リヤフォグライト*（左側）

手順 1



ソケットを取りはずす。

手順 2



電球を取りはずす。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドライト（ロービーム）
- サイド方向指示兼非常点滅灯
- フロントフォグライト
- 制動灯
- ハイマウントストップライト
- 番号灯



知識

■ レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ライト内に水がたまっている

■ ディスチャージヘッドライトの作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。電圧が正常にもどると再点灯します。



警告

■電球を交換するときは

- ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどするおそれがあります。
- 電球のガラス部を素手で触れないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■ディスチャージヘッドライトについて

- 交換するとき（電球交換含む）は、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- 点灯中は、高電圧ソケットに触れないでください。
瞬間的に2万ボルトの電圧が発生するため、感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ヘッドライト（ハイビーム）、フロント方向指示兼非常点滅灯の電球交換について

ご自身で電球交換を行った場合、車を損傷するおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認ください。

■LEDライトについて

サイド方向指示兼非常点滅灯、制動灯、ハイマウントストップライト、番号灯は数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも不灯になったときは、レクサス販売店で交換してください。

ヒューズの点検、交換

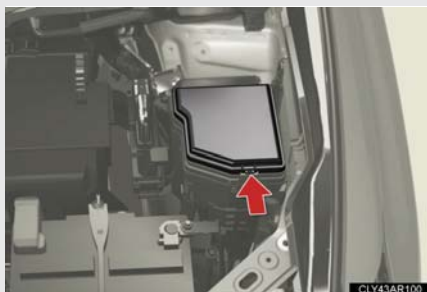
ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする。

手順 2 エンジンルームカバーを取りはずす。(→P. 265)

手順 3 ヒューズボックスを開ける。

▶ エンジンルーム



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ 助手席足元



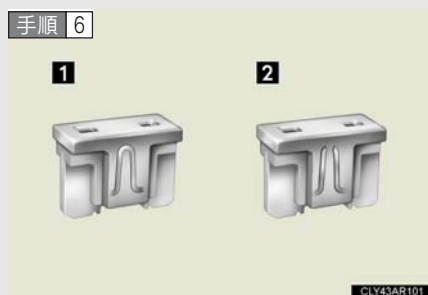
カバーを取りはずす。

手順 4 故障の状況から、点検すべきヒューズを確認する。(→ P. 279)



ヒューズはずしでヒューズを引き抜く。

▶ ヒューズ A

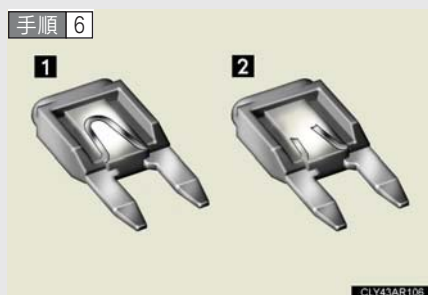


ヒューズが切れていないか点検する。

- 1 正常
- 2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

▶ ヒューズ B



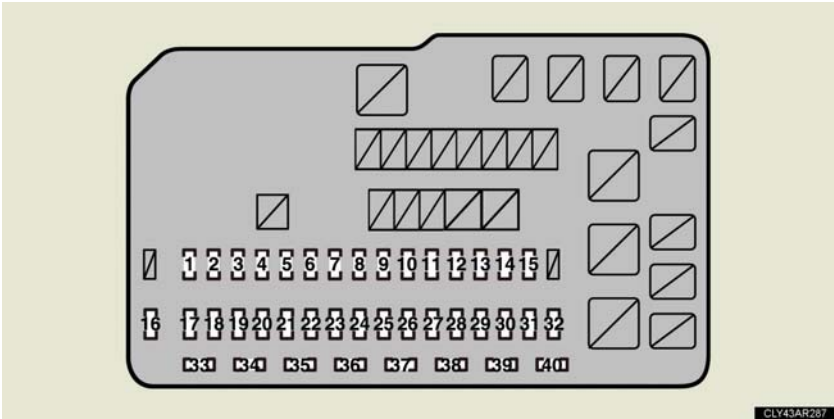
ヒューズが切れていないか点検する。

- 1 正常
- 2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	AMP1	30 A	オーディオシステム
2	EFI MAIN	30 A	EFI NO.1、EFI NO.2、EFI システム
3	AMP2	30 A	オーディオシステム
4	IG2 MAIN	30 A	スタートシステム、IGN、GAUGE NO.2、ECU-IG NO.2
5	IP J/B	25 A	パワードアロックシステム
6	STR LOCK	20 A	スタートシステム
7	RAD NO.3	15 A	オーディオシステム、メーター、ナビゲーションシステム
8	HAZ	15 A	方向指示兼非常点滅灯
9	ETCS	10 A	EFI システム
10	RAD NO.1	10 A	オーディオシステム
11	AM2	7.5 A	スタートシステム
12	ECU-B NO.2	7.5 A	エアコンシステム、スタートシステム、エアバッグシステム
13	MAYDAY/TEL	7.5 A	メーデーシステム

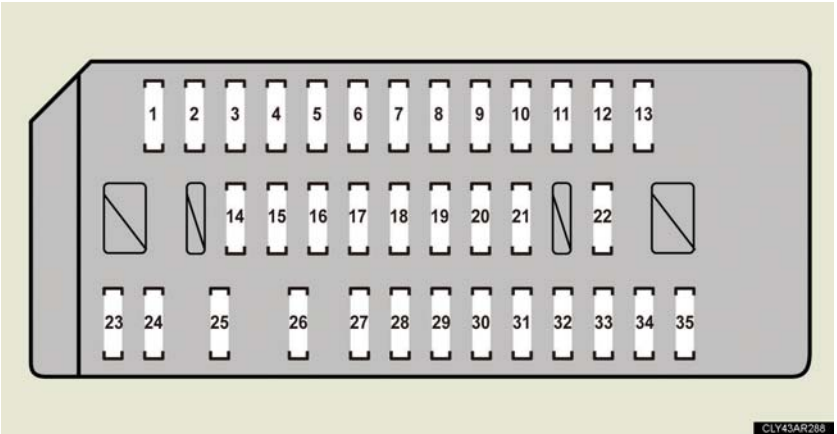
	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
14	IMMOBI	7.5 A	EFI コンピュータ
15	ALT-S	7.5 A	チャージングシステム
16	IGN	10 A	スタートシステム、EFI システム
17	DOME	10 A	室内灯、車幅灯、ラゲッジコンパートメントライト、バニティーミラーライト
18	ECU-B NO.1	10 A	室内灯、車幅灯、電動チルト&テレスコピックステアリング、マルチコミュニケーションシステム、メーター&ゲージ、パワーウィンドウ、シート調整、シートポジションメモリーシステム、パワーバックドア、ヘッドアップディスプレイ、スタートシステム、エアコンシステム、パワードアロックシステム
19	EFI NO.1	10 A	EFI システム
20	A/F ※ 1	10 A	EFI システム
	WIP-S ※ 2	7.5 A	ワイパー&ウォッシャー
21	AFS	7.5 A	AFS
22	BK/UP LP	7.5 A	後退灯
23	HEATER NO.2	7.5 A	エアコンシステム、AWD システム
24	ECU IG1	10 A	AFS、電動クーリングファン、クルーズコントロール、サスペンションシステム、ピークルスタビリティコントロール、ピークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント
25	EFI NO.2	10 A	EFI システム
26	F/PUMP ※ 2	15 A	EFI システム
27	DEICER	25 A	ワイパー&ウォッシャー
28	STOP	7.5 A	ピークルスタビリティコントロール、ピークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント、ハイマウントストップライト
29	TOWING BATT	20 A	トレーラーバッテリー

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
30	TOWING	30 A	トレーラーライト
31	FILTER	10 A	コンデンサー
32	IG1 MAIN	30 A	ECU IG1、B K/UP LP、 HEATER NO.2、AFS
33	H-LP RH HI	15 A	ヘッドライト右側（ハイビーム）
34	H-LP LH HI	15 A	ヘッドライト左側（ハイビーム）
35	BIXENON	10 A	ディスチャージヘッドライト
36	H-LP RH LO	15 A	ヘッドライト右側（ロービーム）
37	H-LP LH LO	15 A	ヘッドライト左側（ロービーム）
38	HORN	10 A	ホーン
39	EFI MAIN NO.2 ※ 1 A/F ※ 2	20 A	EFI システム
40	S-HORN	7.5 A	セキュリティホーン

※ 1:RX270

※ 2:RX350

■ 助手席足元



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	P/POINT	15 A	アクセサリースOCKET
2	ECU-ACC	10 A	ナビゲーションシステム、マルチコミュニケーションシステム、ヘッドアップディスプレイ、電動ミラー、ETC システム
3	CIG	15 A	アクセサリースOCKET
4	RADIO NO.2	7.5 A	オーディオシステム、アクセサリースOCKET
5	GAUGE NO.1	10 A	方向指示兼非常点滅灯、ナビゲーションシステム、ヘッドアップディスプレイ
6	ECU-IG1 NO.3	10 A	方向指示兼非常点滅灯、ワイパー＆ウォッシャー、シートヒーター、スタートシステム、アクセサリースOCKET、ムーンルーフ
7	ECU-IG1 NO.1	10 A	マルチコミュニケーションシステム、パワーステアリングシステム、シフトロックコントロールシステム、電動チルト&テレスコピックステアリング、オートマチックトランスミッションシステム、パワーバックドア
8	S/ROOF	30 A	ムーンルーフ

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
9	FUEL OPN	7.5 A	フューエルドアオープナー
10	PSB	30 A	プリクラッシュシートベルト
11	TI & TE	30 A	電動チルト&テレスコピックステアリング
12	DR LOCK	10 A	パワードアロックシステム
13	FR FOG	15 A	フロントフォグライト
14	4WD	7.5 A	AWD システム
15	INVERTER	20 A	——
16	RR FOG	7.5 A	リヤフォグライト
17	D/L ALT B	25 A	マルチコミュニケーションシステム
18	HEATER	10 A	エアコンシステム
19	ECU-IG1 NO.2	10 A	エアコンシステム、EFI システム、エアバックシステム、マルチインフォメーションディスプレイ
20	PANEL	10 A	イルミネーションスイッチ、ナビゲーションシステム、電子制御エアサスペンション、ワイパーデアイサー、シートヒーター、パワーバックドア、オーディオシステム、マルチインフォメーションディスプレイ、エアコンシステム
21	TAIL	10 A	尾灯、番号灯、フロントフォグライト、リヤフォグライト、トローリングコンバーター
22	AIR SUS	20 A	電子制御エアサスペンション
23	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
24	FR DOOR	25 A	フロント右側パワーウィンドウ
25	RR DOOR	25 A	リヤ右側パワーウィンドウ
26	FL DOOR	25 A	フロント左側パワーウィンドウ
27	RL DOOR	25 A	リヤ左側パワーウィンドウ
28	FR WASH	25 A	ワイパー&ウォッシャー
29	RR WIP	15 A	ワイパー&ウォッシャー
30	RR WASH	20 A	ワイパー&ウォッシャー

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
31	FR WIP	15 A	ワイパー&ウォッシャー
32	ECU IG2	10 A	スタートシステム、AWD システム、バックガイドモニター
33	GAUGE NO.2	7.5 A	ゲージ&メーター
34	RH S-HTR	15 A	シートヒーター右側
35	LH S-HTR	15 A	シートヒーター左側

知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 267)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。一瞬であっても、決して銅線でつながないでください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

4-2. 簡単な点検・部品交換

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバー
- リチウム電池 CR1632

■ 電池交換のしかた

手順 1



解除レバーをスライドさせメカニカルキーを抜く。

手順 2



カバーをはずす。

手順 3



消耗した電池を取り出す。

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

知識

■ 電子キーの電池が消耗していると

以下のような状態が起こります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■ リチウム電池 CR1632 の入手

電池はレクサス販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ 交換後、正常に機能させるために

以下のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ウォッシャー液の補給



ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する。

警告

■ ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。

塗装にしみがつくおそれがあります。

■ ウォッシャー液の薄め方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

5-1. まず初めに

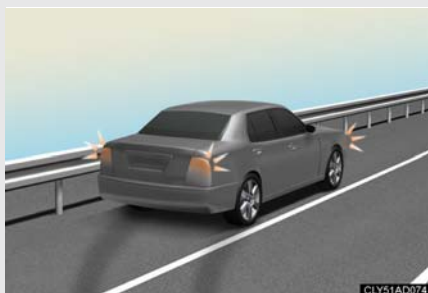
故障したときは.....	290
発炎筒	291
非常点滅灯	293
けん引について.....	294
イベントデータ レコーダー	298

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは.....	300
警告メッセージが表示された ときは	304
パンクしたときは.....	319
エンジンがかからない ときは	329
シフトレバーがシフト できないときは.....	331
キーを無くしたときは.....	332
電子キーが正常に働かない ときは	333
バッテリーがあがった ときは	336
オーバーヒートした ときは	339
スタックしたときは.....	341
車両を緊急停止するには	342

5-1. まず初めに 故障したときは

故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。



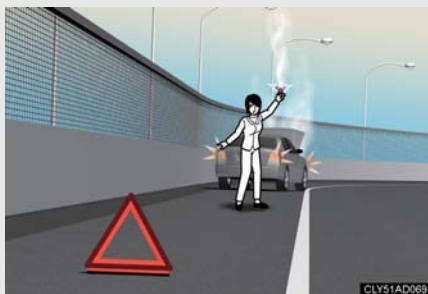
非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

(→P. 293)

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



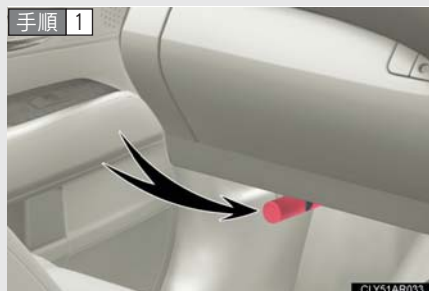
高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています。)



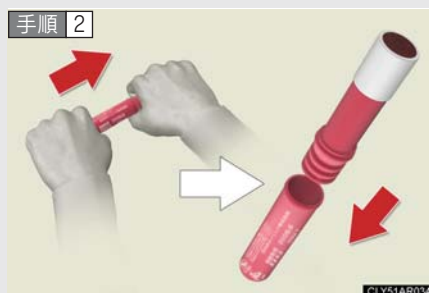
緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 291)

5-1. まず初めに 発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時に使用してください。
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。



助手席足元の発炎筒を取り出す



本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして差し込む



先端のフタを取り、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる

知識

■ 発炎筒の有効期限

表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。



警告

■ 発炎筒が使用できない場所

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

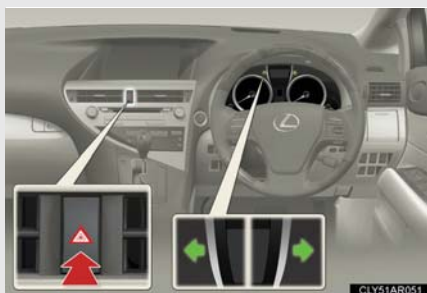
■ 発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

5-1. まず初めに 非常点滅灯

事故や故障のときなどに使用してください。



スイッチを押すとすべての方向
指示灯が点滅し、もう一度押すと
消灯します



■ バッテリーあがりを防ぐために

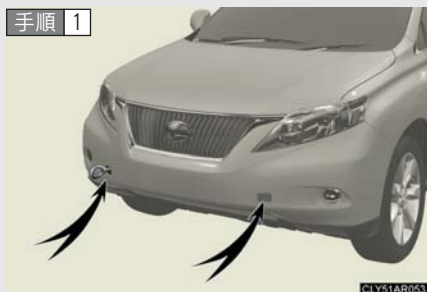
エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

5-1. まず初めに けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者に依頼ください。

■ けん引されるときは

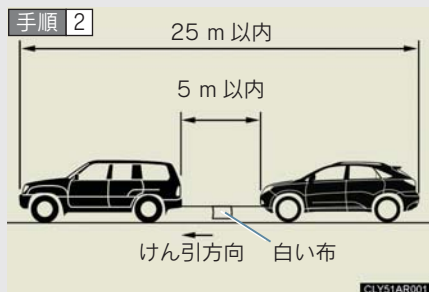
手順 1



車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

手順 2



ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3 m 平方 (30 cm × 30 cm) 以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

エンジンがかからないときは、“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモード、またはイグニッション ON モードにしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意し、ロープをたるませないようにしてください。

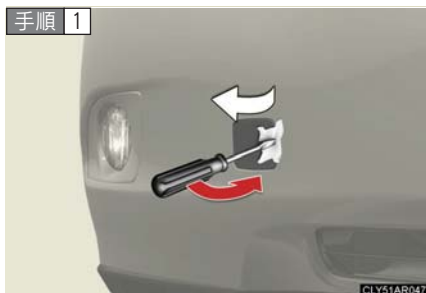
けん引する前に

以下の場合、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店へご連絡ください。

- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音をする

けん引フックの取り付けかた

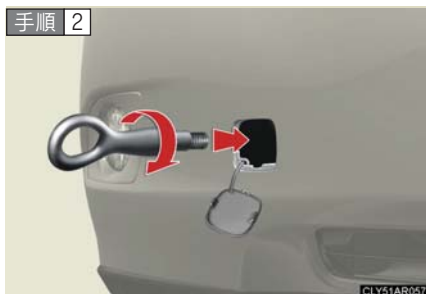
手順 1



マイナスドライバーを使ってフタをはずす

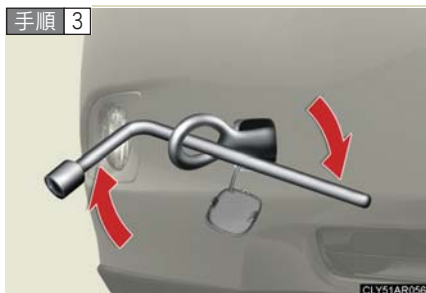
車体への損傷を防ぐため、イラストのように車体とマイナスドライバーの間に布をあててください。

手順 2



けん引フックを穴に挿し込み軽くしめる

手順 3



ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける



■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引フックの収納位置

→P. 319



警告

■けん引するときは

必ず以下のことをお守りください。

お守りいただかないと駆動装置が損傷したり、車が台車から飛び出すおそれがあります。



2WD 車：前輪が地面に付いた状態で後ろからけん引しない。



AWD 車：前輪または後輪のいずれかの車輪が地面に付いた状態でけん引しない。

**警告****■けん引中の運転について**

- けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や間違った車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にけん引フックをしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けないとけん引時にはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■車の損傷を防ぐために**

- けん引するときは以下のことを必ずお守りください。
 - ・ワイヤーロープは使用しない
 - ・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内にけん引する
 - ・前進方向でけん引する
 - ・サスペンション部などにロープをかけない
- この車で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピュータを搭載しています。このコンピュータはシステムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに以下のデータを記録します。

- エンジンの回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- オートマチックトランスミッションのシフトポジション
- 助手席乗員の有無
- 運転者および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

レクサスおよびレクサスが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、レクサスおよびレクサスが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの、使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯（警告ブザー）※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。

※ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー
→ P. 309

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯 ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
	PCS 警告灯* ・プリクラッシュセーフティシステムの異常

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 (警告ブザー) ※ 1 いずれかのドアが確実に閉 まっていない	全ドアを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 11L 以下になっ た	燃料を補給する
	運転席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
	助手席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと 共に点灯・点滅しマルチイン フォメーションディスプレイ 上に警告メッセージを表示し ます。	→ P. 304

※ 1 半ドア走行時警告ブザー：

→ P. 309

※ 2 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

 知識

■ 助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯について

電圧が低い、または低下した場合に点灯することがあります。

 警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて以下のように対処してください。



- 1** マスターウォーニングライト
マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。
- 2** マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

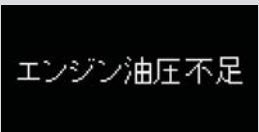
ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告は、ブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
ブレーキ異常	ブレーキ液の不足 ブレーキ系統の異常 警告ブザーが鳴ります。

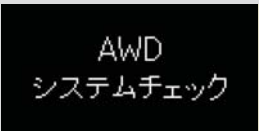
ただちに停車してください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。以下の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
 	エンジンオイル圧力の異常 エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。
  (点滅)	AWD システム*の過熱

ただちに点検を受けてください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
 	AWD システム*の異常

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
AT油温異常 	オートマチックトランスミッション油の過熱
ステアリングロック システムチェック 	ステアリングロックシステムの異常
エアサスペンション システムチェック 	電子制御エアサスペンションシステム*の異常
AFSチェック AFS OFF (点滅) 	AFS *の異常

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
ブレーキランプ システムチェック 	ブレーキランプ制御システムの異常
PCS システムチェック 	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*の異常
 ソナー システム チェック 	クリアランスソナー*の異常 異常のあるソナーが点滅して表示されます。
クルーズ システムチェック  (点滅) または  (点滅) 	レーダークルーズコントロールシステム*の異常 メインスイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
ナビ・ブレーキアシスト システムチェック 	ナビ・ブレーキアシストの異常 ナビ・ブレーキアシストについては「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
ヘッドライト レベリング システムチェック 	ヘッドライトオートレベリングシステムの異常
エアバッグ システムチェック 	SRS エアバッグ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
ABSチェック	ABS・ブレーキアシストの異常
パワーステアリング システムチェック 	EPS の異常

ただちに処置してください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。以下の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

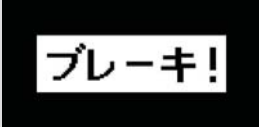
警告メッセージ	警告内容	対処方法
   	各ドアが確実に閉まっていない 開いてるドアが表示されます。 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5 km/h をこえたときにはブザーが鳴ります。	各ドアを閉める
ボンネット 	ボンネットが確実に閉まっていない ボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5 km/h をこえたときにはブザーが鳴ります。	ボンネットを閉める
バックドア 	バックドアが確実に閉まっていない バックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5 km/h をこえたときにはブザーが鳴ります。	バックドアを閉める

警告メッセージ	警告内容	対処方法
ムーンルーフが開いています  (点滅)	ムーンルーフ*が確実に閉まっていない状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にして運転席ドアを開けた	ムーンルーフを閉める
パーキングブレーキを解除して下さい	パーキングブレーキが解除されていない パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5 km/h を超えたときには  が点滅しブザーが鳴ります。	パーキングブレーキを解除する
ウォッシャー液不足	ウォッシャー液が残りわずか	ウォッシャー液を補充する
AWD解除  (点滅)	AWD システム*が現在機能していないことを示す 警告ブザーが鳴ります。	・車速を落とす ・停車する
PCS 現在使用できません	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*が現在機能していない	グリルまたはセンサーの汚れを取り除く プリクラッシュセーフティシステムが熱くなると点灯します。この場合はシステムが通常温度になるまでしばらくお待ちください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
 	クリアランスソナー*のセンサー部分の汚れ、氷などの付着 警告ブザーが鳴ります。	汚れおよび氷などを取り除く
レーダー汚れ 清掃必要  (点滅) 	レーダークルーズコントロール*のセンサー部分の汚れ、氷などの付着 警告ブザーが鳴ります。	汚れおよび氷などを取り除く
悪天候 クルーズできません  (点滅) 	レーダークルーズコントロール*の車間制御の測定不可	・走行モードを通常走行モードにかえる ・ワイパーを止めるか、“AUTO” または高速作動以外にかえる
 (点滅)	衝突の可能性が高い ヘッドアップディスプレイ*に  も表示されます (部分点滅)。	ブレーキで減速する

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキ*が作動している ヘッドアップディスプレイに  も表示されます（点滅）。	ブレーキで減速する
 (点滅)	(レーダークルーズコントロール*の車間制御中) 衝突の危険性 ヘッドアップディスプレイに  も表示されます（点滅）。	ブレーキを踏む
エンジン オーバーヒート 	エンジンオーバーヒート 警告ブザーが鳴ります。	→P. 339
給油して下さい	燃料の不足	燃料残量を点検し、燃料を補給する。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

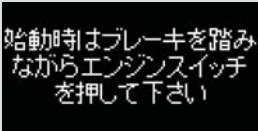
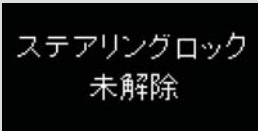
それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	キーが 見つかりません  (点滅)	電子キーを携帯していない状態でエンジンを始動しようとした	電子キーを携帯する
1 回	3 回	キーが 見つかりません  (点滅)	“エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した	電子キーを車内にもどす
			シフトレバーがPの状態で“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にするまたは電子キーを車内にもどす

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	1 回	キーが 見つかりません 電源を OFFして下さい (交互に表示)  (点滅)	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
1 回	なし	キーが 見つかりません  (点滅)	正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する
連続音	なし	Pレンジに 入れて下さい  (点滅)	シフトレバーがP以外の状態で、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた	シフトレバーをPにする

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
連続音	連続音	Pレンジに 入れて下さい キーが 見つかりません (交互に表示)  (点滅)	シフトレバーがP以外の状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにせず、キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	・シフトレバーをPにする ・電子キーを車内に入れる
1 回	連続音	車室内に キーがあります  (点滅)	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
1 回	なし	ブレーキを踏みながら キーでエンジンスイッチ に触れて下さい  (点滅)	・メカニカルキーで解錠して“エンジン スタート ストップ”スイッチを押した際、車室内でキーを検出できなかった ・“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したとき車室内でキーを検出できないことが2回連続で続いた	ブレーキを踏みながら電子キーで“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れる

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	始動時はPレンジに 入れて下さい  (点滅)	エンジン始動不可 能なシフトレバー 位置でエンジンを 始動しようとして いる	シフトレバーを P に入れてからエン ジンを始動させる
1 回	なし	電源OFF時はPレンジ に入れてエンジン スイッチを押して下さい  (点滅)	シフトレバーが P 以外で “エンジン スタート ストッ プ” スwitchの モードを OFF にし ようとした	“エンジン スター ト ストップ” ス イッチのモードを OFF にしたい場合 は、シフトレバー を P にし “エンジ ン スタート ストッ プ” スイッチを押 す
なし	なし	バッテリー保護の為 自動電源OFFしました	自動電源 OFF 機能 が作動した	次回エンジン始動 時にエンジン回転 数を少し高めにし、 約 5 分間その回転 数を保持し補機 バッテリーを充電 する
1 回	なし	キーバッテリー 残りわずか 	電子キーの電池残 量が少ない	新しい電池と交換 する (→P. 285)

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	  (点滅)	“エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF の状態で運転席のドアを開閉してからエンジンを始動せずに “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードに 2 回した	ブレーキを踏んで “エンジン スタート ストップ” スイッチを押す
			電子キーが正常に働かないときのエンジンの始動の方法で (→P. 333) “エンジン スタート ストップ” スイッチに電子キーを触れた	ブザーが鳴ってから 10 秒以内に “エンジン スタート ストップ” スイッチを押す
1 回	なし	  (点滅)	“エンジン スタート ストップ” スイッチを押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキを踏んでハンドルを左右にまわしながら “エンジン スタート ストップ” スイッチを押す

 知識

■ レーダークルーズコントロール*の車間制御中の警告表示について

車間距離が短くても、以下のような場合は警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常に低速で走行しているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルが踏まれたとき

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

パンクしたときは

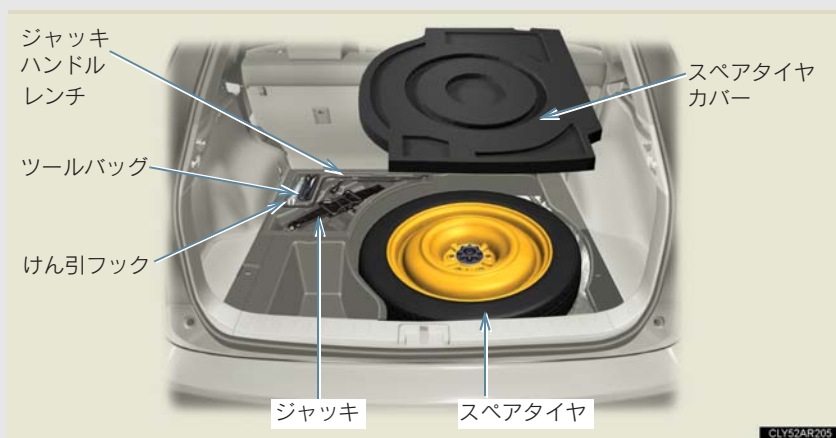
パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。

(タイヤについての詳しい説明は P. 258 を参照ください)

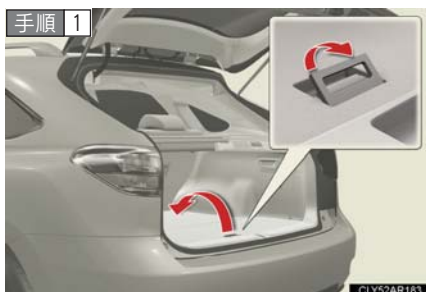
■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- 電子制御エアサスペンション装着車 :
車高制御を OFF にする (→P. 197)
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

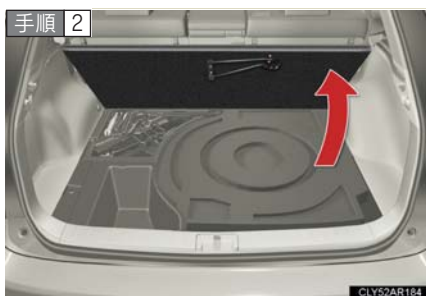
■ 工具とジャッキ位置



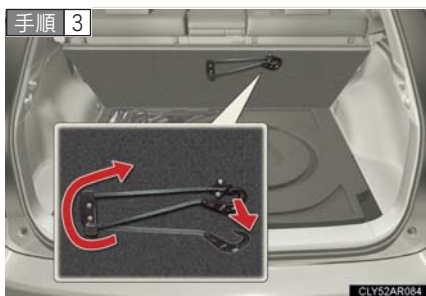
ジャッキの取り出し方



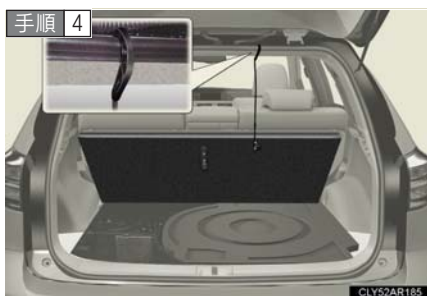
レバーを持ち上げデッキボードを半分に折りたたむ



折りたたんだデッキボードを持ち上げる



デッキボードの裏側のフックをはずし、ひもをはずす

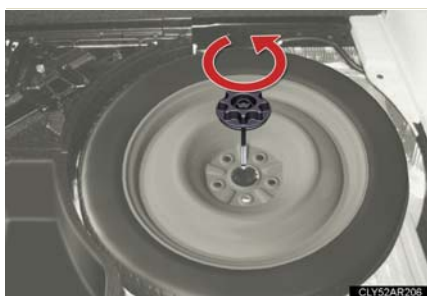


フックを使って、デッキボードを留める



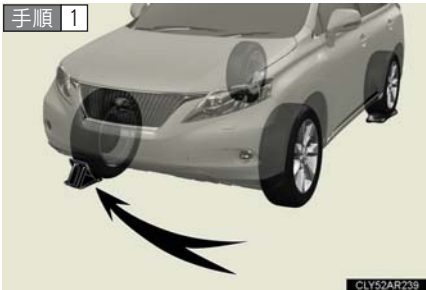
ジャッキの留め具をはずす

応急用タイヤの取り出し



デッキボードを持ち上げてからスペアタイヤカバーを取りはずす。留め具をはずし、スペアタイヤを取り出す

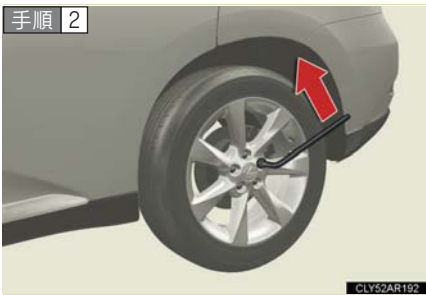
パンクしたタイヤの交換



輪止め※をする

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

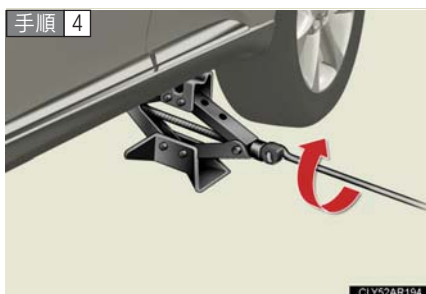
※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。



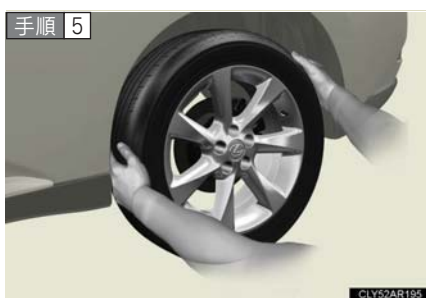
ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける



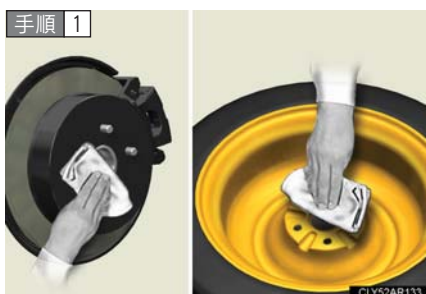
タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

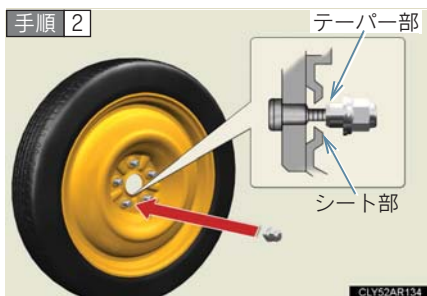
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。

スペアタイヤの取り付け



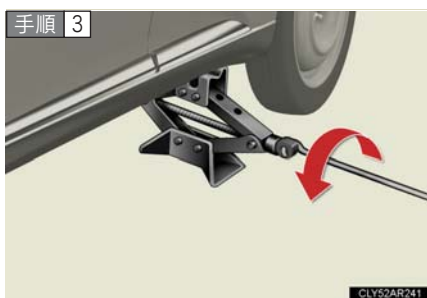
ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

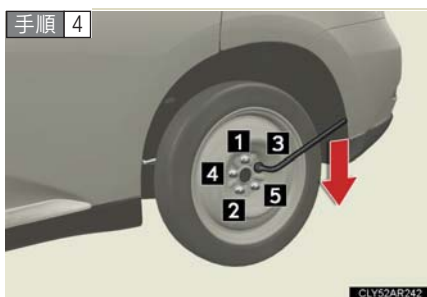


応急用タイヤを取り付け、タイヤが
がたつかない程度まで手でナットを
仮締めする

ナットのテーパ部がホイールのシー
ト部に軽くあたるまでまわす。



車体を下げる



図の番号順でナットを 2、3 度しっ
かり締め付ける

締め付けトルク：
103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

 知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→P. 348)

■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは

- 手順 1 後輪を応急用タイヤと交換する
- 手順 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する
- 手順 3 タイヤチェーンを前輪に装着する



警告

■ 応急用タイヤを使用するときは

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回は避けてください。

■ 応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があります、以下のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS
- ブレーキアシスト
- VSC
- TRC
- ナビゲーションシステム
- クリアランスソナー*
- バックガイドモニター*
- クルーズコントロール*
- レーダークルーズコントロール*
- 電子制御エアサスペンション*
- プリクラッシュセーフティシステム*

また、以下のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- AWD システム*

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 警告**■ ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
 - 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
 - ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
 - ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
 - ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
 - 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
 - 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
 - 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
 - 車を持ち上げるときは、車高制御を OFF にし、エンジンを停止する（電子制御エアサスペンション装着車）
 - 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。



警告

■ タイヤ交換について

けがを負う危険を減らすため、以下のことを必ずお守りください。

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。
- ホイールの交換後はすぐに 103 N・m (1050 kgf・cm) の力でナットを締める
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける
上記のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■ 応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■ 応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側に当たり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 142）に従っても、エンジンがかからないときは、以下のことを確認してください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 142）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→ P. 99）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 336）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 330）

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 336）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、以下の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 手順 3 “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードにする
- 手順 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んで “エンジン スタート ストップ” スイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

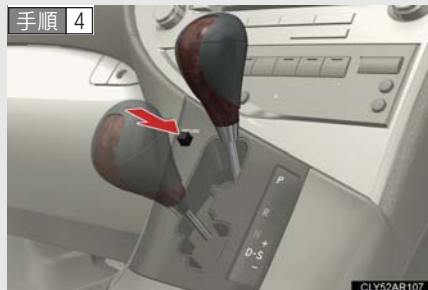
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードにする

手順 3 ブレーキペダルを踏む



シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいキーを作ることができます。
(→ P. 24)

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 34）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠とキー連動操作



- 1 全ドア施錠
- 2 ドアガラス・ムーンルーフ*が閉まる（まわし続ける）
- 3 全ドア解錠
- 4 ドアガラス・ムーンルーフ*が開く（まわし続ける）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

モードの切りかえ、エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

手順 2



電子キーのレクサスエンブレム面で、“エンジン スタート ストップ” スイッチに触れる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“エンジン スタート ストップ” スイッチに触れた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。



手順 3 モードの切りかえ：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して“エンジン スタート ストップ” スイッチを押します。スイッチを押すごとにモードを切りかえることができます。(→ P. 143)

エンジン始動：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、“エンジン スタート ストップ” スイッチを押します。

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

 知識

■ エンジンの停止のしかた

通常のエンジンの停止のしかたと同様、シフトレバーを P にして“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 285)

バッテリーがあがったときは

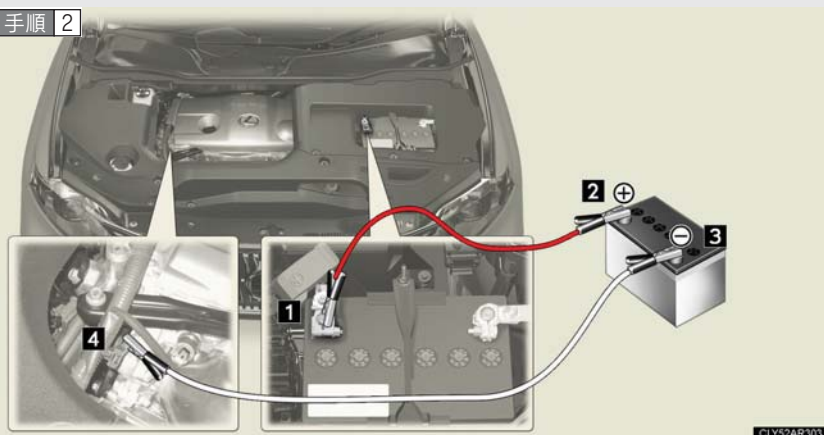
バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12 V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

手順 1 ボンネットを開けて、バッテリーカバーをはずす
(→P. 265)

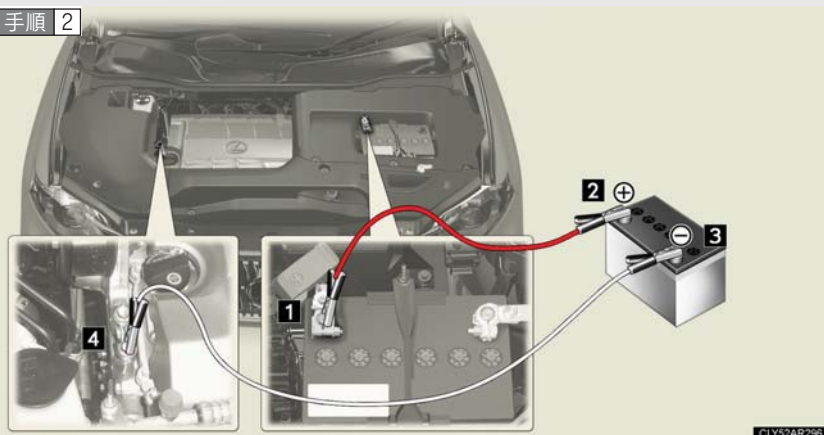
▶ RX270

手順 2



▶ RX350

手順 2



バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを以下の順につなぐ

- 1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
- 2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- 3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- 4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 4 “エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF の状態で、いずれかのドアを開閉する

手順 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、“エンジン スタート ストップ” スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから、自車のエンジンをかける

手順 6 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーがあがってしまった場合は

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはレクサス販売店で点検を受けてください。



警告

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、以下のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ブースターケーブルは“+”と“-”の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付かないようにする
- バッテリーに寄りかかったりしない
- 誤ってバッテリー液が身体に付いたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診断を受ける
また、医師の診断を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近づけない



注意

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：

エンジンを停止する。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：

エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける

手順 3 エンジンルームカバーをはずす (→P. 265)

手順 4 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

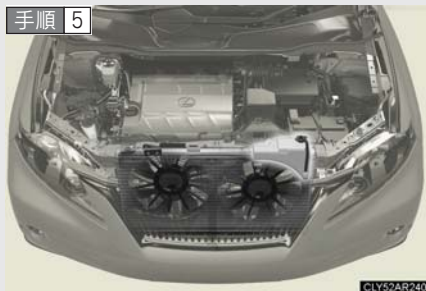
ファンが作動している場合：

水温計の針が下がってきからエンジンを停止する

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを停止して、レクサス販売店に連絡する

手順 5



エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水もれを点検する

手順 6



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給してください。

早めに最寄りのレクサス販売店で点検を受けてください。



知識

■ オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

- メーター内の水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- エンジンルームから蒸気が出る



警告

■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。



注意

■ 冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法で脱出してください。

手順 1 エンジン进行停止する。パーキングブレーキを掛け、シフトレバーを P にする

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジン进行再始動する

手順 5 AWD 車：AWD LOCK モードスイッチを押しして ON にする
(→P. 209)

手順 6 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

TRC・VSC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC を停止してください。(→P. 205)

警告

■ 脱出するときは

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もなことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ オートマチックトランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる。

▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 エンジンを停止する。

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

手順 4



“エンジンスタートストップ”スイッチを3秒以上押し続けてエンジンを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。

車両仕様

6

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料、
オイル量など) 344

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 350

6-3 初期設定

初期設定が必要な項目 355

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など）

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
▶ RX270 無鉛レギュラーガソリン ▶ RX350 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	72

エンジンオイル

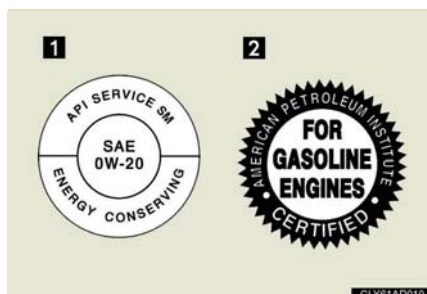
銘柄※ ¹		容量 [L]（参考値）	
		オイルのみ 交換	オイルと オイル フィルター 交換
弊社純正モーターオイル SM 0W-20 ※ ² —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SM 5W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30	RX270	4.0	4.4
弊社純正モーターオイル SM 10W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30 弊社純正モーターオイル SL 5W-20 —API SL, EC SAE 5W-20 弊社純正モーターオイル SL 10W-30 —API SL, EC SAE 10W-30	RX350	5.7	6.1

※¹ 使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイルのご使用をおすすめします。弊社純正オイル以外を使用される場合は、弊社純正オイルに相当する品質のものをご使用ください。

※² 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

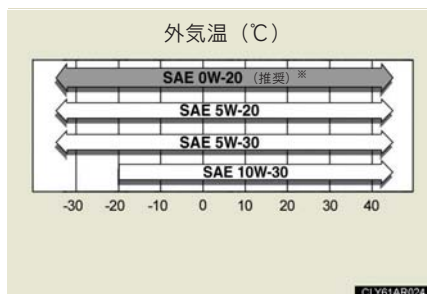


1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。
オイル粘度について：

- オイル粘度表示の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、オイル粘度の硬さを示しています。粘度の高いオイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	容量 [L] (参考値)
弊社純正スーパーロングライフクーラント	▶ RX270
凍結保証温度	6.7
濃度 30% -12℃	▶ RX350
濃度 50% -35℃	8.6

オートマチックトランスミッション

銘柄	駆動方式	容量 [L] (参考値)
弊社純正オートフルード WS	FF（前輪駆動）	6.5
	AWD（4 輪駆動）	6.7

トランスファー（AWD 車）

銘柄※（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE 75W-85)	0.8

※ 使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイルのご使用をおすすめします。弊社純正オイル以外を使用される場合は、弊社純正オイルに相当する品質のものをご使用ください。

リヤディファレンシャル（AWD 車）

銘柄※（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE 75W-85)	0.5

※ 使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイルのご使用をおすすめします。弊社純正オイル以外を使用される場合は、弊社純正オイルに相当する品質のものをご使用ください。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄[※]

弊社純正ブレーキフルード 2500H

※ 使用するブレーキフルードの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正ブレーキフルードのご使用をおすすめします。弊社純正ブレーキフルード以外を使用される場合は、弊社純正ブレーキフルードに相当する品質のものをご使用ください。

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 [※]	89

※ 500 N (51 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 (回数)
踏みしろ 操作力 300 N (31 kgf) のときのノッチ [※] 数	5 ～ 8

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチツ” という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L] (参考値)

4.8

タイヤ

タイヤサイズ		タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)
標準 タイヤ	235/60R18 103H	220 (2.2)
	235/55R19 101V	
応急用 スペア タイヤ	T165/90D18 107M	420 (4.2)

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト	
	ハイビーム（バルブタイプ：HB3）	60
	ロービーム（ディスチャージヘッドライト）	35
	車幅灯	5
	フロントフォグライト（バルブタイプ：H11）	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯	LED※
	尾灯	5
	後退灯	16
	リヤフォグライト*	21
	ハイマウントストップライト	LED※
	番号灯	LED※
	ドアミラー照明	5
車内	バニティライト	8
	フロントインテリアライト	5

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

電球		W (ワット) 数
車内	リヤインテリアライト	8
	フロントパーソナルライト	LED ※
	リヤパーソナルライト	LED ※
	シフト照明	LED ※
	スカッフプレート照明*	LED ※
	ドアカーテシー照明	5
	足元照明	3.8
	グローブボックスライト	LED ※
	コンソールボックスライト	LED ※

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
RX270	AGL10	1AR-FE (2.7L ガソリン)	FF（前輪駆動）
RX350	GGL10	2GR-FE (3.5L ガソリン)	FF（前輪駆動）
RX350	GGL15 GGL16	2GR-FE (3.5L ガソリン)	AWD（4 輪駆動）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。レクサス販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。
また、マルチインフォメーションスイッチや、ナビゲーションシステムの画面操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

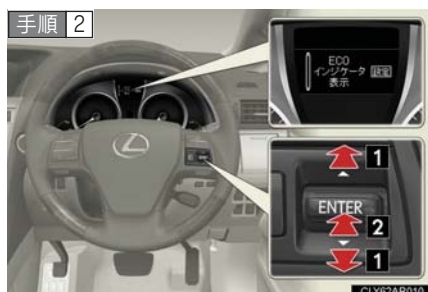
車両カスタマイズ設定をする

マルチインフォメーションスイッチを操作して、お車の装備の設定を変更することができます。※

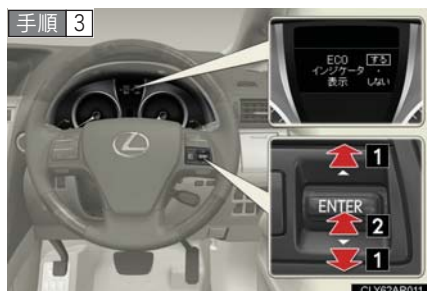
車両のカスタマイズを行うために、安全に操作することができる場所に停車し、シフトレバーをPの状態にしたうえで、パーキングブレーキをかけます。



マルチインフォメーションスイッチのメニュースイッチを長押しすると、カスタマイズモードが表示されます。



- 1 “ENTER” スイッチを上下させてカスタマイズしたい項目を選択
- 2 “ENTER” スイッチを押す



1 “ENTER” スイッチを上下させてカスタマイズする項目の設定値を選択

2 “ENTER” スイッチを押す

カスタマイズ設定を終了する場合はメニュースイッチを押し、カスタマイズ設定画面を終了します。

※ ナビゲーション画面でのカスタマイズ設定の操作は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

車両カスタマイズ設定一覧

- 1 ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能
- 2 マルチインフォメーションスイッチの操作で設定変更可能
- 3 1 の操作が不可能な場合にマルチインフォメーションスイッチの操作で設定変更可能
- 4 レクサス販売店で設定変更可能

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3	4
ドアロック (→P. 42, 333)	メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	—	○
	車速感应式ドアロック	あり	なし	○	—	○	○
	シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠	なし	あり	○	—	○	○
	シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠	あり	なし	○	—	○	○
	運転席を開けたときの全ドア解錠	なし	あり	○	—	○	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3	4
スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック (→P. 29、40)	作動の合図（ブザー）	レベル 7	OFF ~ レベル 6	○	—	○	○
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	—	○	○
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒 120 秒	○	—	○	○
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 29)	解錠ドアの選択	全席	運転席	○	—	○	○
	スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	—	○	○
パワーバックドア (→P. 46)	バックドアオープンスイッチでの作動	なし	あり	—	—	—	○
ワイヤレスドアロック (→P. 40)	解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○	○
ライト自動点灯・消灯システム (→P. 173)	ライトセンサーの感度調整	標準	-2 ~ 2	○	—	○	○
イルミネーション (→P. 224)	消灯までの時間	15 秒	OFF				
			7.5 秒	○	—	○	○
			30 秒				
	ドアミラー照明の点灯時間	15 秒	OFF				
			7.5 秒	○	—	○	○
			30 秒				
	メーター等の明るさを、周囲にあわせ自動減光するセンサーの感度	標準	-2 ~ 2	○	—	—	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3	4
イルミネーション (→P. 224)	自動減光したメーター等の明るさを元にもどすセンサーの感度	標準	-2 ~ 2	○	—	—	○
	足元照明の点灯	あり	なし	—	—	—	○
	接近時のドアミラー照明の点灯	あり	なし	—	—	—	○
エアコン (ナビゲーションシステム取扱書参照)	AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	—	○
	AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C (エアコン) スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	—	○
	排ガスセンサーの感度	標準	-3 ~ 3	○	—	—	○
フロントシート (→P. 56)	降車時の運転席シート移動量調節	標準	OFF	○	—	○	○
			-1	○	—	○	○
エコドライブインジケータランプ (→P. 167)	エコドライブインジケータランプ	ON	OFF	—	○	○	○
マルチインフォメーションディスプレイ (→P. 161)	降車時窓閉め提案	する	しない	—	○	○	○
クリアランスソナー (ナビゲーションシステム取扱書参照)	リヤセンターセンサー報知距離	遠い	近い	○	—	—	○
	ブザーの音量	3	1 ~ 5	○	—	—	○
	表示の切りかえ	すべて表示	ソナー表示なし	○	—	—	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3	4
パワーウィンドウ (→P. 84)	ドアキー連動開閉機能	あり	なし	—	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	—	○
ムーンルーフ (→P. 88)	ドアキー連動開閉機能	あり	なし	—	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能*	なし	あり	—	—	—	○

*: ワイヤレスリモコンでのパワーウィンドウ開閉が可能でなければ設定できません。

知識

■以下の状態になるとカスタマイズモードが自動的に終了します。

- カスタマイズモード画面表示後に警告メッセージが表示された。
- “エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF になった。
- カスタマイズモード画面表示中に走行し始めた。

警告

■ カスタマイズを行うときの警告

エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ カスタマイズを行うときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

初期設定が必要な項目

以下の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行った後などに、システムを正しく動かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
パワーバックドア*	バッテリーの充電・交換後の再接続時	P. 46

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

さくいん

略語一覧	358
五十音順さくいん	359
症状別さくいん	367

ナビゲーションシステムおよびエレクトロマルチビジョンに関わる装備（エアコン・オーディオなど）は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
2WD	2 ホイールドライブ
4WD	4 ホイールドライブ
ABS	アンチロックブレーキシステム
AFS	アダプティブフロントライティングシステム
AI-SHIFT	アーティフィカルインテリジェンスシフト
AWD	オールホイールドライブ
ECT	エレクトリックコントロールドトランスミッション
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
ETC	エレクトロニックトールコレクション
FF	フロントエンジンフロントドライブ
HUD	ヘッドアップディスプレイ
LED	ライトエミッティングダイオード
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
SRS	サプリメンタルレストRAINTシステム
TRC	トラクションコントロール
VDIM	ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

五十音順さくいん

あ	アームレスト	243
	アクセサリーコンセント	238
	アクセサリーソケット	238
	アクティブトルクコントロール 4WD システム	203
	足元照明	224
	アダプティブフロントライティング システム	174
	アンチロックブレーキシステム	203
い	イグニッションスイッチ	142
	イベントデータレコーダー	298
	イルミネーテッドエントリー システム	224
	インストルメントパネル 照度調整スイッチ	156
	インテリアライト スイッチ	225
	インナーミラー	77
う	ウインカー W 数	348
	スイッチ	152
	電球の交換	267
	ウインドウ ウォッシャー	178
	パワーウインドウ	84
	ウインドウロックスイッチ	84
	ウォーニングライト	300
	ウォッシャー 液の補給	287
	スイッチ	178
	タンク容量	347
	冬の前の準備・点検	220

運転	寒冷時の運転	220
	正しい姿勢	106
	手順	134
運転席シートベルト	非着用警告灯	302
え	AWD ロックモードスイッチ	209
エアコン※		
エアバッグ	SRS エアバッグ	108
	一般的な警告	113
	お子さまのための注意	113
	カーテンシールドエアバッグに 関する警告	113
	カーテンシールドエアバッグの 作動条件	110
	改造・分解	116
	警告灯	301
	サイドエアバッグに 関する警告	113
	サイドエアバッグの作動条件 ...	110
	作動条件	109
	正しい姿勢	106
	配置	108
エコドライブモード		148
エレクトリック	パワーステアリング	203
エンジン	イグニッションスイッチ	142
	エンジン回転計	155
	エンジンがかからない	329
	エンジン警告灯	301
	エンジンスイッチ	142
	エンジンルームカバー	265

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

お

オーバーヒート	339
かけ方	142
ボンネット	261
エンジンモビライザーシステム....	99
エンジンオイル	
冬の前の準備・点検.....	220
容量	344
応急用タイヤ	
空気圧	348
スペアタイヤ	319
オーディオ※	
オートアラーム	100
オートマチックトランスミッション	
S モード	150
オートマチックトランス	
ミッション	147
シフトレバーが	
シフトできない	331
オートレベリングシステム	175
オーバーヒート（エンジン）.....	339
オープナー	
給油口	95
バックドア	46
ボンネット	261
お子さまの安全のために	
ウインドウロックスイッチ.....	84
エアバッグに関する警告	113
お子さまのシートベルト着用	72
シートヒーターに関する警告 ...	242
シートベルトコンフォート	
ガイド	70
シートベルトに関する警告	73
チャイルドシート	125
チャイルドシートの固定	125

か

チャイルドプロテクター	43
電子キーの電池に関する	
警告	286
電動サンシェードに関する	
警告	94
バックドアに関する警告	51
バッテリーに関する警告	338
パワーウィンドウに	
関する警告	87
ムーンルーフに関する警告	91
オドメーター	155
カーテンシールドエアバッグ.....	108
外気温表示	162
カスタマイズ機能	350
カップホルダー	230

き

キー	
エンジンスイッチ	142
キー	24
キーナンバー	24
キーレスエントリー	40
キーを無くした	332
電子キー	24
電子キーが正常に働かない	333
メカニカルキー	24
ワイヤレスドアロック	40
給油口	95
緊急時の対処	
エンジンがかからない	329
オーバーヒートした	339
キーを無くした	332
警告灯がついた	300
警告メッセージが表示された ...	304
けん引	294
スタックした	341

シフトレバーが	
シフトできない	331
電子キーが正常に働かない	333
発炎筒	291
バッテリーがあがった	336
パンクした	319
< 空気圧 (タイヤ)	348
区間距離計	155
曇り取りスイッチ※	
クルーズコントロール	
クルーズコントロール	184
レーダークルーズ	
コントロール	188
グローブボックス	228
け 計器	
メーター	155
メーター照度調整ダイヤル	156
警告灯	
SRS エアバッグ	301
アンチロックブレーキ	
システム	301
エンジン	301
シートベルト非着用	302
充電	300
燃料残量	302
パワーステアリング	301
半ドア	302
プリクラッシュセーフティ	
システム	301
プリテンショナー	301
ブレーキ	300
ブレーキアシスト	301
マスターウォーニング	302

警告表示

AFS	305
AWD	305, 309
ウォッシュャー液量	309
エンジンオイル圧力	305
オートマチックトランス	
ミッション油温	305
クリアランスソナー	305, 309
ステアリングロック	305
スマートエントリー&	
スタートシステム	313
電子制御エアサスペンション ...	305
ドア	309
パーキングブレーキ	309
プリクラッシュセーフティ	
システム	305, 309
ブレーキ液量	304
ヘッドライトオート	
レベリングシステム	305
ボンネット	309
ムーンルーフ	309
レーダークルーズ	
コントロール	305, 309
警告ブザー	
シートベルト非着用	302
半ドア	302
ブレーキ	300
化粧用ミラー	237
けん引	294

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

こ

交換

タイヤ	319
電球	267
電子キーの電池	285
ヒューズ	277
工具	319
後退灯	
W 数	348
電球の交換	267
コートフック	244
コンソールボックス	233
コンライト	
(自動点灯・消灯装置)	173

さ

サイドエアバッグ	108
サンシェード	
ルーフ	89, 93
サンバイザー	236

し

シート

シートポジションメモリー	64
正しい姿勢	106
チャイルドシートの固定	125
調整	56, 60
調整に関する警告	59, 62
手入れ	255
ヘッドレスト	67
シートベルト	
お子さまの着用	72
緊急時シートベルト固定機構	71
シートベルト警告灯	302
シートベルト	
プリテンショナー	71

清掃・手入れ	255
正しい着用	69
チャイルドシートの固定	125
調整	69
妊娠中の方の着用	72

室内灯

スイッチ	225
------------	-----

シフト照明	224
-------------	-----

シフトレバー

オートマチックトランス	
ミッション	147
シフトレバーが	
シフトできない	331
シフトロックシステム	331

車高調整

電子制御エアサスペンション ...	197
-------------------	-----

ジャッキ

ガレージジャッキ	263
車載ジャッキ	319
ジャッキハンドル	319

車幅灯

W 数	348
電球の交換	267
ライトスイッチ	173

車両型式	349
------------	-----

車両仕様	344
------------	-----

収納装備	227
------------	-----

助手席シートベルト

非着用警告灯	302
--------------	-----

す	水温計	155
	スイッチ	
	マルチインフォメーション	
	スイッチ	161
	イグニッションスイッチ	142
	ウインドロックスイッチ	84
	エンジンスイッチ	142
	ドアロックスイッチ	42
	ハザードライトスイッチ	293
	パワーウインドウスイッチ	84
	非常点滅灯スイッチ	293
	フォグライトスイッチ	176
	ライトスイッチ	173
	ワイパー&ウォッシャー	
	スイッチ	178, 182
	スイッチモード	
	AFS	174
	エコドライブモード	148
	クリアランスソナー※	
	スノーモード	149
	スカッフプレート照明	224
	スタック	
	スタックした	341
	ステアリングホイール	
	調整	75
	ハンドルポジションメモリー	64
	スノーモード	149
	スピードメーター	155
	スペアタイヤ	
	空気圧	348
	収納場所	319
	スペック	344
	スマートエントリー&スタートシステム	
	エンジンの始動	142
	ドアの施錠・解錠	29
	バックドアの施錠・解錠	29

せ	清掃	
	外装	252
	シートベルト	255
	内装	255
	積算距離計	155
	洗車	252
	前照灯	
	W数	348
	スイッチ	173
	ディスチャージヘッドライトに	
	関する警告	276
	電球の交換	267
そ	速度計	155
た	タイヤ	
	空気圧	348
	交換	319
	スペアタイヤ	319
	チェーン	220
	点検	258
	パンクした	319
	冬用タイヤ	220
	ローテーション	258
	タコメーター	155
ち	チェーン（タイヤチェーン）	220
	チェンジレバー	
	オートマチックトランス	
	ミッション	147
	シフトレバーが	
	シフトできない	331

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

チャイルドシート	
ISOFIX バーでの固定	126
シートベルトでの固定	126
チャイルドプロテクター	43
駐車ブレーキ	153
つ ツール	319
て ディスプレイ	
警告メッセージ	304
トリップインフォメーション	164
レーダークルーズ	
コントロール	188
手入れ	
外装	252
シートベルト	255
内装	255
テールランプ	
スイッチ	173
電球	
W 数	348
交換	267
電子キー	
正常に働かない	333
電池交換	285
電子制御エアサスペンション	197
電動サンシェード	93
と ドア	
ドアガラス	84
ドアミラー	79
ドアロック	29, 40, 42
ドアカーテシーライト	224
ドアガラス	84
ドアポケット	229

ドアミラー	
調整	79
ミラーポジションメモリー	64
ドアミラー照明	
W 数	348
ドアミラー照明	224
盗難警報アラーム	100
盗難防止システム	
エンジンイモビライザー	
システム	99
オートアラーム	100
トノカバー	248
ドライビングポジションメモリー	64
トラクションコントロール	203
トリップメーター	155

な ナビゲーションシステム※	
に 荷物	
積むときの注意	218

ね 燃料	
給油	95
種類	344
燃料計	155
容量	344

は パーキングブレーキ	153
パーソナルライト	
スイッチ	225
ハザードライトスイッチ	293
発炎筒	291
バックアップライト	
W 数	348
電球の交換	267
バックドア	46

バッテリー

- バッテリーがあがった 336
- 冬の前の準備点検 220

バニティミラー 237

バニティライト

- W 数 348
- バニティライト 237

バルブ

- W 数 348
- 交換 267

パワーイーザーアクセスシステム.... 58

パワーウインドウ 84

パワーバックドア 46

パンク

- パンクした 319

ハンドル

- 調整 75
- ハンドルポジション
メモリー 64

ひ

ピークルスタビリティ

- コントロール..... 203

ピークルダイナミクス

- インテグレイテッド

- マネージメント..... 203

非常点滅灯 293

尾灯

- スイッチ 173

ヒューズ..... 277

表示灯 158

ヒルスタートアシスト

- コントロール..... 210

ふ

フォグライト

- W 数 348
- スイッチ 176
- 電球の交換 267

フック

- けん引フック 294
- コートフック 244

冬用タイヤ..... 220

プリクラッシュセーフティ

- システム 212

ブレーキ

- パーキングブレーキ..... 153

ブレーキアシスト 203

フロアマット 245

フロントシート

- シートポジションメモリー 64
- 調整 56
- ドライビングポジション
メモリー 64

フロントターンシグナルライト

- W 数 348

フロントフォグライト

- W 数 348
- スイッチ 176

へ

ヘッドアップディスプレイ 169

ヘッドライト

- W 数 348
- スイッチ 173
- ディスチャージヘッドライトに
関する警告 276
- 電球の交換 267

ヘッドレスト

- 調整 67

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

ほ	ホイール.....	258
	方向指示灯	
	W 数	348
	スイッチ	152
	電球の交換	267
	ホーン	154
	ボンネット.....	261

ま	窓閉め提案モード	165
	マルチインフォメーション	
	ディスプレイ	161

み	ミラー	
	インナーミラー	77
	ドアミラー	79
	バニティミラー	237

む	ムーンルーフ	88
----------	--------------	----

め	メーター	
	インストルメントパネル	
	照度調整スイッチ	156
	メーター	155
	メンテナンス	
	メンテナンスデータ	344

ら	ライト	
	W 数	348
	室内灯	224
	電球の交換	267
	ドアカーテシーライト	224
	パーソナルライト	225
	ハザードライト	293
	バニティライト	237
	非常点滅灯	293
	フォグライト	176

	ヘッドライト	173
	方向指示灯	152

り	Remote Touch ※	
	リヤウインドウデフォッガースイッチ※	
	リヤシート	
	調整	60
	リヤターンシグナルライト	
	W 数	348
	電球の交換	267
	リヤフォグライト	
	W 数	348
	スイッチ	176
	電球の交換	267

れ	冷却水	
	冬の前の準備・点検	220
	容量	346
	冷却装置	
	エンジンオーバーヒート	339
	レーダークルーズ	
	コントロール	188

わ	ワイパー	
	スイッチ	178, 182
	ワイヤレスドアロック	
	電池交換	285
	リモコン	40

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。



タイヤがパンクした

P. 319 パンクしたときは



エンジンがかからない

P. 329 エンジンがかからないときは

P. 99 エンジンイモビライザーシステム

P. 336 バッテリーがあがったときは



シフトレバーが動かない

P. 331 シフトレバーがシフトできないときは



水温計の針が
赤いゾーンに入った

P. 339 オーバーヒートしたときは



エンジンルームから
蒸気が立ちのぼった



キーを無くした

P. 332 キーを無くしたときは



バッテリーがあがった

P. 336 バッテリーがあがったときは



ドアが施錠できない

P. 29
P. 40
P. 42
ドア



ホーンが鳴り出した

P. 100 オートアラーム



ぬかるみや砂地などで
動けなくなった

P. 341 スタックしたときは



警告灯が点灯、点滅した

P. 300 警告灯がついたときは



■警告灯一覧



ABS& ブレーキアシスト
警告灯

P. 301



ブレーキ警告灯

P. 300



燃料残量警告灯

P. 302



SRSエアバッグ/プリテン
ショナー警告灯

P. 301



半ドア警告灯

P. 302



エンジン警告灯

P. 301



充電警告灯

P. 300



運転席シートベルト非着用
警告灯

P. 302



助手席シートベルト非着用
警告灯

P. 302



マスターウォーニング

P. 302



パワーステアリング警
告灯

P. 301



PCS 警告灯

P. 301



警告音が鳴った

■警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージを確認ください。

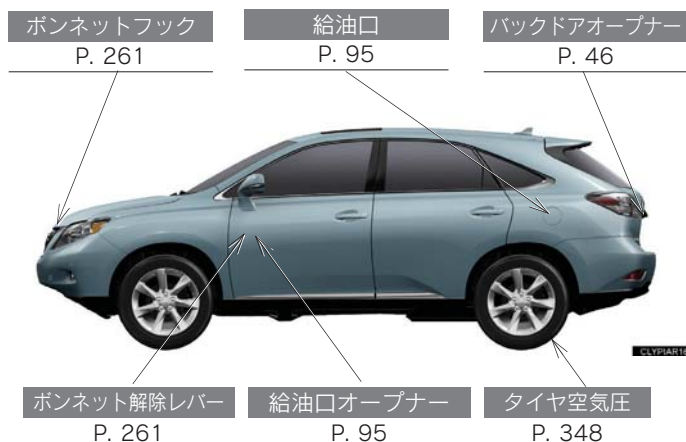
- 警告灯が点灯、点滅している (→P. 300)
- 警告メッセージが表示されている (→P. 304)

■警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 33
	車外に出たとき	
	スマートエントリー&スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 151
	シフトダウンしたとき	P. 151
	レーダークルーズコントロールを使っているとき	P. 188

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量 (参考値)	72 L
燃料の種類	▶ RX270 無鉛レギュラーガソリン ▶ RX350 無鉛プレミアムガソリン (無鉛ハイオク) P. 344
タイヤが冷えているときの空気圧	標準タイヤ : 220 (2.2) kPa (kg/cm ²) 応急用タイヤ : 420 (4.2) kPa (kg/cm ²)
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 RX270 : 4.0 L RX350 : 5.7 L オイルとフィルター交換時 RX270 : 4.4 L RX350 : 6.1 L
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル ・ SM 0W-20 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20) ・ SM 5W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30) ・ SM 10W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30) ・ SL 5W-20 (API SL, EC SAE 5W-20) ・ SL 10W-30 (API SL, EC SAE 10W-30)

「個人情報保護方針」については、<http://lexus.jp> にて掲載しております。

